

栄養学科 1年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		配 当 学 年		備 考	頁
			必 修	選 択	1 年	2 年		
導 科 入 目	1 年次セミナー	演 習	2		○			5
教 養 ・ 基 礎 科 目	日本語リテラシー	講 義		2	○			6
	現代生活論	講 義		2	○			7
	心理学概論	講 義		2	○			8
	食文化論	講 義		2		○		
	基礎化学	講 義		2	○			9
	基礎生物学	講 義		2	○			10
キ ャ リ ア 科 目	ボランティア論 (教育系)	講 義		1	不開講			
	ボランティア論 (福祉系)	講 義		1	○	○		11
	インターンシップ実習	実 習		1	○	○		12
	ボランティア実習	実 習		1	○	○		13
情 報 リ テ ラ シ ー 科 目	情報リテラシー I	演 習		2	○			14
	情報リテラシー II	演 習		2	○			15
外 国 語 科 目	英語コミュニケーション I	演 習		1	○			16
	英語コミュニケーション II	演 習		1	○			17
	英語資格認定 I	実 習		1	○	○		18
	英語資格認定 II	実 習		2	○	○		19
ス ポー ツ 健 康 科 目	スポーツ健康講義	講 義		1	○			20
	スポーツ健康実習	実 習		1	○			21
単 位 互 換 科 目	放送大学科目 I	—		—	○	○	通算して 2 単位まで卒業要件に含む	22
	放送大学科目 II	—		—	○	○		22

【卒業要件】 必修科目 2 単位と選択科目 8 単位を合わせた、計 10 単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

授業科目	授業形態	単位数		学年配当		資格		備考	頁
		必修	選択	1年	2年	栄養士	フード		
社会と健康 生活	公衆衛生学	講義	2		○	◎			
	社会福祉概論	講義		2		○	◎		
	食生活論	講義	2		○		◎ ◎		23
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義		2	○		◎		24
	解剖生理学Ⅱ	講義		2		○	◎		
	病理学	講義		2	○		◎		25
	生化学Ⅰ	講義		2	○		◎		26
	生化学Ⅱ	講義		2	○		※		27
	生化学実験	実験		1		○	◎		
食品と衛生	食品学Ⅰ	講義	2		○		◎ ◎		28
	食品学Ⅱ	講義	2		○		◎ ◎		29
	食品学実習	実習		1		○	◎ ◎		
	食品学実験Ⅰ	実験		1	○		◎ ◎		30
	食品学実験Ⅱ	実験		1		○	◎ ◎		
	食品衛生学	講義	2		○		◎ ◎		31
	食品衛生学実験	実験		1		○	◎		
栄養と健康	基礎栄養学Ⅰ	講義	2		○		◎ ◎		32
	基礎栄養学Ⅱ	講義		2	○		◎		33
	応用栄養学	講義	2		○		◎		34
	応用栄養学実習	実習		1	○		◎		35
	臨床栄養学概論	講義		2		○	◎		
	臨床栄養学実習	実習		1		○	◎		
栄養の指導	公衆栄養学概論	講義		2		○	◎		
	栄養指導論	講義	2		○		◎		36
	栄養指導論実習	実習		1	○		◎		37
	食事摂取基準論	講義		2		○	◎		
給食の運営	給食計画論	講義		2	○		◎		38
	給食実務論	講義		2		○	◎		
	給食献立作成実習	実習		1	○		◎		39
	給食管理実習Ⅰ	実習		1		○	◎		
	給食管理実習Ⅱ	実習		1		○	◎		
	学外実習指導	実習		1		○	◎		
	調理学	講義	2		○		◎ ◎		40
	基礎調理学実習	実習	1		○		◎ ◎		41
	調理学実習Ⅰ	実習	1		○		◎ ◎		42
調理学実習Ⅱ	実習		1		○	◎			
食料経済	講義		2	○			◎		43
統計処理論	講義		2	○					44
栄養情報処理演習Ⅰ	演習		1		○				
栄養情報処理演習Ⅱ	演習		1		○				
フードスペシャリスト論	講義		2	○			◎		45
フードコーディネーター論	講義		2		○		◎		
栄養学特別演習	演習		1		○				

【卒業要件】 必修科目20単位に選択科目32単位を加え、52単位以上修得すること。

【備考1】 栄養士欄およびフードスペシャリスト欄の◎印の科目は、必修科目。

【備考2】 栄養士欄の※印の科目の履修方法は、別に定める内規の要件を参照すること。

【授業科目】 1年次セミナー

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 担当教員 他

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業の目標は、学生生活への円滑な適応ならびに大学における学修の仕方を学び、基礎学力の形成と充実を目指すものである。学生は、この授業を通して本学が示す教育目標と教育内容を理解し、それらと関連づけて在学期間全体を通して主体的に学びうるよう、1年次において「大学での学び」に関わる基礎的知識や技術などを習得する。

【授業の内容及び方法】

- 全学必修の通年科目である。(本学の専任教員全員がこの科目を分け持って担当する。)
- 全学科合同で行う合同セミナー(6回)と、各学科での10人程度のグループによる個別セミナー(ゼミ形式の授業)からなる。個別セミナーの授業内容および回数は、内規に基づき、各グループの担当教員によって決定される。グループによっては、学外での授業も計画されている。
- 授業の内容は次の通りである。
 - ①学生の日常生活における心身の健康と安全への備え
 - ②学科の教育目的・教育目標等の認知
 - ③「読むこと」「書くこと」「発表すること」「議論すること」の力の養成
 - ④学科に即した内容での基礎学力の向上

【授業の計画】

- 合同セミナーは、次の6回である。このうち②～⑤の4回の授業は、外部講師による講演を企画している。
 - ①ガイダンス
 - ②学生の食生活について
 - ③自分の身を守る(心と身体)
 - ④自分の身を守る(防犯面)
 - ⑤悪徳商法等への対処
 - ⑥特別講演

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- 各グループの担当教員から指示された予習・復習の課題については積極的に取り組むこと。授業外の学修時間については各グループでの取り組みによるが、演習科目として0～15時間程度を目安とする。

【履修上の注意・要望等】

全授業回数は、各グループによって異なるので、担当の教員に確認すること。

【評価方法・基準】

1年次セミナーは、他の科目と異なり、認定単位の科目である。セミナー内で課される課題をこなし、かつ、必要な出席時間数が足りている場合に限り、所定の単位が認められる。

【教 材】

1年次セミナー -学びのために- (美作大学・美作大学短期大学部)

【キーワード】

大学生としてのマナー 大学での学び キャリアデザイン タイムマネジメント

【授業科目】 日本語リテラシー

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岸 道康

(自室番号 ***)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、生活の中で言葉が果たす役割を正しく理解し、的確に使っていく能力を培っていきます。これによってレポートや報告書、論文、プレゼンテーションなどの文章を書いたり、人前で発表したりする「伝える力」を高め、社会人になっても通用する自己表現力が身に付くようにします。

【授業の内容及び方法】

講義と演習によって、テーマや種類に沿った日本語の活用方法を学びます。「分かりやすく、面白く、そして深い文章」が書けるよう、特にミニレポートや小論文など実際に書くことに力を入れます。新聞記者だった経験も生かし、実践的な表現力養成講座にしていきます

【授業の計画】

1、言葉の力	文章表現の意義や基礎、表記のルール
2、自己紹介	材料集め、紹介の組み立て
3、好きな食べ物	題材と構成、着想力
4、新聞記事から学ぶ①	不特定多数の読者に対する工夫と知恵、新聞活用術、読み方
5、新聞記事から学ぶ②	簡潔で分かりやすい文章、逆三角形の文章、見出し
6、新聞記事から学ぶ③	「書き出し5行、止め3行」の重要性
7、推敲	文章の整え方、誤字・誤用の修正
8、要約文	要点のまとめ方
9、報告書	出来事の報告書を作成
10、公文書	書式・形式、書き方
11、意見文	新聞記事を利用して、意見文を作成
12、手紙	伝統的な手紙の形式
13、依頼文、礼状	手紙やメールでの書き方
14、随想	柔らかくて、印象に残る文章の書き方
15、座右の銘	自分を支える座右の銘を作る

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日頃から新聞やネットニュース、書物、雑誌などに触れ、活字に親しむ習慣をつける。復習は配布したプリントや授業でのノートを整理する。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

主としてミニレポートや作品を評価対象にするので、未提出がないようにする。文章を書くことは決して楽ではないが、表現する楽しさとともに、社会人になっても通用する文章力を学んでほしい。

【評価方法・基準】

作品・ミニレポート（60%）、発表（20%）、受講態度・意欲（20%）

【教 材】

「書き込み式 日本語リテラシー」横川知之著（大学教育出版）、配布資料

【キーワード】

文章力、伝える力、新聞活用

【授業科目】 心理学概論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 津々 清美

(自室番号 676)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

心理学に関する基礎知識を幅広く学ぶことにより、広い視野と社会人としての基礎的能力を獲得することを目標とする。

- (1)心理学の様々な分野の特徴を知る。
- (2)心理学の様々な分野において見出された知見を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

この授業では、心理学に関する様々な分野から得られたエビデンスに基づく知見を紹介し、それらについて映像やスライド等を通して心理学の基礎的内容を幅広く学んでいく。

【授業の計画】

1. 心理学とは何か ・心はどこにあるのか
2. 心理学の研究法：実験法、観察法、調査法、面接法、検査法など。
3. 感覚と知覚：感覚・知覚の役割とその特徴
4. 記憶(1)：記憶の仕組み
5. 記憶(2)：誤(虚偽)記憶
6. 学習(1)：条件付け学習
7. 学習(2)：学習性無力感, 社会的学習
8. 教育(2)：教授方法
9. 教育(1)：知能と創造性
10. 発達(1)：発達とは
11. 発達(2)：発達に関する理論
12. パーソナリティ(1)：類型論
13. パーソナリティ(2)：特性論
14. 判断と意思決定
15. 対人関係

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予習・復習として、配布・紹介した資料や上記のテーマ及び下記キーワードを基に、各自、図書館等を利用してこれらに関する書籍を読むこと。休日や長期休暇等を利用して授業で学習した内容について概ね30時間程度の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

日頃から自分や他者の行動や考え方等に関心をもち、本講義で学んだことと関連付けながら受講してほしい。

【評価方法・基準】

期末試験(70%), 授業態度・ミニレポート(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

参考文献・資料：無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳(編) よくわかる心理学 ミネルヴァ書房
星薫・森津太子 心理学概論 放送大学教育振興会

【キーワード】

心理学, 感覚と知覚, 記憶, 学習, パーソナリティ, 発達, 教育, 判断と意思決定, 対人関係

【授業科目】 基礎化学

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 鶴崎 実

(自室番号 学長室)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

食品学、栄養学、生化学など栄養士養成カリキュラムの教育内容の多くは、化学の方法を用いて理解を深めることになる。本授業の目的は栄養士養成課程の諸専門科目の基礎として必要不可欠である化学の基礎を身につけることにある。学生は栄養士が果たすべき専門領域に関する基本となる化学の基礎知識を身につける。

【授業の内容及び方法】

基礎化学では、原子、分子の理解を出発点として、モル、化学反応の量的関係、生体内の化学反応をコントロールする酵素の役割やしくみを学ぶ。授業の理解度を、ミニテスト(頻繁に実施する)により確認する。受講者全員の理解をめざす。

【授業の計画】

- (1) 栄養や食品を理解するのに必要な元素名、元素記号を覚える(演習)
- (2) 原子のつくりと各原子の立体的な構造と化学的な性質との関係を知る。
- (3) 周期表と原子の性質。
- (4) 分子の理解：原子と原子はなぜ結合するのか。
- (5) 電気陰性度の意味と共有結合とイオン結合。
- (6) 電気陰性度から分子内の電氣的な偏りを理解。
- (7) 様々な極性分子、無極性分子を知る。
- (8) 水と水素結合。水分子のもつ特性を極性から理解する。
- (9) モルについて、モルの計算(演習)
- (10) 化学反応とは何か(演習)
- (11) 化学反応の量的な関係の理解(演習)。
- (12) 化学反応と活性化エネルギー、触媒の役割
- (13) 生体反応における触媒：酵素について
- (14) 酵素の反応のしくみ
- (15) 酵素の性質、酵素反応の阻害

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

ミニテストを頻繁に行い、理解度を確認するので、復習を徹底する必要がある。理解が足りない(ミニテストで不正解が多い)学生は、問題演習を解答できるようになるまで繰り返す。半期の授業を通して、30時間程度の自主学習、グループ学習を行う必要がある。高校で化学の基礎の理解が進んでいる学生は、グループでの学習において指導的な役割を果たして欲しい。

【履修上の注意・要望等】

- ・ 化学の基礎から応用へ段階的に進行するので、欠席しないように。必修科目ではないが、今後の学習において「基礎化学」の重要性は高いので、化学に不安のある学生は必ず履修すること。
- ・ 学生の理解状況によっては、15回を越えて授業を行う場合がある。

【評価方法・基準】

最終試験の成績で評価する(100%)

【教 材】 プリントを使用する。

【キーワード】 栄養士 化学の基礎 原子と分子 化学反応 酵素

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標：本授業では、生物学についての基礎的な知識を理解することをめざす。

到達目標：基礎レベル（高校程度）での生物学的現象を説明できる。

【授業の内容及び方法】

高校で生物学を学ばなかった人や、十分に理解できていない人もいるものと考えるので、高校生物の復習を兼ねた生物学基礎（細胞、生体、遺伝子、エネルギー情報伝達、成長）について概説する。

【授業の計画】

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1) 生物学の概要 | 生物学における講義内容の説明等 |
| 2) 細胞の構造と生命誕生 | 生命の最小単位生物の誕生と多様化 |
| 3) 生体を構成する物質① | アミノ酸とタンパク質 |
| 4) 生体を構成する物質② | 糖質、脂質、核酸 |
| 5) 1)～4) 授業内容の追加説明および小テスト① | |
| 6) 遺伝子の構造と機能 | DNAの構造とセントラルドグマ、複製、転写、翻訳 |
| 7) 生体とエネルギー | 酵素とATP、解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系 |
| 8) 細胞の分裂・情報伝達・がん化 | 細胞分裂、細胞の分化と情報伝達 |
| 9) 生命体の受精と成長 | 初期発生、アポトーシスと老化 |
| 10) 5)～9) 授業内容の追加説明および小テスト② | |
| 11) 多細胞生物の自己維持機構 | 情報伝達システム、生体維持機構、生体防御機構 |
| 12) 遺伝の仕組みと遺伝病 | 遺伝のしくみ、伴性遺伝と連鎖、ヒトの遺伝病 |
| 13) 生物と環境が作る生態系 | 生態系、生存曲線、物質循環と環境問題 |
| 14) 生物の進化と多様性 | 生物の誕生と進化、系統分類 |
| 15) 生命科学技術と社会 | 遺伝子組み換えとクローン、幹細胞と再生医療 |

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

あらかじめ教科書について予習をすること。復習については、要点を整理して各自記録（ノート作成・スケッチ）すること。日々の予習・復習、スケッチや試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

授業で不明だった点が残らないよう、随時質問等を行い確認すること。また、特に授業中の私語については慎むこと。

【評価方法・基準】

期末試験（20%）、小テスト（40%）、レポート・スケッチ（20%）学習意欲（20%）により評価する。

【教 材】

教科書：やさしい基礎生物学（羊土社）

参考文献：ニューステージ生物図表（浜島書店）、フォトサイエンス生物図録（数研）

【キーワード】

生物、生命、細胞、代謝、遺伝、発生、生活環境

【授業科目】 ボランティア論（福祉系） 【単 位】 1

【学 期】 前期集中 【担当教員】 松尾 彰 （自室番号 ）

【対象学生】 全学科

【授業の目標及び到達目標】

本講義では、ボランティアの性格や意義等について理解を深めるとともに、ボランティア活動が個人の生活にもたらす意味、地域福祉の推進におけるボランティアの役割を知り、実際のボランティア活動への参加につなげることを目標とする。

学生は、ボランティアの性格である自主性、社会性、無償性の意味や役割、活動の意義を理解し、相手の立場になってボランティアを考えることができる。また、自分なりにボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴むことができる。

【授業の内容及び方法】

ボランティアとして自ら考え、活動するための知識と実践力を学ぶ。

ボランティアの自己満足にならないためにも、相手の立場で考えるための視点を学ぶ。

地域でボランティア活動や NPO 法人で仕事している方などを招き、講義を展開する。さらに、グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

【授業の計画】

第1回 ボランティアとは① ボランティアの性格や役割について

第2回 ボランティアとは② 実践者に学ぶボランティアの意義について

第3回 認知症サポーターとは 認知症の理解とボランティア活動への期待について

第4回 擬似体験から学ぶ 車いす・アイマスク体験による構内点検をとおして、相手の立場を知る。

第5回 ボランティアとは③ 実践者に学ぶボランティアから NPO 活動への展開について

第6回 NPO 活動の紹介 実践者に学ぶ地域と大学等との連携から生まれた市内の活動について

第7回 ボランティアとは④ グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

第8回 まとめ グループワークにより、講義をふりかえりながら、“気づき”を大切に、もう一度「ボランティアとは？」という問について考える。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に、自分なりに「ボランティア」について調べておくこと。配布された資料を再読しておくこと。以上に示す予習・復習などの自主学修については概ね 10 時間程度が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

授業は、グループで行う事が多く、自分の意見の発表や討論の機会が多いので、積極的な参加を心がけてください。実践者の方の話は、実際のボランティア活動の経験にたった貴重な内容であり、心構え、特に相手を尊重し、共感するボランティア精神とは何かなどを理解できるよう心がけてください。

【評価方法・基準】

提出課題（60%）、授業態度（40%）

【教 材】

適宜、資料を配布します。

<参考図書>学生のためのボランティア論（大阪ボランティア協会）

編著：岡本 栄一、菅井 直也、妻鹿 ふみ子 他

【キーワード】

自主性 社会性 無償性 NPO 共感 地域福祉

【授業科目】 インターンシップ実習 【単 位】 1

【学 期】 通年 【担当教員】 学科スタッフ

【対象学生】 栄養学科1－2年

【授業の目標及び到達目標】

栄養、食品の生産・加工、および食物調理など将来の就職に関連した研修・体験など、学生にとって将来の進路を考える上で良い経験（職場体験）とする。

【授業の内容及び方法】

栄養学科の専門性と関連のある、あるいは社会的に意義のある、学外での活動や体験を「体験の記録（一週間分）」として体験後2週間以内に担当教員に提出する

【授業の計画】

- 1 「インターンシップ実習」は、栄養学科の専門性と関連のある、あるいは社会的に意義のある、学外での活動や体験を大学での単位として認めるという趣旨に照らして、栄養学科の学生としてふさわしい活動内容について単位を認定するものとする。
- 2 「インターンシップ実習」の単位認定を受けようとする者は、定められた期日までに別に定める様式の履修申請書を栄養学科担当教員に提出するものとする。
- 3 履修申請の時期は体験の2ヵ月前とし、事後申請は認めない。
- 4 「体験の記録（一週間分）」を体験後2週間以内に担当教員に提出する。
- 5 単位認定は、次の各項に示す基準に照らして、学科担当教員が審査し単位を認定する。
 - 1) 上記1の趣旨に合致する内容であること。
 - 2) 単位の申請できる活動は原則として当該年度ののものとするが、内容によっては複数年にわたるものでも認めることがある。
 - 3) 通算して1週間（40時間）程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。

※「インターンシップ実習」は意欲を持って、主体的かつ確実にを行うこととする。なお、当該年次・時期としては、1年次夏期から2年次の長期休業中が望ましい（通常の開講日における体験や、他の授業の公欠は原則として認めない）。また、就職先を選択する上で「インターンシップ実習」を希望する場合は単位認定を認めない。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習先の業務内容に関して実習開始一週間前までに当該施設と打ち合わせを行い、実習日毎に小括を行うこと。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。休日や長期休業期間などを利用して体験する内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

履修方法は「インターンシップ実習」単位認定に関する栄養学科内規、履修申請方法による。

【評価方法・基準】

「体験の記録（一週間分）」の評価を80%、学習態度20%により総合的に評価する。合格であれば1単位が与えられ、成績通知書には「認定」と記載される。

【教 材】

必要に応じて指示する。

【キーワード】

職場体験 栄養士 業務内容

【授業科目】 ボランティア実習

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 学科スタッフ

【対象学生】 栄養学科1－2年

【授業の目標及び到達目標】

栄養学科の学生としてふさわしい内容のボランティア活動を行い、地域社会の関わりの中から得られた体験を栄養士資質養成の一助とする。

【授業の内容及び方法】

栄養学科の専門性と関連のある、あるいは社会的に意義のある、学外での活動や体験を「体験の記録（一週間分）」として体験後2週間以内に担当教員に提出する。

【授業の計画】

- 1 「ボランティア実習」は、栄養学科の専門性と関連のある、あるいは社会的に意義のある、学外での活動や体験を大学での単位として認めるという趣旨に照らして、栄養学科の学生としてふさわしい活動内容について単位を認定するものとする。
- 2 「ボランティア実習」の単位認定を受けようとする者は、定められた期日までに別に定める様式の履修申請書を栄養学科担当教員に提出するものとする。
- 3 履修申請の時期は体験の2ヵ月前とし、事後申請は認めない。
- 4 「体験の記録（一週間分）」を体験後2週間以内に担当教員に提出すること。
- 5 単位認定は、次の各項に示す基準に照らして、学科担当教員が審査し、単位を認定する。
 - 1) 上記1の趣旨に合致する内容であること。
 - 2) 単位の申請できる活動は原則として当該年度のものとするが、内容によっては複数年にわたるものでも認めることがある。
 - 3) 通算して1週間（40時間）程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。

※「ボランティア実習」は意欲を持って、主体的かつ確実に行うこととする。なお、当該年次・時期としては、1年次夏期から2年次の長期休業中が望ましい（通常の開講日における体験や、他の授業の公欠は原則として認めない）。また、就職先を選択する上で「ボランティア実習」を希望する場合は単位認定を認めない。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習先の業務内容に関して実習開始一週間前までに当該施設と打ち合わせを行い、実習日毎に小括を行うこと。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。休日や長期休業期間などを利用して体験する内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

当該活動が①公共の福祉に資すること、②自発性に基づくこと、③無報酬であることという『ボランティアの三原則』に基づくものであること。履修方法は「ボランティア実習」単位認定に関する栄養学科内規、履修申請方法による

【評価方法・基準】

「体験の記録（一週間分）」の評価を80%、学習態度20%により総合的に評価する。合格であれば1単位が与えられ、成績通知書には「認定」と記載される。

【教 材】

必要に応じて指示する。

【キーワード】

ボランティア 栄養士 業務内容

【授業の目標及び到達目標】

今日の情報化社会ではコンピューターを使いこなす技術は必須となっている。本授業では、これからの学生生活で必要になる基礎的な情報処理技術や情報モラルの知識の習得をめざす。本科目を履修することにより、社会人として必要な文章作成、表計算、発表資料作成ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

授業は演習スタイルで行う。最も代表的なソフトである Word, Excel, PowerPoint の基本的な操作法をテキストの練習問題を中心に実践するとともに、ネット社会に必要な情報モラルとセキュリティーについても概説する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション：コンピューターの操作、Windows の基礎
2. 文字入力の基礎練習(タッチタイピング)、ファイル・データの管理
3. Word：文字の入力、変換、書式、表の作成、ワードアート、図の挿入
4. Word：レポート作成（1） ページ設定、ヘッダー、フッター、画像の挿入
5. Word：レポート作成（2） Excel の表・グラフの挿入、引用の方法、文章校正
6. メールの使い方：マナー、署名、添付ファイル、アドレス帳、cc と bcc の違い
7. PowerPoint：スライド作成の基礎、箇条書き、表の編集、
8. PowerPoint：ワードアート、Excel の表の挿入
9. PowerPoint：画面切り替えの効果、アニメーションのつくり方、
10. Excel：表の作成、効率よいデータ入力、表の書式編集、罫線
11. Excel：数式の入力、基本関数（SUM, Average, if 文）、相対参照と絶対参照
12. Excel：円グラフ、棒グラフ等の作成、データの並べ替え、印刷の方法
13. 情報検索：インターネットを用いた情報収集
14. セキュリティー：コンピューターウイルス対策、パスワード管理、不正アクセス防止
15. 情報モラル：著作権、個人情報保護、ネットコミュニケーション

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業で学習した内容は、テキストを見なくてもできるように復習すること。特に文字入力の不慣れな学生は、空き時間を利用して十分に練習を行うこと。課題作成で約 30 時間の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

パソコンの初心者向けの内容になっている。高校の内容と重複するが復習のつもりで受講すること。

【評価方法・基準】

期末試験(30%)、提出課題(40%)、タイピング練習(10%)、受講態度(20%)

【教 材】

教科書： イチからしっかり学ぶ! Office 基礎と情報モラル Office2016 対応 (noa 出版)
2018 年度版 情報倫理ハンドブック (noa 出版)

【キーワード】

ワード、エクセル、パワーポイント、情報セキュリティー、情報モラル、ネットコミュニケーション

【授業科目】 情報リテラシーⅡ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 下池 洋一

(自室番号 225-2)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

これからの栄養士にとって、コンピューターを活用した情報処理は必須である。本授業では将来必要になるデータ処理技術の基礎の習得をめざす。本授業を履修することにより、最も代表的なソフトであるエクセルを用いた表計算、グラフ作成およびデータ分析ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

授業は演習スタイルで行う。エクセルの基本的な操作方法をテキストの練習問題を中心に実践する。また、授業で学んだ技術を応用して、アンケート結果の集計を行う。

【授業の計画】

1. 基礎編①： エクセルの機能の紹介、文字・数値入力法
2. 基礎編②： データの移動、複写、オートフィル、挿入、削除
3. 表の作成①： 関数の利用（1）SUM 関数、Average 関数、MAX 関数、MIN 関数など
4. 表の作成②： 関数の利用（2）IF 関数、AND 関数、OR 関数など
5. 表の作成③： 表の編集、表示形式、罫線、列、行幅の設定
6. 表の作成④： 条件付き書式、入力規制など
7. グラフ作成①： 円グラフ、棒グラフの作成
8. グラフ作成②： グラフの編集
9. グラフ作成③： より高度なグラフ(複合グラフ、第2軸など)
10. データ分析①： データベース、並べ替え、抽出
11. データ分析②： 度数分布とヒストグラム
12. データ分析③： ピボットテーブルの基礎 目的にあったデータの抽出法
13. データ分析④： ピボットテーブルの応用 リストの作成、実践ドリル
14. 応用編①： アンケート集計をする（1）アンケートの方法とデータ入力
15. 応用編②： アンケート集計をする（2）アンケートの結果の解析、グラフ作成

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業中に習った操作方法は、テキストを見なくてもできるように、繰り返し実践すること。特に、パソコンの経験の少ない学生は、空き時間を利用して十分に復習すること。課題作成で約30時間の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

エクセル初心者向けの内容になっているので、高校での既修者は基礎固めとして授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

試験(50%)、提出課題(30%)、授業態度(20%)

【教 材】

教科書： 繰り返して慣れる！ 完全マスター Excel2016

参考文献： イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Office2016 対応 (noa 出版)

【キーワード】

エクセル、表計算、グラフ、ピボットテーブル、アンケート集計

【授業科目】 英語コミュニケーション I 【単 位】 1

【学 期】 前 期 【担当教員】 大谷シヨーン (自室番号)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

The aim of this course is to improve the students' vocabulary and increase their ability to confidently use English everyday communication.

【授業の内容及び方法】

I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

【授業の計画】

1. Introductions
 2. People
 3. Occupations, countries and nationalities
 4. Work, rest and play
 5. Daily activities, celebrations and festivals
 6. Going places
 7. Travel preparations and stages
 8. Food
 9. Food groups, diets
 10. Sports
 11. Doing, team and individual sports
 12. Destinations
 13. Travel activities
 14. Presentation 1
 15. Review
-

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

Students should expect to do between 10-15 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

【履修上の注意・要望等】

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

【評価方法・基準】

Attendance and participation: 25%

Presentation: 25%

End of semester Examination: 50%

【教 材】

World English 1. Second Edition. ISBN: 9781305089549. (National Geographic Learning/Cengage Learning)

【キーワード】

Vocabulary, confidence, communication, success.

【授業科目】 英語コミュニケーションⅡ 【単 位】 1

【学 期】 後 期 【担当教員】 大谷ショーン (自室番号)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

The aim of this course is to improve the students' vocabulary and increase their ability to confidently use English everyday communication.

【授業の内容及び方法】

I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

【授業の計画】

1. Summer vacation review
 2. Communication
 3. Electronics, the senses
 4. Moving forward
 5. Short- and long-term plans, weather
 6. Types of clothing
 7. Clothing and clothing materials
 8. Lifestyles
 9. Healthy and unhealthy habits
 10. Achievements
 11. Chores, personal accomplishments
 12. Consequences
 13. Personal finance, animal habits
 14. Presentation 2
 15. Review
-

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

Students should expect to do between 10-15 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

【履修上の注意・要望等】

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

【評価方法・基準】

Attendance and participation: 25%

Presentation: 25%

End of semester Examination: 50%

【教 材】

World English 1. Second Edition. ISBN: 9781305089549. (National Geographic Learning/Cengage Learning)

【キーワード】

Vocabulary, confidence, communication, success.

【授業科目】 英語資格認定 I

【単 位】 1

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定 I の認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	2 級
TOE I C	430 点以上
TOE F L-P B T	450 点以上
TOE F L-i B T	45 点以上
国連英検	C 級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格 II に利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は 1 回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ：<http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 英語資格認定Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定Ⅱの認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	準1級以上
TOEIC	650点以上
TOEFL-PBT	550点以上
TOEFL-iBT	79点以上
国連英検	B級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格Ⅰに利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は1回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ：<http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 スポーツ健康講義

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 谷口 陽子

(自室番号 G2)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は「個人による健康の実現」のために行う。

健康の実現のために主体的に取り組むことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

健康の概念、運動処方について概説する。

【授業の計画】

- 1 健康の概念
- 2 体力測定と評価
- 3 生活習慣病
- 4 肥満
- 5 運動処方
- 6 トレーニング法
- 7 運動と心の健康
- 8 ストレスマネジメント

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業後、大学生活での健康管理に役立てること。この授業を履修するにあたり概ね 8 時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

科目の性質上「スポーツ健康実習」と両方を受講することが望ましい。

【評価方法・基準】

筆記試験 90%、授業態度 10%

【教 材】

必要に応じてプリントを配布する。参考文献：『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院

【キーワード】

健康 体力 運動 ストレス

【授業科目】 スポーツ健康実習

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 谷口 陽子

(自室番号 G2)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、各種目の魅力を知り、運動後の爽快感を体感することである。
様々なスポーツ体験を通して、自分に合った生涯スポーツの発見を心がけるようになる。

【授業の内容及び方法】

球技3種目と野外活動の実技を行う。

【授業の計画】

1	オリエンテーション	13	バレーボール・フォーメーション練習A・試合
2	バドミントン・基本	14	バレーボール・フォーメーション練習B・試合
3	バドミントン・ダブルスのルール・サーブ	15	バレーボール・試合
4	バドミントン・スマッシュ・試合	16	スキー・ボード実習ガイダンス
5	バドミントン・ヘアピン・試合	17	スキー・ボード 基本 立ち方起き上がり方
6	バドミントン・ドロップショット・試合	18	スキー・ボード 基本 止まり方
7	バドミントン・サーブ・試合	19	スキー・ボード 基本 滑り方
8	バドミントン・試合	20	スキー・ボード 基本 リフトの乗り降り
9	バスケットボール・試合1回戦	21	スキー・ボード リフトを利用する
10	バスケットボール・試合2回戦	22	スキー・ボード フリー滑走 グレンデ1
11	バレーボール・基本・チーム分け	23	スキー・ボード フリー滑走 グレンデ2
12	バレーボール・スパイク・試合		

【授業外の学修（予習・復習の指示、学習時間など）について】

授業後の大学生活で運動の機会に積極的に参加すること、運動を習慣化していくこと。空き時間などを利用して概ね毎週1時間の自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

科目の性質上「スポーツ健康講義」の両方を受講することが望ましい。

【評価方法・基準】

受講態度60%、実技テスト20%、チーム等への貢献度20%

【教 材】

必要に応じてプリントを配布する。参考文献：『バレーボールの授業づくり』大修館書店 他

【キーワード】

スポーツ バドミントン バスケットボール バレーボール スキー スノーボード

【授業科目】 放送大学科目Ⅰ・Ⅱ

【単 位】

【学 期】 集 中

【担当教員】 長谷川 勝一

(自室番号 341)

【対象学生】 全学年 全学科

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、放送大学との協定により本学の学生が受講可能な科目を通じて、多様な今日的課題に対する関心に答えることを目標とします。学生は、放送大学で提供されている授業科目から大学人として必要な教養を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容及び方法】

放送大学の授業科目は、“生活と福祉”、“発達と教育”、“社会と経済”、“産業と技術”、“人間の探究”、“自然の理解”の6専攻に分かれており、人文・社会・自然・産業などの幅広い分野の科目が開設されています。自分の興味に応じて受講してください。

放送大学の授業は、テレビ又はラジオ、インターネットで行われる放送授業と印刷教材で進められます。再視聴することができるので、自分の生活リズムにあわせて学習することができます。

【授業の計画】

出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

放送大学の科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。概ね授業時間と同程度の時間（2単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

放送大学の「科目履修生」として、20名程度を受け入れます。

【評価方法・基準】

所定の単位数を認定します。

なお、この科目の単位認定は、放送大学で開講されている科目の単位を、本学の修得単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです。

【教 材】

履修科目による

【キーワード】

なし

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、食生活の変遷や現状と課題を理解し、これらの現状に栄養士としての的確に対処して、健康の増進や QOL(生活の質)の向上をめざす食生活が送れるように食生活全般にかかわる基礎的知識と栄養士の役割を修得することをめざす。

栄養士の役割、栄養士業務を理解し、望ましい食生活のあり方や職業意識を高めることができる。

【授業の内容及び方法】

食生活の変遷や食文化、食の安全性など健康であるための食に関する基礎的知識、現代の栄養の諸問題と栄養士の役割、活動分野を学ぶ。授業方法は、テキスト及び配布資料などを使用し、講義形式で展開する。

【授業の計画】

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| 1. 食生活の概念 | 食生活とは 食生活の意義、食行動 |
| 2. 食生活の変遷 | 食生活の変化とその要因 |
| 3. 食生活と教育① | 栄養士制度の沿革、栄養士業務の専門性 |
| 4. 食生活と教育② | 栄養士の活動分野と就業状況 |
| 5. 食生活と栄養① | 食品群別栄養成分の特徴・意義、 |
| 6. 食生活と栄養② | 栄養素摂取状況、食品構成、食品成分表の活用 |
| 7. 食生活と健康① | 栄養状態の評価、国民健康栄養調査、疾病構造 |
| 8. 食生活と健康② | 食生活の目標と指針 食生活指針・食事バランスガイド等の活用 |
| 9. 食生活と健康③ | 社会環境の現状と課題 |
| 10. 食生活と健康④ | 健康増進対策 |
| 11. 食生活と環境① | 法律、ライフステージ別食生活の特徴と役割(妊娠期～高齢期) |
| 12. 食生活と環境② | 食品表示の活用、食品の安全性 |
| 13. 食生活と環境③ | 食料需給の動向、国際比較 |
| 14. 食生活の現状と展望 | 世界の食文化・食習慣、日本型食生活、食教育・健康教育 |
| 15. まとめ | |

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

食文化の変遷や食に関する諸問題についてメディアからの情報に関心をもつこと。

自分の食生活を見直すこと。この授業を履修するには、30 時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

配布された資料は、必ず再読すること。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って受講することを希望する。

【評価方法・基準】

試験(80%)、提出課題(10%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト: なし *適宜プリント配布 参考文献: 「食生活論」岡崎 光子編著(光生館)

【キーワード】

食生活 食文化 食心理 食環境 栄養

【授業の目標及び到達目標】

- 生命のいとなみについて考えることで、生きているとはどういうことなのか、また生きているためには体の中でどのようなことが営まれているのかについて理解を深めることを目標とする。
- 栄養士として必要なヒトの体の基本的な構造および機能に加え、各器官および器官系の主要疾患の基礎的知識について理解することを目標とする。

【授業の内容及び方法】

教科書の要点を板書、配布プリント等により説明する。DVD を使用した講義も行う (2 回程度)。

【授業の計画】

1. 生命誕生の起源 生命は海から生まれた
2. 細胞って何だ? 1 人体の構成と生命活動/細胞
3. 細胞って何だ? 2 遺伝子と遺伝情報/組織/器官と器官系
4. 流れる・運ぶ 1 循環器系とは/心臓
5. 流れる・運ぶ 2 血管系/血液循環と循環調節/リンパ系
6. 流れる・運ぶ 3 血液の成分と機能
7. 流れる・運ぶ 4 止血機構/血液型
8. 流れる・運ぶ 5 体液とは/体液の調節
9. 呼吸する 1 呼吸器系とは/気道/肺
10. 呼吸する 2 呼吸機能の調節
11. 呼吸する 3 ガス交換/呼吸性アシドーシス/呼吸性アルカローシス
12. 食べる 1 消化器系とは/消化管/付属器官
13. 食べる 2 咀嚼・嚥下/消化と吸収
14. 食べる 3 物質代謝とエネルギー代謝
15. 食べる 4 栄養とエネルギー/物質代謝

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

講義前には、教科書の該当範囲を予習し、講義後は配布プリントや教科書をもとに自主学修を行い、専門語句や概念の理解と記憶に努めること。この講義を履修するに当たり、概ね 30 時間の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

講義中は、板書した事柄以外にも気になったことや気づいたことなどをノートにまとめることを勧める。

【評価方法・基準】

定期試験の結果 (70%) を第一義とし、提出課題 (20%)、学習態度 (10%) も加味して評価を行う。

【教 材】

教科書: 解剖生理をおもしろく学ぶ 著者/増田敦子 (株式会社サイオ出版)

参考資料: ・標準生理学(第8版) 監修:小澤濤司/福田康一郎 編集:本間研一/大森治紀/
大橋俊夫/河合康明/黒澤美枝子/鯉淵典之/伊佐正 (医学書院)
・ぜんぶわかる人体解剖図一系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説 坂井建雄/
橋本尚詞 (成美堂出版)

【キーワード】

解剖学、生理学、細胞・組織・器官・器官系、循環器系、リンパ系、血液、消化器系、消化・吸収

【授業科目】 病理学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 貫名 慈見

(自室番号 678)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では 健康・医療・福祉に関わる学生に必要な医学的知識を習得することを目指す。

学生は疾病成り立ちの基本的な機構を理解できるようになることを目指す。

【授業の内容及び方法】

病気の成り立ちを身体の構造と機能も加えながら、教科書に沿って授業を進めていく。適宜プリントも加えていく。

【授業の計画】

1. はじめに 病気、老化、死と病理学
2. 細胞障害、再生
3. 炎症
4. 免疫とアレルギー
5. 循環障害 (1) 充血・うっ血・虚血・梗塞、出血・凝固
6. 循環障害 (2) 浮腫、ショック、高血圧
7. 先天異常、遺伝疾患
8. 感染症
9. 環境因子、栄養
10. 腫瘍
11. 生活習慣病、代謝疾患
12. 難病、代謝障害
13. 老年症候群
14. 各論 循環器、呼吸器、消化器
15. 各論 血液、内分泌、神経

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学習時間など) について】

身体の構造や機能、さらに疾病については、はじめて学ぶことが多いと考えられる。食と医は関係の深いところがあるのでしっかり学んで欲しい。特に復習に力を入れて欲しい。概ね30時間程度の自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

平素から身近にある病気、健康、栄養に関心を持つように努めてもらいたい。そして自分の健康にも役立ててもらいたい。

【評価方法、基準】

定期試験 (80%)、受講態度・学習意欲など (20%)、により総合評価する。

【教 材】

深山正久編『はじめの1歩の病理学 (第2版)』羊土社。

【キーワード】

病気の成り立ち、腫瘍、炎症、循環障害、代謝障害、老化

【授業科目】 生化学 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 渡邊 理江

(自室番号 662)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は生体成分の基礎知識と栄養素の代謝経路を学ぶことを目的とし、本科目を履修することにより、生体内における栄養素の代謝反応を理解する能力が身につく。

【授業の内容及び方法】

栄養学への導入のための授業として、細胞の基本知識・細胞を構成する成分・五大栄養素の基礎・糖質と脂質の基礎的な代謝反応を概説する。授業は、教科書とプリントを併用しながら行われる。プリントは授業初めにその都度配布する。

【授業の計画】

1. 序論と栄養素のアウトライン
2. 人体の構成：細胞の構造と機能
3. 糖質の化学：糖質の構造と機能
4. 脂質の化学：脂質の構造と機能
5. タンパク質の化学：アミノ酸・たんぱく質の構造と機能
6. 核酸の化学：核酸の構造と機能
7. ビタミン・ミネラル 1：脂溶性ビタミン
8. ビタミン・ミネラル 2：水溶性ビタミン
9. ビタミン・ミネラル 3：骨代謝に関わる栄養素・その他のミネラル
10. 酵素化学の基礎：酵素活性の調節
11. 糖質代謝 1：解糖系・TCA 回路と電子伝達系・糖新生・ペントースリン酸回路
12. 糖質代謝 2：血糖調節
13. 脂質代謝 1：脂質の生体内輸送と生体のエネルギー源・糖質代謝とのクロストーク
14. 脂質代謝 2：コレステロール代謝・エイコサノイド代謝
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に教科書に目を通して疑問点を調べておく。また、授業で説明したプリント図表を自分で説明出来るように試みる。自主学修（復習）は必ず行う。休日や長期休業期間などを利用して少なくとも 30 時間の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

分からないこと・疑問点はすぐに質問する。

【評価方法・基準】

受講態度 20%、試験 80%

【教 材】

教科書 : エキスパート管理栄養士養成シリーズ 生化学 第 2 版 化学同人、プリント

参考文献 : 栄養科学イラストレイテッド 生化学 羊土社、Visual 栄養学テキスト 生化学 中山書店

【キーワード】

生化学、分子生物学、分子栄養学、基礎栄養学

【授業の目標及び到達目標】

生化学 I に引続く栄養素の代謝反応や遺伝子情報・生体内応答反応を学ぶことを目的とし、本科目を履修することにより、栄養学の理解に必要な生体内の代謝や物質動態反応を理解する能力が身につく。

【授業の内容及び方法】

栄養学への導入のための授業として、タンパク質の基礎的な代謝・五大栄養素の代謝・生体防御機構・生体生理機能・生活習慣病に関わる反応経路を概説する。授業は、教科書とプリントを併用しながら行われる。プリントは授業初めにその都度配布する。

【授業の計画】

1. 序論・代謝のアウトライン
2. 糖質の代謝とその制御 1 : 解糖系・TCA 回路と電子伝達系・糖新生
3. 糖質の代謝とその制御 2 : グリコーゲン代謝・血糖調節
4. 脂質の代謝とその制御 1 : 脂質の生体内輸送と生体のエネルギー源・糖質代謝とのクロストーク
5. 脂質の代謝とその制御 2 : コレステロールとエイコサノイドの代謝
6. タンパク質代謝 1 : 窒素代謝・炭素骨格代謝・アミノ基転移反応
7. タンパク質代謝 2 : 尿素回路・アミノ酸の代謝・糖質や脂質の代謝とのクロストーク
8. 活性酸素：酸化ストレス・ビタミンの抗酸化作用・老化
9. 遺伝子情報と発現：転写・翻訳・遺伝子多型・再生医療
10. ビタミン・ミネラルの機能 1 : 脂溶性ビタミン・水溶性ビタミンの機能
11. ビタミン・ミネラルの機能 2 : ミネラルの機能
12. 生体機能 1 : 水や電解質の代謝
13. 生体機能 2 : 情報伝達の機構・骨やカルシウムの代謝調節
14. 生体防御機構・肥満の分子機構：免疫・食物アレルギー・儉約遺伝子
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に教科書に目を通して疑問点を調べておく。また、授業で説明したプリント図表を自分で説明出来るように試みる。自主学修（復習）は必ず行う。休日や長期休業期間などを利用して少なくとも 30 時間の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

分からないこと・疑問点はすぐに質問する。

【評価方法・基準】

受講態度 20%、試験 80%

【教 材】

教科書 : エキスパート管理栄養士養成シリーズ 生化学 第 2 版 化学同人、プリント

参考文献 : 栄養科学イラストレイテッド 生化学 羊土社、Visual 栄養学テキスト 生化学 中山書店、
エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 化学同人

【キーワード】

生化学、分子生物学、分子栄養学、基礎栄養学、代謝反応、生体機能

【授業科目】 食品学 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

栄養士が果たすべき専門領域に関する能力を養い、栄養士に必要とされる知識、及び考え方の総合的能力を身につける。本授業では人体が食品として取り込む各成分の分類、構造、化学的・生理的性質について述べ、特有の構造を原因とする反応等から食品の性質を理解し、栄養的な価値ばかりではなく、嗜好の面からも食品をとらえられるようになることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

講義を主とするが、途中模擬試験や模擬試験解説を行い、教員による学生の理解度の把握も行う。

【授業の計画】

- (1) 食品成分の分類：五大栄養素の分類とその働きに関して学ぶ
- (2) 水分：自由水・結合水の性質に関して学ぶ
- (3) アミノ酸：タンパク質の最小単位の性質を学ぶ
- (4) タンパク質：高分子であるタンパク質ならではの性質を学ぶ
- (5) 油脂：食品中における油脂成分の変化に関して学ぶ
- (6) 炭水化物：食品中の炭水化物の特徴について学ぶ
- (7) 核酸：食品中の核酸の特徴について学ぶ
- (8) ビタミン：各ビタミンの所在とその特徴について学ぶ
- (9) ミネラル：各ミネラルに関してその所在とその特徴について学ぶ
- (10) 呈色・呈味成分：色素や呈味成分に関して学ぶ
- (11) 香気成分・有害成分：揮発成分や有害成分に関して学ぶ
- (12) 食品の成分間反応：食品成分同士の反応に関して学ぶ
- (13) 食品の物性：食品の味覚に深く関わる物理的性質に関して学ぶ
- (14) 官能検査：食品の評価法に関して学ぶ
- (15) 食品成分表について：食品成分それぞれの分析法と、分析値の示す物に関して理解する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたっては概ね 30 時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

日々の食生活において接する食材の一般成分を教材に、その性質を意識しながら過ごすこと。

【評価方法・基準】

8 回目終了後に行う中間試験得点 40%、期末試験得点 40%、学習態度 20%により総合的に評価する。

【教 材】

食品学総論（新 食品・栄養科学シリーズ：化学同人）

【キーワード】

食品成分 熱量素 カロリー 栄養素

【授業科目】 食品学Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

栄養士が果たすべき専門領域に関する能力を養い、栄養士に必要とされる知識、及び考え方の総合的能力を身につける。本授業では食品を植物性と動物性とに大別し、各食品群について分類・特徴・利用等を理解できるようになるとともに、各食品の栄養性の認識を深め、献立作成力を向上させることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

講義を主とするが、途中模擬試験や模擬試験解説を行い、教員による学生の理解度の把握も行う。

【授業の計画】

- (1) 穀類1：米の特徴を学ぶ。
- (2) 穀類2：麦類、トウモロコシ、その他の雑穀に関して学ぶ。
- (3) イモ類：芋類の共通点と個々の芋類で異なる点を学ぶ。
- (4) 豆類：豆類の植物的特性と、種子に蓄えるエネルギー源に関して学ぶ。
- (5) 野菜類1：葉菜類、掲載類に関して学ぶ。
- (6) 野菜類2：果菜類、根菜類に関して学ぶ。
- (7) 果実類：果菜類との違いを理解し、個々の果物の特徴を学ぶ。
- (8) 中間試験・解説：理解度の把握を行う乳・卵類
- (9) キノコ類・藻類：陸上独立栄養生物との違いを学び、個々の特徴を理解する。
- (10) 調味料・嗜好食品：甘味料・塩味料などに関して学ぶ。
- (11) 油脂食品：油分の抽出法とその性質を学ぶ。
- (12) 食肉：鳥獣肉の性質を学ぶ。
- (13) 魚介類：鳥獣肉との共通点、および相違点に関して学ぶ。
- (14) 乳類：牛乳の規格や乳製品に関して学ぶ。
- (15) 卵類：卵の性質や鮮度判定法などに関して学ぶ。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたっては概ね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

日々の食生活において接する食材の一般成分を教材に、その性質を意識しながら過ごすこと。

【評価方法・基準】

8回目終了後に行う中間試験得点40%、期末試験得点40%、学習態度20%により総合的に評価する。

【教 材】

Visual 栄養学シリーズ・食品学各論（中山書店）

【キーワード】

食品群 動物性 植物性 生物価 アミノ酸価

【授業科目】 食品学実験 I

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では食品という身近な試料を用いて、実験操作を通して自分の目と手で実際に経験し、理解を深めることを目的としている。また本授業は実験を行うことにより実験操作の要点を把握、正しい器具の取り扱い方を学び、実験への興味、関心を持たせ、食品に対する理解を深めることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

グループで試薬調製を始めとする実験を行い、濃度計算や実験結果の評価を行う。

【授業の計画】

- (1) ガイダンス：受講上の注意、安全確保のための注意、講義スケジュールの説明
- (2) 水分の定量：定圧加熱乾燥法によりレタス中の水分を測定する
- (3) 灰分の定量：乾式灰化法によりしらす干しの灰分を測定する
- (4) タンパク質の定性：卵白のビウレット反応およびニンヒドリン反応を観察する
- (5) 糖類の定性：ブドウ糖・ショ糖のフェーリング反応・モーリッシュ反応を観察する
- (6) ビタミンB₁・B₂の定性実験：強化米のビタミンB₁・B₂を蛍光下で観察する
- (7) 色素に関する実験：ナスニンのpHによる色の変化の観察、およびブドウ糖とグリシンのアミノカルボニル反応を観察する)
- (8) タンパク質の定量：Lowry法によりスキムミルク、および乳性飲料中のタンパク質量を定量する
- (9) 糖質の定量：ソモギー法により清涼飲料水中の糖量を定量する
- (10) コレステロールの定量：ZAK-HENLY法によりマヨネーズ中のコレステロール量を定量する
- (11) 鉄分の定量：国際標準法によりレバー中の鉄分量を定量する
- (12) 脂質の定量：ソックスレー脂肪抽出法により黄粉中の脂肪量を定量する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

本授業は食品学Ⅱの内容を受けての展開となるため、受講前に当該科目を復習しておくこと。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

危険防止のため、白衣着用・タオルの携帯を義務づける。また任意で眼鏡・ゴーグルなどの着用を推奨する。

【評価方法・基準】

受講態度50%、レポート50%により総合的に評価する。

【教 材】

栄養学を学ぶヒトのための食品学実験（地人書館）

【キーワード】

食品成分表 定量 定性 濃度 mol %

【授業科目】 食品衛生学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 山口 仁孝 (自室番号：664)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標：食の安全について理解し、飲食に起因する健康被害を予防するための知識の習得をめざす。

到達目標：栄養士必須科目である本授業を通じ、食の安全を確保するための衛生上の幅広い施策を説明できる。

【授業の内容及び方法】

食品衛生関連法規、食品の腐敗と防止、食中毒、衛生管理対策をはじめ、近年の食品偽装や輸入食品、遺伝子組み換え食品問題などの事例について概説する。

【授業の計画】

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1) 食品衛生学総論 | 関連法規および行政、食中毒の定義 |
| 2) 食品と微生物 | 微生物の種類、細菌の増殖条件 |
| 3) 食品の変質と防止 | 化学的変質、食品の保存法 |
| 4) 食中毒 | 食中毒の分類、発生状況、食中毒各論 |
| 5) 1)～4) 授業内容の追加説明および小テスト① | |
| 6) 経口感染症 | 関連法規、経口感染症各論 |
| 7) 衛生指標菌と異物 | 総菌数、一般生菌数、大腸菌群、食品内異物 |
| 8) 飲食品と寄生虫 | 食品、飲料水と寄生虫 |
| 9) 有害物質による食品汚染 | カビ毒、化学物質 |
| 10) 6)～9) 授業内容の追加説明および小テスト② | |
| 11) 食品添加物 | 関連法規、主な食品添加物 |
| 12) 農薬・動物用医薬品 | 農薬・動物用医薬品の食品残留、放射線照射食品 |
| 13) 遺伝子組み換え食品 | 関連法規、表示 |
| 14) 器具および容器包装 | 材料特性と衛生 |
| 15) 食品従事者による食品衛生対策 | HACCP システム |

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

あらかじめ教科書について予習をすること。特に復習については、要点を整理してノートに記録すること。日々の予習・復習、スケッチや試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

授業で不明だった点が残らないよう、随時質問等を行い確認すること。また、特に授業中の私語については慎むこと。

【評価方法・基準】

期末試験（30%）、小テスト（50%）、学習意欲（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：Nブックス 新版 食品衛生学（建帛社）

参考文献：食品衛生にかかわるニュース、文献等

【キーワード】

食品衛生、食中毒、経口感染症、有害物質、添加物、農薬、組換え食品

【授業科目】 基礎栄養学 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 佐々木 公子 (自室番号 660)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

健康の維持・増進、身体の健全な発育や健康を維持していくための生活活動など、栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とする。人間の健康維持を図るために必要な栄養素について、栄養素の機能・代謝・生体機能との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】

教科書と記入式プリントを用いた講義

【授業の計画】

1. 栄養の定義、食生活の現状
2. 消化・吸収の過程
3. 消化酵素の作用
4. 糖質の栄養① 糖質の分類と性質
5. 糖質の栄養② 糖質の消化・吸収
6. 糖質の栄養③ 糖質の代謝
7. 脂質の栄養① 脂質の分類と性質
8. 脂質の栄養② 脂質の消化・吸収・代謝
9. たんぱく質の栄養① たんぱく質の性質
10. たんぱく質の栄養② たんぱく質の性質
11. ビタミンの栄養① 脂溶性ビタミン
12. ビタミンの栄養② 水溶性ビタミン
13. 無機質の栄養
14. 非栄養成分の働き
15. エネルギー代謝

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

配布したプリントは、しっかり管理する。

欠席した週にプリントが配布されたときは、次週までに研究室まで取りに来る。

この授業を履修するにあたって、日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学を履修するにあたり、ベースとなる栄養学はしっかり予習・復習する。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%) 期末試験 (80%)

【教 材】

教科書： イラスト基礎栄養学 (東京教学社)、プリント

参考書： 食品成分表

【キーワード】

5 大栄養素 消化・吸収 生活習慣病

【授業科目】 基礎栄養学Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 佐々木 公子 (自室番号 660)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

健康の維持・増進、身体の健全な発育や健康を維持していくための生活活動など、栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とする。基礎栄養学Ⅰ（前期）で学んだ栄養素について、さらに詳しくその代謝や体内動態について説明できる。

【授業の内容及び方法】

教科書と記入式プリントを用いた講義

【授業の計画】

1. 摂食行動、食欲について
2. 糖質の体内動態
3. 糖質の代謝
4. 血糖値の調節メカニズムについて
5. 他の栄養素との関係
6. 脂質の体内動態
7. 脂質の代謝
8. 脂質の臓器間輸送
9. コレステロールの代謝と調節
10. たんぱく質の体内動態
11. たんぱく質の代謝
12. たんぱく質の栄養価
13. たんぱく質の栄養価判定
14. カルシウム代謝と栄養
15. 鉄代謝と栄養

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

配布したプリントは、しっかり管理する。

欠席した週にプリントが配布されたときは、次週までに研究室まで取りに来る。

この授業を履修するにあたって、日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学を履修するにあたり、ベースとなる栄養学はしっかり予習・復習する。

【評価方法・基準】

受講態度（20%） 期末試験（80%）

【教 材】

教科書： イラスト基礎栄養学（東京教学社）、プリント

参考書： 食品成分表

【キーワード】

5大栄養素 消化・吸収 生活習慣病

【授業科目】 応用栄養学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 1年

【授業の目標及び到達目標】

応用栄養学を学ぶことで、ライフステージにおける身体と栄養生理的特性を理解することを目標とし、健康の保持・増進のための栄養ケア・マネジメント能力を習得することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

応用栄養学においては、栄養ケア・マネジメントの概略を説明し、ライフステージにおける身体的特徴を把握した上で、各期の栄養マネジメントに必要となる基礎知識を習得する。授業はパワーポイントプレゼンテーションを用いて説明する講義形式で行う。

【授業の計画】

1. 栄養マネジメント概要
2. 成長・発達・加齢の概要
3. 妊娠期の特性
4. 妊娠期の栄養生理
5. 授乳期の特性、栄養生理
6. 新生児・乳児期の成長・発達
7. 新生児・乳児期の栄養生理
8. 成長期の特性（幼児）
9. 成長期の特性（学童・思春期）
10. 成長期の栄養生理
11. 成人期・更年期の特性
12. 成人期・更年期の栄養生理
13. 高齢期の特性
14. 高齢期の栄養生理
15. 特殊環境と栄養

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習、復習、試験対策および試験後の見直しを含めて、概ね 30 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

定期試験(80%)、受講態度(20%)として評価する。

【教 材】

教科書 江澤郁子・津田博子編著 Nブックス 四訂 応用栄養学 第2版 建帛社 (2,940円)

参考書 松崎政三・福井富穂・田中明編著 改定臨床栄養管理ポケット辞典 建帛社 (2,835円)

【キーワード】

ライフステージ栄養学 栄養アセスメント 栄養マネジメント

【授業科目】 応用栄養学実習

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号:) 224

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基礎栄養学、応用栄養学の授業で学んだ知識を基礎に人間の一生涯における各ライフステージの栄養の特性を理解し、栄養ケアプロセス (NCP) の方法を修得することをめざす。

各ライフステージの栄養の特性、食事の実際、栄養管理を身につけることができる。

【授業の内容及び方法】

妊娠期から高齢期までの各ライフステージの特性に即した NCM を行い、食品の選択、献立作成、調理、試食・評価を行いながら学んでいく。授業方法は、各期の特性を理解するため講義及び実習を取り入れながら進めていく。

【授業の計画】

1. 応用栄養学実習概要 オリエンテーション (NCP の手法)
2. 妊娠期における NCP、妊娠後期の献立作成
3. 妊娠期の食事管理 (調理実習、献立評価)
4. 乳児期における NCP、離乳食の役割と栄養の問題
5. 調乳、離乳食 (全期間) 調理実習・評価
6. 幼児期における NCP、食物アレルギー、幼児期の献立作成
7. 幼児期の間食 (食物アレルギー対応間食も含む) 調理実習・評価
8. 学童期における NCP (食育、栄養の問題、学校給食献立作成)
9. 思春期における NCP 自主献立調理実習・評価
10. 成人期における NCP (メタボリックシンドロームの NCP)
11. 高齢期における栄養上の問題、NCP
12. 成人期と高齢期の栄養・食事管理の比較、献立作成
13. 特殊環境における栄養管理

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

同時期に開講される応用栄養学を熟読し、十分理解しておくこと。

テキスト、配布された資料は、必ず再読すること。

予習復習や試作等に自主学修の時間を充てること。概ね 15 時間の自主学修が必要

【履修上の注意・要望等】

グループ単位で実習する時は、特に協調性と主体性をもって積極的に取り組むこと。

授業内容の理解を深めるために課せるレポートは必ず提出すること。

【評価方法・基準】

試験 (70%)、提出課題 (20%)、受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト：ライフステージの栄養学 理論と実習 みらい

*適宜プリントを配布

参考文献：日本食品標準成分表 2015、日本人の食事摂取基準 (2015 年版)

【キーワード】

栄養、食事、栄養アセスメント、献立

【授業科目】 栄養指導論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 柳澤 ひとみ (自室番号:)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、栄養士として知っておくべき基礎的知識と栄養指導を行う際の方法や技術について修得することをめざす。

栄養指導の意義を理解し、栄養士としての目的意識を明確にすることができる。

【授業の内容及び方法】

まず栄養指導の意義や目的と法的根拠を知り、栄養指導に必要な基礎的知識と栄養指導を行うための理論や方法、技術について学ぶ。授業方法は、テキスト及び配布資料をもとに講義形式で展開する。

【授業の計画】

1. 栄養指導の概念と沿革 栄養指導の意義や目的、目標
2. 栄養指導と関連法規 栄養士法、健康増進法、食育基本法、その他関連の法律
3. 食生活・栄養に関する諸調査 食事調査、国民健康・栄養調査
4. 栄養指導の方法と技術 栄養アセスメント、個別・集団での指導の方法
5. 栄養指導の実際 カウンセリング、行動変容技法、教材・媒体について
6. 栄養指導の基礎事項 食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド、食育他
7. ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導の基礎知識
8. 妊産授乳期の栄養指導 妊産授乳期の栄養特性と栄養指導のポイント
9. 乳幼児期の栄養指導 乳幼児期の栄養特性と栄養指導 (幼稚園・保育所)
10. 学童期の栄養指導 学童期の栄養特性と栄養指導 (学校教育・学校給食)
11. 思春期の栄養指導 思春期の栄養特性と栄養指導 (肥満・痩せ・貧血等)
12. 成人期の栄養指導 成人期の栄養特性と栄養指導 (生活習慣病)
13. 高齢期の栄養指導 高齢期の栄養特性と栄養指導
14. 特定給食施設における栄養指導 病院・学校・事業所・福祉施設など
15. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

テキスト、配布された資料は、必ず再読すること。

この授業を履修するには、30時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

栄養士として不可欠な基礎的知識であるので関心を持って受講すること

【評価方法・基準】

試験(80%)、課題提出(10%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト：栄養士のための栄養指導論第5版(学建書院)

*適宜プリントを配布

参考文献：栄養教育論(各出版社)、日本人の食事摂取基準[2015年版](第一出版)、栄養教育スキルアップブック(化学同人)

管理栄養士・栄養士必携(第一出版)

【キーワード】

食行動、栄養マネジメント、カウンセリング、媒体

【授業科目】 栄養指導論実習

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 柳澤 ひとみ

(自室番号:)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

実際の場面で、個人や集団に対して効果的な栄養指導が実践できるよう、体験学習を通して栄養指導の方法や技術を修得することをめざす。栄養指導に必要な理論、知識を現場で活用することができる。

【授業の内容及び方法】

ライフステージ別、集団・個別などの様々な栄養指導場面を設定し、栄養アセスメント、栄養指導計画、指導媒体を作成する。集団指導は主にグループ学習とし、設定した対象者に対する栄養教育や食育などコミュニケーション・プレゼンテーションスキルを高める体験学習を取り入れる。また個別指導では対象者の栄養状態を評価・指導するために学生自身の食生活調査を実施し、これを使って学習する。

【授業の計画】

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 栄養指導実習の意義、食生活調査について |
| ＜集団栄養指導実習＞ | |
| 2. 栄養指導の方法 | プレゼンテーション、楽しく学ぶ「食育」、グループ編成 |
| 3. 指導目標設定 | 対象集団の課題の抽出と優先課題の検討、指導目標設定 |
| 4. 指導案の作成 | グループで指導対象者を設定、栄養指導計画、指導案の作成 |
| 5. 指導媒体の作成 | 教材選び、効果的な指導媒体の作成 |
| 6. 集団栄養指導実習 | 集団栄養教育のシミュレーション実施（グループ毎に発表）、評価 |
| ＜個別栄養指導実習＞ | |
| 7. 栄養指導計画 | 栄養アセスメント、課題の抽出、栄養指導計画 |
| 8. カウンセリング技法 | 「行動変容技法」と「カウンセリング技法」 |
| 9. 栄養指導案作成 | 栄養指導案作成、教材準備 |
| 10. ロールプレーイング | ロールプレーイングによる栄養カウンセリングの実施と評価 |
| 11. 自己分析と評価 | 各自の食生活調査を栄養アセスメント、自己分析と評価 |
| 12. 栄養教育のまとめ | 行動科学理論に基づく栄養教育の評価とフィードバック |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

同時期に開講される栄養指導論Ⅰのテキスト、配布資料、参考書等を十分読んでおくこと。

この授業を履修するには、15時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

グループでの実習が多くなるので、主体性と協調性をもって取り組むこと。

授業内容の理解を深めるために課せるレポートは必ず提出すること。

食生活調査の実施により自分自身を振り返るきっかけとし、行動変容にもトライしよう。

【評価方法・基準】

提出課題(70%)、実習への取り組み態度(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト：なし *適宜プリント配布

参考文献：栄養士のための栄養指導論第5版(学建書院)、実践に役立つ栄養指導事例集(理工図書)
食生活の基礎と事例から学ぶ食事支援・指導(中央法規)

【キーワード】 ライフステージ、プレゼンテーション、カウンセリング技法、栄養プログラム、指導媒体

【授業科目】 給食計画論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 美由紀 (自室番号 ***)

【対象学生】 栄養学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、効率のよい給食管理のできる栄養士をめざす。
栄養士としての責務について理解し、実務業務で応用して活用できるようになる。

【授業の内容及び方法】

給食管理の業務を効率的にまた過不足なく遂行できるように、講義だけでなく実践事例の紹介や現場で活用している資料を具体的に提示していく。また、演習を通して給食管理Ⅱの授業や、実際の業務に役立つ内容について学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 給食管理はじめの一步 | 給食管理の概要・給食管理の3本の柱 |
| 2. 給食の概念 | 給食と特定給食施設の違い |
| 3. 特定給食施設と関係法規 | 管理の上で大切な関係法規 |
| 4. 栄養管理と献立作成 | (1) 献立作成の基本的な考え方を学ぶ |
| 5. 栄養管理と献立作成 | (2) 作業工程表・動線図の目的と意義 |
| 6. 衛生・安全管理 | (1) 食中毒を予防するための対策 |
| 7. 衛生・安全管理 | (2) 大量調理における衛生管理について学ぶ |
| 8. 品質管理 | 標準化するための大量調理のコツについて学ぶ |
| 9. 調理作業管理 | 食材量管理・検収・契約方式 |
| 10. 献立の立案 | (1) 大量調理を意識した献立作成 |
| 11. 献立の立案 | (2) 作業工程と100人分の発注 |
| 12. 献立の立案 | (3) 喫食者にわかりやすい指導媒体の紹介と作成 |
| 13. 人事・労務・経営管理 | 人事管理・研修・教育・経営の重点を学ぶ |
| 14. 特定給食施設の特徴 | 施設ごとに目的や特徴を学ぶ |
| 15. 栄養士業務の実際とまとめ | |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・給食の業務について順を追って講義を進めるので、計画的な自主学習を行うこと。
- ・日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・栄養士の基礎となる学習内容が多いため、講義の中の語句や数字は特に注目して、栄養士の職務についているつもりで関心を持って受講すること。

【評価方法・基準】

期末試験（60％） 提出課題（20％） 受講態度・学習意欲（20％）
により総合的に判断する。

【教 材】

イラスト給食経営管理論（東京教学社）・適宜プリントを配布

【キーワード】

特定給食施設・献立作成・大量調理・衛生・安全管理

【授業科目】 給食献立作成実習

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

基本的な料理や献立の成り立ちから、様々な食事提供環境における献立作成技術を習得することを目標とし、献立作成と再現性の評価・修正を行う PDCA サイクルの運用能力を身につけることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

調理学および調理学実習で習得した基本調理理論を活用し、基本献立の立案を行う。次いで、給食大量調理機器に相応しい献立作成を行い、実際に調理を行うことで適切な献立を学ぶ。特に、現在汎用されているスチームコンベクションオーブンで作成献立の検証を行う。

【授業の計画】

1. 献立とは、献立立案の条件
2. 食材の利用方法（1）食材、色合い、分量、バランス
3. 食材の利用方法（2）出汁、調味料の利用、調理器具、調理方法
4. 献立の立案（1）PFC バランス、エネルギー比を使った立案
5. 献立の立案（3）食品構成、加重平均食品成分表を使った立案
6. 献立の立案（4）複数日献立の考え方
7. スチームコンベクションオーブン（スチコン）の特徴と理論
8. スチコンを用いた焼き物料理の献立立案
9. 調理演習（1）焼き物・蒸し物料理
10. スチコンを用いた煮物料理の献立立案
11. 調理演習（2）副菜煮物料理
12. 大量調理用機材の概要・スペック調査
13. 大量調理のための献立作成

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習、復習、献立課題や実習レポート作成、試験対策および試験後の見直しを含めて、概ね 15 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

複数回の献立作成に関する課題、レポートを課すので、十分に取り組むこと。

【評価方法・基準】

試験（50%）、レポート（30%）、受講態度（20%）として評価する。

【教 材】

教科書：NEXT 献立作成の基本と実践 講談社サイエンティフィック

食品成分表（調理学実習での教科書）

給食管理（第一出版、給食管理での教科書）、ネオエスカ調理学（同文書院、調理学での教科書）

参考書：調理と理論（同文書院）

その他、適宜プリントを配布する。

【キーワード】

献立作成、給食、スチームコンベクションオーブン

【授業の目標及び到達目標】

調理とは食品を食べられる状態にする技法である。食べ物が安全で、栄養的であるばかりでなく、老若男女を問わず嗜好性に優れているものが重要である。そこで、この授業では食品の調理特性の把握、調理に於ける基礎的な現象の理解と応用、市販の調理加工食品に対する評価力をつけることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

授業内容は調理全般にわたってその原理および基礎知識を解説し、調理操作とその原理、調味の理論、食品の調理性並びにその加工品の科学的、物理的に理解できるように指導する。

【授業の計画】

- (1) 調理学の意義 調理学の意義、調理の特性
- (2) 食事計画 食品成分表の理解 食品成分表の活用
- (3) おいしさに関する要因
- (4) 食べ物のテクスチャーを感じる要因、味の相互作用とその他の要因
- (5) 調理操作と分類 (1) 調理操作 (非加熱操作 計量、洗浄、浸漬等)
- (6) 調理操作と分類 (2) 調理操作 (非加熱操作 粉砕、混合、圧縮 冷却等)
- (7) 調理操作と分類 (3) 調理操作 (加熱操作の目的)
- (8) 調理操作と分類 (4) 調理操作 (加熱操作の種類、特徴)
- (9) 植物性食品 (1) 炭水化物を多く含む食品 (米 小麦粉 いも 大豆製品)
- (10) 植物性食品 (2) たんぱく質を多く含む食品 (2) (いも 大豆製品)
- (11) 植物性食品 (3) ビタミン、無機質を多く含む食品 (野菜類 果物類 きのこと、藻類)
- (12) 動物性食品 (1) 動物性たんぱく質を多く含む食品 (1) (獣鳥肉類 魚介類)
- (13) 動物性食品 (2) 動物性たんぱく質を多く含む食品 (2) (卵 乳類)
- (14) 動物性食品 (3) 脂質を多く含む食品 (油脂、バター、獣鳥肉類)
- (15) 食材の調理プロセス 成分抽出素材

【授業外の学修(予習・復習の指示、学習時間など)について】

授業前は計画に準じてテキストを予習し、授業後はノートをまとめること。(授業前 30 分、授業後 60 分)
授業全体で概ね 30 時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

授業 15 回の 7 回目が終了したあたりに中間試験を放課後に実施する。あと後半の内容を定期試験で実施する。

【評価方法・基準】

中間試験(50%)・定期試験(50%)

【教 材】

教科書:久木久美子 喜多野宣子 新田陽子「調理学—おい裂く安全に調理を行うための科学の基礎」
(化学同人)

参考文献:山崎清子 島田キミエ 著 調理と理論 (同文書院)
河野友美 著 コツの科学の調理辞典 (医歯薬出版)

【キーワード】

おいしさ 調味の原理 調理操作 食材の調理性

【授業科目】 基礎調理学実習

【単 位】 1

【学 期】 前期

【担当教員】 藤井 わか子 (自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

調理学実習では調理学の理論をもとに調理操作の中で生じる様々な現象を基礎知識として理解し、食べ物への関心を深め、基本的な調理技術を習得する。この基礎調理実習では「料理」とするための基礎となる調理操作を技術や知識を科学に学び、実践できることを目標とする。なお、栄養士養成における調理学実習は、大量調理をする上での基礎となる理論と技術が必要となるので理論を理解し、技術を身につける。

【授業の内容及び方法】

おいしさや栄養を効率よくするための科学的根拠に基づく調理操作を理解し、技術を習得する必要がある。内容は、食品成分表の使用法、ならびに栄養計算、栄養比率 調味率 計量の換算のそれぞれの計算方法。毎回の実習で食材料の処理し、計量、料理にあった材料（野菜など）の切り方、乾物の戻し方、加熱方法の火力（温度）と時間、料理に合った調味などの基礎を学ぶ。また、日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を理解する。

【授業の計画】

- (1) 授業の進め方の説明（授業の到達目標、授業計画、予習・復習の方法、成績評価など）
- (2) 実習に必要な計算（栄養計算、栄養比率 調味率等の計算 計量の換算と計量の仕方
- (3) ご飯の炊き方、野菜のゆで方の基礎を学ぶ
- (4) 包丁のとぎ方（とぎ方を理解して研いだ出来上がりを確認できるようにする）
- (5) 包丁の扱い方、切り方、野菜の切り方（料理に合った切りかたを理解する）
- (6) 和風のだしの取り方との基礎を学ぶ
- (7) 味つけ飯、あえの物の基礎を学ぶ
- (8) 煮物と寄せ物の基礎を学ぶ
- (9) 揚げ物と酢の物の基礎を学ぶ
- (10) 日本料理の特徴を学ぶ
- (11) 西洋料理の特徴を学ぶ
- (12) 中華料理の特徴を学ぶ
- (13) まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習前にプリントをよく読み、予習をしておくこと、実習は原則として、グループ学習とするが常に積極的な姿勢と態度で取り組む。実施日にスムーズにいくようにグループで話し合う。復習は料理の栄養価、作り方、学習するポイント（内容）を確認し、記録しておくこと。

【履修上の注意・要望等】

白衣、帽子、シューズ、プリント等を毎回忘れないように、衛生管理を個々で行う。

【評価方法・基準】

実習態度（20%）・調理ノートまたはカード（40%）・定期テスト（40%）

【教 材】

教科書：毎回の実習はプリントを使用する。

参考文献：大羽和子，和田治子他「調理学実習」（ナカニシヤ出版）
山崎清子，島田キミエ「調理と理論」（同文書院）

【キーワード】

調理操作 調味 切り方 日本料理 西洋料理 中国料理

【授業の目標及び到達目標】

「基礎調理学実習」に引き続き、基礎的な調理をもとに、さらに発展させ、調理操作の系統を理解しながら、応用できる技術を修得ことを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

基礎調理学実習で習ったことを踏まえ、応用力を身につける内容を中心に実習する。おせち料理、クリスマス料理などの行事食も組み入れていく。

【授業の計画】

- 1) 授業のガイダンス
- 2) 日本料理①：しめ卵の澄まし汁・ぶりの照り焼き・白和え・ビオーネの大福他
- 3) 洋風料理①：ピラフ・チャウダー・かぶのサラダ・スイートポテト
- 4) 中国料理①：酸辣湯・鍋貼餃子・咕咾肉 他
- 5) 洋風料理②：にんじんのポターージュ・サラダ・シュークリーム他
- 6) 中華料理②：春巻き・八宝菜・三絲湯・鶏蛋糕 他
- 7) 日本料理②：ととろ汁・西京焼き・里芋の含め煮・利休まんじゅう
- 8) 中華料理③：供卓料理
- 9) 洋風料理③クリスマス料理
- 10) 日本料理③：おせち料理
- 11) 洋風料理④：チーズフォンディ 他
- 12) まとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間)について】

実習前にプリント、テキストをよく復習し、実施日にスムーズにいくようにグループで話し合う。料理の栄養価、作り方を記録して、留意点を記録しておく。

【履修上の注意・要望等】

実習は原則として、グループ学習とするが常に積極的な姿勢と態度で取り組む。実習プリントを配付するので予習しておく。

【評価方法・基準】

実習態度 (20%)・調理カード (40%)・定期テスト (40%)

【教 材】

教科書：毎の実習はプリントを使用する。

参考文献：大羽和子，和田治子他「調理学実習」(ナカニシヤ出版)

山崎清子，島田キミエ「調理と理論」(同文書院)

【キーワード】

日本料理 西洋料理 中華料理 行事食

【授業科目】 食料経済

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 大宮 めぐみ

(自室番号 ***)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本講義は、食料の生産から消費までの一連の流れ（フードシステム）の役割と食生活の変化、食料に関する今日的課題を講述し、これらの理解と自ら説明できる能力の習得をめざす。

到達目標は以下の3点である。

- ①フードシステムの概念を理解し、全体像を説明することができる。
- ②食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明することができる。
- ③食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明することができる。

【授業の内容及び方法】

本講義では、まず食料消費の経済理論と食料の流れ、それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で、わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について、食料自給率などの今日的課題を題材に考察する。

【授業の計画】

1. 食料経済とフードシステム
2. 食料経済の理論 (1) 需要曲線
3. 食料経済の理論 (2) 食品需要の価格弾力性、所得弾力性とエンゲル係数
4. 食生活の成熟
5. 食料消費パターンの変化
6. 家族の変化と食生活
7. 食料の安全保障と自給率 (1) 食料需給表
8. 食料の安全保障と自給率 (2) 自給率と食料の安全保障
9. 食品工業の構造と特徴
10. 食品流通業の構造と特徴 (1) 卸売市場
11. 食品流通業の構造と特徴 (2) 食品小売業
12. 外食・中食の供給構造と特徴
13. 世界の人口と食料
14. 食生活と政府の役割
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この講義は履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。内容は以下の通りとする。

1. 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
2. 復習として、講義内容および配布資料の整理とノートのとまとめを行うこと。
3. 食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。

【履修上の注意・要望等】

到達目標を達成するためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%) 小テスト (40%) 受講態度 (10%)

【教 材】

時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博「フードシステムの経済学 第5版」医歯薬出版株式会社、2017

【キーワード】

フードシステム、食料経済、食品流通、食料自給率

【授業の目標及び到達目標】

実験データや、調査データの解析に必要となる能力の養成を目指す。栄養士として必要となるデータ分析ができる知識を得る。

【授業の内容及び方法】

統計的な考え方、見方に重点を置きながら、基本的な統計手法を出来る限り数学の予備知識なく理解できる講義を計画する。

【授業の計画】

- | | |
|---------------|------------------------------|
| (1) 統計学とは | 統計的な考え方、見方 |
| (2) データのまとめ方1 | データの図表化：ヒストグラムの作成 |
| (3) データのまとめ方2 | ヒストグラムの作成（続き） |
| (4) 基礎統計量1 | 分布の中心尺度、分布の拡がり尺度、歪み、尖り尺度 |
| (5) 基礎統計量2 | 標本平均、標本分散、標準偏差、変動係数 |
| (6) 相関分析1 | 相関とは、散布図 |
| (7) 相関分析2 | 相関係数、相関係数の計算 |
| (8) 回帰分析1 | 回帰とは、最小自乗法 |
| (9) 回帰分析2 | 回帰直線、回帰直線を求める |
| (10) まとめ（1） | |
| (11) 確率1 | 確率の公理、条件付き確率、事象の独立 |
| (12) 確率2 | 確率変数、分布関数 |
| (13) 重要な確率分布1 | 二項分布、ポアソン分布 |
| (14) 重要な確率分布2 | 正規分布、t分布、 χ^2 分布、数値表の見方 |
| (15) まとめ（2） | |

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

講義ノートを中心とした復習を毎回欠かさず実践してほしい。自主学习として概ね30時間程度を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

- ・講義の中で演習を行うので電卓は必ず持参すること。
- ・講義は順を追って進められるため、一度でも欠席すると次回から講義内容の理解が困難となる。

【評価方法・基準】

授業態度・学修意欲(30%)、期末試験(70%)の結果により評価する。

【教 材】

教科書：別途指示する。

参考書：統計のはなし（東京図書）・推定と検定のはなし（東京図書）・統計学入門（統計学裳華房）

【キーワード】

平均、標本分散、標準偏差、相関係数、回帰直線、正規分布

【授業科目】 フードスペシャリスト論 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 藤井わか子・桑守 正範 (自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科1年

【授業の目標及び到達目標】

フードスペシャリストは流通・販売分野における食品に関する、さらに、レストラン・ホテルなどで快適な食事が提供できるよう、料理・メニュー・食卓・食器・食空間をコーディネートを行う専門職である。したがって、食品の流通・販売分野に必要な食品の品質判別や情報提供、食育など知識を習得することを目標とする。そこでこの授業では、正確な食品学・調理学の科学的根拠に基づいて、味覚、栄養、利用法を伝えて、消費者に信頼を得て販売促進をはかるための知識をしっかりと習得することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

フードスペシャリストの役割と職域、食品の品質規格と鑑別・検査、味覚・嗅覚の生理と食の心理、食品の調理・加工、食品の流通・消費など基本的な専門知識を修得する。そこで、消費者のニーズにあった知識と技術を学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|-----------------------------|----------|
| (1) フードスペシャリストとは | (藤井 わか子) |
| (2) 人類と食物① 狩猟採集時代から工業化時代 | (藤井 わか子) |
| (3) 人類と食物② 食品加工・保存技術史 | (藤井 わか子) |
| (4) 世界の食① 食作法と食の禁忌・忌避 | (藤井 わか子) |
| (5) 世界の食② 世界各地の食事情 | (藤井 わか子) |
| (6) 日本の食① 日本食物史 (縄文から平安時代) | (藤井 わか子) |
| (7) 日本の食② 日本食物史 (鎌倉から現代) | (藤井 わか子) |
| (8) 日本の食③ 食の地域差 | (藤井 わか子) |
| (9) 現代日本の食生活① 食生活に変化と現状 | (桑守 正範) |
| (10) 現代日本の食生活② 食料の供給と自給率 | (桑守 正範) |
| (11) 食品産業の役割 | (桑守 正範) |
| (12) 食品の品質規格と表示① 食品の品質規格と表示 | (桑守 正範) |
| (13) 食品の品質規格と表示② 食品の表示制度と法律 | (桑守 正範) |
| (14) 食情報と消費者の保護① 食品の情報管理 | (桑守 正範) |
| (15) 食情報と消費者の保護② 消費者保護の制度 | (桑守 正範) |

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

テキストに準じ、進める。テキストを十分読んでおくこと。資格試験のために授業後まとめておく。概ね30時間程度の学修時間が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

この科目はフードスペシャリスト資格のため科目で、資格試験を希望する学生は履修すること。

【評価方法と基準】

定期試験(担当者別 藤井 (50%) 桑守 (50%))

【教 材】

教科書: 日本フードスペシャリスト協会編 フードスペシャリスト論 (建帛社)

参考文献: 日本フードスペシャリスト協会編 フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集 (建帛社)

【キーワード】

フードスペシャリスト 食生活史 食品の品質規格 食情報

栄養学科 2年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授 業 科 目	授業形態	単位数		配当学年		備考	頁
			必修	選択	1年	2年		
導 科 入 目	1 年次セミナー	演習	2		○			
教 養 ・ 基 礎 科 目	日本語リテラシー	講義		2	○			
	現代生活論	講義		2	○			
	心理学概論	講義		2	○			
	食文化論	講義		2		○		51
	基礎化学	講義		2	○			
	基礎生物学	講義		2	○			
キ ャ リ ア 科 目	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講			
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○		11
	インターンシップ実習	実習		1	○	○		12
	ボランティア実習	実習		1	○	○		13
情 報 リ テ ラ ー	情報リテラシーⅠ	演習		2	○			
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○			
外 国 語 科 目	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	○			
	英語コミュニケーションⅡ	演習		1	○			
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○		18
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○		19
ス ポ ー ツ 科 目	スポーツ健康講義	講義		1	○			
	スポーツ健康実習	実習		1	○			
単 位 互 換	放送大学科目Ⅰ	—		—	○	○	通算して2単位まで卒業要件に含む	22
	放送大学科目Ⅱ	—		—	○	○		22

【卒業要件】 必修科目 2 単位と選択科目 8 単位を合わせた、計 10 単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

授業科目	授業形態	単位数		学年配当		資格		備考	頁
		必修	選択	1年	2年	栄養士	フード		
社会と健康 と生活	公衆衛生学Ⅰ	講義	2		○	◎			52
	公衆衛生学Ⅱ	講義		2		○	◎		53
	社会福祉概論	講義		2		○	◎		54
人体の構造と機能	人体構造学	講義		2	○	◎			
	人体機能学	講義		2		○	◎		55
	病理学総論	講義		2	○		◎		
	病理学各論	講義		2	○		※		
	生化学Ⅰ	講義		2	○		◎		
	生化学Ⅱ	講義		2	○		※		
	生化学実験	実験		1		○	◎		56
食品と衛生	食品学Ⅰ	講義	2		○	◎	◎		
	食品学Ⅱ	講義	2		○	◎	◎		
	食品加工学	講義		2		○	◎		57
	食品学実験Ⅰ	実験		1	○		◎	◎	
	食品学実験Ⅱ	実験		1		○	◎	◎	58
	食品加工実習	実習		1		○		◎	59
	食品衛生学	講義	2		○		◎	◎	
	食品衛生学実験	実験		1		○	◎		60
栄養と健康	基礎栄養学Ⅰ	講義	2		○	◎	◎		
	基礎栄養学Ⅱ	講義		2	○		◎		
	応用栄養学	講義	2		○		◎		
	栄養学実習	実習		1	○		◎		
	臨床栄養学	講義		2		○	◎		61
	臨床栄養学実習Ⅰ	実習		1		○	◎		62
	臨床栄養学実習Ⅱ	実習		1		○	◎		63
栄養の指導	公衆栄養学	講義		2		○	◎		64
	栄養指導論Ⅰ	講義	2		○		◎		
	栄養指導論Ⅱ	講義		2		○	◎		65
	栄養指導論実習Ⅰ	実習		1	○		◎		
	栄養指導論実習Ⅱ	実習		1		○	◎		66
給食の運営	給食管理Ⅰ	講義		2	○		◎		
	給食管理Ⅱ	講義		2		○	◎		67
	給食献立作成論	講義		2	○		※		
	給食管理実習Ⅰ	実習		1		○	◎		68
	給食管理実習Ⅱ	実習		1		○	◎		69
	学外実習指導	実習		1		○	◎		70
	調理学	講義	2		○		◎	◎	
	調理学実習Ⅰ	実習	1		○		◎	◎	
	調理学実習Ⅱ	実習	1		○		◎	◎	
	調理学実習Ⅲ	実習		1		○	◎		71
食生活論	講義	2		○			◎		
食料経済	講義		2	○			◎		
統計処理論	講義		2	○					
栄養情報処理演習Ⅰ	演習		1		○			72	
栄養情報処理演習Ⅱ	演習		1		○			73	
フードスペシャリスト論	講義		2	○			◎		
フードコーディネーター論	講義		2		○		◎	74	
栄養学特別演習	演習		1		○			75	

【卒業要件】必修科目20単位に選択科目32単位を加え、52単位以上修得すること。

【備考1】栄養士欄およびフードスペシャリスト欄の◎印の科目は、必修科目。

【備考2】栄養士欄の※印の科目の履修方法は、別に定める内規の要件を参照すること。

【授業科目】 食文化論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 藤井 わか子 (自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科 2年

【到達目標及び学習内容】

食文化論を学ぶ意義、民族と食様式（農耕のはじまり、食文化の国際化、食の風土と世界の食様式の多様性）、現代食文化の共通化と国際化、日本食文化の源流、21世紀の食と農が日本型食文化や健康的な食生活に関わる意義について考える。

【授業の計画】

- (1) 食文化論の意義
- (2) 江戸時代料理の再現① 庶民の料理
- (3) 江戸時代料理の再現② すし、そば、うどんの歴史
- (4) (2) と (3) をまとめる。
- (5) 大正・昭和初期の料理の再現① 日本での西洋料理のはじまり
- (6) 大正・昭和初期の料理の再現② カレー コロッケのはじまり
- (7) (5) と (6) をまとめる。
- (8) 郷土料理「いっぷく亭」でお話を聞く
- (9) 郷土料理「いっぷく亭」で料理を作る
- (10) 岡山県北の食文化を探る① 高梁・新見地域の郷土料理を再現
- (11) 岡山県北の食文化を探る② 真庭地域の郷土料理を再現
- (12) 岡山県北の食文化を探る③ 津山地域の郷土料理を再現
- (13) 岡山県北の食文化を探る④ 美作地域の郷土料理を再現
- (14) (10)～(13)までをまとめ、展示用の資料を作成
- (15) 学内で展示計画、実施

【授業外の学修(予習・復習の指示、学習時間など)について】

授業ごとにテーマがきまっているので、調べてくること、自分たちで再現するものを決めて、再現し、撮影、レポート作成する。最後のテーマで学内に展示もしくは冊子にまとめる。概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

テーマごとに調べる範囲を、話し合い、1つに試料をさくせいする。責任も持って授業に当たること。

【評価方法】

授業態度(20%) 課題等の提出物(40%) 課題レポート提出(40%)

【教 材】

参考文献：石毛直道監修/『講座 食の文化』/社団法人農山村漁村文化協会
食文化入門 石毛直道・鄭大龔 講談社サイエンティフィク

【キーワード】

食文化 郷土料理 食の歴史

【 授業科目 】 公衆衛生学 I 【 単 位 】 2

【 学 期 】 前 期 【 担当教員 】 井戸 司

【 対象学生 】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は管理栄養士として公衆衛生活動を展開していく上で、必要な知識及び技能の習得を目指し、その資質の向上を図ることを目的に行うものである。公衆衛生は、人々の健康保持・増進を目的とした科学であり活動である。内容は環境保健、疾病予防、健康教育、保健・医療制度、健康管理、社会保障などその領域は広範にわたり、これらを全般に亘って理解できるようにする。

【授業の内容及び方法】

公衆衛生学（Ⅰ）は、主として公衆衛生活動の基礎となる知識や技術の体系を総論的に学習する。
公衆衛生学（Ⅱ）は、公衆衛生活動をその対象や生活の場によって分類して学習する。

【授業の計画】

- 1 社会と健康 公衆衛生・健康・予防医学の概念、公衆衛生の歴史
- 2 保健医療制度と法規① 保健衛生の制度（一般衛生・労働衛生・環境保全・学校保健）
- 3 保健医療制度と法規② 保健衛生行政関係法規
- 4 保健医療制度と法規③ 医療制度・医療保険
- 5 社会保障 社会保障の概念、社会保障制度の体系
- 6 健康・疾病・行動に関わる統計資料① 保健統計、人口統計、生命表
- 7 健康・疾病・行動に関わる統計資料② 保健統計、人口統計、生命表
- 8 健康・疾病・行動に関わる統計資料③ 疾病統計
- 9 健康の状態・疾病の測定と評価① 疫学
- 10 健康の状態・疾病の測定と評価② 疫学
- 11 健康の状態・疾病の測定と評価③ スクリーニング
- 12 主要疾患の疫学① 感染症
- 13 主要疾患の疫学② 感染症
- 14 主要疾患の疫学③ 非感染症
- 15 主要疾患の疫学④ 非感染症

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間など）について】

必ず予習、復習を欠かさないこと。

この授業を履修するには、30 時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って授業に望むこと。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：「シンプル衛生・公衆衛生学」（南江堂）鈴木庄亮・久道茂編

参考文献：「国民衛生の動向」財団法人厚生統計協会 編集・発行

「環境・循環型社会白書」編集 環境省、発行 日経印刷株式会社

【キーワード】

保健統計、疫学、感染症、環境、社会保険、母子保健、学校保健、産業保健、（労働衛生）高齢者保健福祉

【 授業科目 】 公衆衛生学Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 井戸 司

【 対象学生 】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は管理栄養士として公衆衛生活動を展開していく上で、必要な知識及び技能の習得を目指し、その資質の向上を図ることを目的に行うものである。公衆衛生は、人々の健康保持・増進を目的とした科学であり活動である。内容は環境保健、疾病予防、健康教育、保健・医療制度、健康管理、社会保障などその領域は広範にわたり、これらを全般に亘って理解できるようにする。

【授業の内容及び方法】

公衆衛生活動をその対象や生活の場によって分類し学習する。

【授業の計画】

- 1 精神保健福祉
- 2 生活習慣の現状と対策
- 3 環境保健① 地球環境保全（人間の環境、環境の把握、物理的環境）
- 4 環境保健② 地域環境保全（化学的環境、生物的環境）
- 5 環境保健③ 生活環境（空気・大気汚染、水の衛生・水質汚濁、廃棄物）
- 6 環境保健④ 環境要因（公害・環境問題・環境管理）
- 7 地域保健 地域保健活動と行政、消費者保護、健康都市
- 8 母子保健 母子保健活動、母子保健の課題と動向、少子化対策
- 9 学校保健
- 10 産業保健（労働衛生）① 働く人々の健康、労働災害・事故、職業病
- 11 産業保健（労働衛生）② 健康診断、健康増進、労働時間と余暇、職場復帰
- 12 成人保健
- 13 高齢者保健・福祉
- 14 国際保健
- 15 まとめ

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間など）について】

必ず予習、復習を欠かさないこと。この授業を履修するには、30時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】 目的意識を持って授業に望むこと。

【評価方法・基準】 定期試験（80%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】 教科書：「シンプル衛生・公衆衛生学」（南江堂）鈴木庄亮・久道茂編

参考文献：「国民衛生の動向」財団法人厚生統計協会 編集・発行

「環境・循環型社会白書」編集 環境省、発行 日経印刷株式会社

【キーワード】

保健統計、疫学、感染症、環境、社会保険、母子保健、学校保健、産業保健、（労働衛生）高齢者保健福祉

【授業科目】 社会福祉概論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 菅原 明美 (自室番号 ***)

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、社会福祉についての基本的視点を理解するとともに、基本的な知識を習得することを目的としている。

1. 社会福祉の意義と必要性について理解できる。
2. 社会福祉制度、社会福祉サービス体系について理解できる。
3. 現代の社会問題に目を向け、援助対象と視点について理解できる。

【授業の内容及び方法】

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について整理し、福祉政策の課題について講義する。また、子ども、障がい者、高齢者、低所得者等対象者別に詳説する。講義を主とする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 現代の生活問題と社会福祉
3. 日本の社会福祉の歴史
4. 社会保障制度①：社会保障制度体系と社会福祉
5. 社会保障制度②：社会保険、年金制度
6. 社会保障制度③：公的扶助
7. 児童福祉およびひとり親家庭福祉
8. 障害者福祉
9. 高齢者福祉
10. 介護保険制度
11. 生活保護制度について
12. 地域福祉
13. 医療福祉、精神保健福祉
14. 社会福祉サービスの提供主体と社会福祉の援助方法
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

配布した資料を再読し、授業で学んだ内容を各自まとめること。

日々の予習・復習や試験対策に加えて、休日等を利用し概ね30時間の自主学修を要する。

【履修上の注意・要望等】

日常生活に密着した福祉制度、社会サービスを学ぶことができます。

【評価方法・基準】

定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）

【教 材】

適宜、資料配布する。

参考文献：『コメディカルのための社会福祉概論』講談社

【キーワード】

社会保険、年金制度、介護保険制度、生活保護制度、医療福祉、精神保健福祉

【授業科目】 人体機能学

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 栗脇 淳一

(自室番号 626)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

- 生命のいとなみについて考えることで、生きているとはどういうことなのか、また生きているためには体の中でどのようなことが営まれているのかについて理解を深めることを目的とする。
- 栄養士として必要なヒトの体の基本的な構造および機能に加え、各器官および器官系の主要疾患の基礎的知識について理解する。

【授業の内容及び方法】

教科書の要点を板書、配布プリント等により説明する。DVDを使用した講義も行う(2回程度)。

【授業の計画】

1. 捨てる1 泌尿器系とは/腎臓/尿細管
2. 捨てる2 尿の生成/排尿/体液の調節
3. 調節する1 ホメオスタシスとは/ホルモンの種類/ホルモン分泌の調節
4. 調節する2 内分泌器官の構造とホルモンの機能
5. 調節する3 体温/体温の調節/体温の異常
6. 感じる・考える1 神経系とは/神経細胞と神経組織
7. 感じる・考える2 中枢神経系/末梢神経系
8. 感じる・考える3 感覚の一般的性質/特殊感覚
9. 感じる・考える4 体性感覚/内臓感覚
10. 動く1 運動器系とは/骨格/関節
11. 動く2 骨格筋/運動の調節
12. 守る1 生体防御機構とは/非特異的防御機構
13. 守る2 特異的防御機構/リンパ系組織
14. 子孫をつくる1 生殖とは/女性の生殖器系/男性の生殖器系
15. 子孫をつくる2 受精と発生/成長と老化

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

講義前には、教科書の該当範囲を予習し、講義後は配布プリントや教科書をもとに自主学修を行い、専門語句や概念の理解と記憶に努めること。この講義を履修するに当たり、概ね30時間の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

講義中は、板書した事柄以外にも気になったことや気づいたことなどをノートにまとめることを勧める。

【評価方法・基準】

定期試験の結果(70%)を第一義とし、提出課題(20%)、学習態度(10%)も加味して評価を行う。

【教 材】

教科書: 解剖生理をおもしろく学ぶ 著者/増田敦子(株式会社サイオ出版)

参考資料: ・標準生理学(第8版) 監修:小澤澗司/福田康一郎 編集:本間研一/大森治紀/
大橋俊夫/河合康明/黒澤美枝子/鯉淵典之/伊佐正(医学書院)

・ぜんぶわかる人体解剖図—系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説 著:坂井建雄
/橋本尚詞(成美堂出版)

【キーワード】

解剖学、生理学、腎臓、ホルモン、神経、感覚、運動、免疫、生殖、老化

【授業科目】 生化学実験

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 渡邊 理江

(自室番号 662)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は栄養学的生体反応の検出方法や定量計算を学ぶことを目的とし、本科目を履修し、実験操作・反応の意味や量的変化を理解し体験することで、講義で学んだ栄養素・体の構成成分による生体内の代謝反応を視覚的に学ぶことが出来る。また、実験レポート作成により、科学的・論理的な考え方・執筆が出来るようになる。

【授業の内容及び方法】

レポートの書き方・実験器具取り扱い・実験操作を概説し、栄養素・体の構成成分の生体内代謝に関わる実験観察を行う。授業はプリントを用いながら行われる。プリントは授業初めにその都度配布する。

【授業の計画】

1. 実験オリエンテーション・実験器具取り扱い概説
2. 実験精度の確認実験：実験器具の精度確認
3. タンパク質の定性実験：卵白の変性
4. タンパク質定量実験 1：検量線を引く
5. タンパク質定性・定量実験 2：パイナップル中のタンパク質分解酵素の定性・定量実験
6. 糖質分離実験 1：空腹時・満腹時の実験動物の肝臓からグリコーゲンを分離
7. 糖質定量実験 2：空腹時・満腹時の実験動物の肝臓グリコーゲンを定量
8. 脂質分離実験 1：卵黄コレステロールの分離
9. 脂質定量実験 2：卵黄コレステロールの定量
10. 食物アレルギーの検出：卵アレルギーの検出
11. 血清アルブミン／グロブリン(A/G)比の測定：実験動物の血清 A/G 比の測定
12. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

生化学 I および生化学 II の復習をよくしておく。休日や長期休業期間などを利用して少なくとも 15 時間の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

実験遂行で生じる危険性を十分わきまえ、実験操作の意味をよく理解した上で実施する。

【評価方法・基準】

受講態度 40%、レポート 60%

【教 材】

教科書：プリント

参考文献：初めての栄養学研究論文 第一出版

【キーワード】

生化学、分子生物学、分子栄養学、基礎栄養学、生化学実験書

【授業科目】 食品加工学

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

栄養士が果たすべき専門領域に関する能力を養い、栄養士に必要とされる知識、及び考え方の総合的能力を身につけることを目標とする。固有の加工・製造法がある各食品においてはそれぞれの特性に応じた貯蔵法も必要となるため、本授業では食品の分類別にみた加工法について概説し、個々の食加工の意義を理解することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

講義を主とするが、途中模擬試験や模擬試験解説を行い、教員による学生の理解度の把握も行う。

【授業の計画】

- (1) ガイダンス：食品加工の目的、意義、原理を学ぶ
- (2) 植物性食品の加工-1：穀類の加工法を学ぶ
- (3) 植物性食品の加工-2：大豆と豆類の加工法を学ぶ
- (4) 植物性食品の加工-3：イモ類、野菜、果実類の加工法を学ぶ
- (5) 植物性食品の加工-4：デンプンの製造と利用法を学ぶ
- (6) 動物性食品の加工-1：肉の加工法を学ぶ
- (7) 動物性食品の加工-2：乳の加工法を学ぶ
- (8) 動物性食品の加工-3：卵の加工法を学ぶ
- (9) 動物性食品の加工-4：魚の加工法を学ぶ
- (10) 油脂食品：油脂の加工法を学ぶ
- (11) 調味料：調味料の加工法を学ぶ
- (12) 嗜好食品：嗜好食品の加工法を学ぶ
- (13) 新しい加工技術：近年の新しい加工技術法を学ぶ
- (14) 劣化要因：貯蔵における劣化要因と貯蔵法の関係を学ぶ
- (15) 包装：包装の意義、包装の種類に関して学ぶ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたっては概ね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

日々の食生活において接する食材の一般成分を教材に、その性質を意識しながら過ごすこと。

【評価方法・基準】

8回目終了後に行う中間試験得点40%、期末試験得点40%、学習態度20%により総合的に評価する。

【教 材】

スタンダード栄養・食物シリーズ7「食品加工貯蔵学」(株)東京化学同人

【キーワード】

食品加工、貯蔵、包装、腐敗、防腐

【授業科目】 食品学実験Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 藤井 わか子

(自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

この授業は食品を調理する過程で生じる現象について、科学的、物理的に解明して、その理論を理解するように実験を通して身に付ける。そして、おいしい料理を再現できるようにする。さらに、おいしさの評価方法をいくつかの官能評価の手法を習い、実施し、修得する。

【授業の内容及び方法】

テーマごとにそれぞれの調理性を勉強して、実験に当たり、その実験結果より理論どおりの結果になったか、ならない場合はどうしてかを考察を行うこと。

【授業の計画】

- (1) オリエンテーション……………実験の進め方、レポートの書き方、評価の方法など
- (2) 調理の五感を鍛える……………味の感じ方と味の相互作用
- (3) 調理操作の変化……………野菜の吸収と脱水、調味の浸透
- (4) 米の調理性……………米の吸水、炊飯、浸漬効果
- (5) 小麦粉の調理性……………砂糖、油脂などがクッキーの及ぼす影響
- (6) 芋の調理性……………いもの加熱方法の違いによる甘みならびに物性の変化
- (7) 野菜の調理性……………溶液の違いによる野菜の加熱の特性
- (8) 砂糖の調理性……………砂糖の加熱変化とシロップ、フォンダンなど
- (9) 鶏卵の調理性……………卵液の添加物による熱凝固性
- (10) 寒天・ゼラチンの調理性 (1) ……寒天ゲル、カラギーナンゲル ゼラチンゲルの濃度とゼリー強度の違いと添加物による違い
- (11) 寒天・ゼラチンの調理性 (2) ……寒天ゲル、カラギーナンゲル ゼラチンゲルの濃度とゼリー強度の違いと添加物による違い
- (12) まとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間)について】

毎回の実験目的、実験方法を理解して、実験に当たる。授業全体で30時間程自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

毎回レポート提出すること。欠席の場合もレポートの提出すること。提出はCEASで行う。

【評価方法・基準】

レポート提出状況(20%)、レポート評価(80%)

【教 材】

教科書 : プリント

参考文献 : 渋川祥子 畑井朝子 著 ネオエスカ 調理学 第二版 (同文書院)
山崎清子 島田キミエ 著 調理と理論 同文書院

【キーワード】

調理特性 味 物性 温度と時間 官能評価

【授業科目】 食品加工実習

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では食品という身近な試料を用いて、実験操作を通して自分の目と手で実際に経験し、理解を深めることを目的としている。また本授業は加工食品の原材料と製造工程を学び、加工食品を正しく理解することで加工食品を食生活に資するための留意点を学ぶことを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

農産、畜産、水産加工品からいくつかを取り上げてその原材料と配合割合、製造工程、製造上の留意点、貯蔵の原理など、食品加工学で学んだ内容を復習しながらグループで実習を行う。

【授業の計画】

- (1) ガイダンス：受講上の注意、安全確保のための注意、講義スケジュールの説明
- (2) リンゴジャム：濃縮の具合を屈折糖度系で確認しながら砂糖を加える
- (3) うどん：強力粉に塩を入れ、グルテンの粘弾性を高める
- (4) バター、パン：生乳から生クリーム、バターを分離する。また、パンの製法を理解する
- (5) でんぷん：じゃがいもからでんぷんを精製する
- (6) 果実酒・日本酒：醸造酒とリキュールの製法の違いを学ぶ
- (7) ヨーグルト：乳酸発酵の仕組みと有用微生物（乳酸菌）の働きを理解する
- (8) 豆腐：豆腐製造工程での呉汁、豆乳、おからの生成とタンパク質凝固の機序を知る
- (9) 蒲鉾：魚肉の塩ずりの効果と加熱によるゲル形成を体験する
- (10) こんにやく：こんにやくいもから板こんにやくを作る
- (11) 真空調理（肉料理）：煮豚の製造（真空調理に伴う収縮率の低さを学ぶ）
- (12) 自由課題：これまでの加工法を駆使し、新しい加工食品をグループ毎に提案する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

本授業は食品学加工学の内容を受けての展開となるため、受講前に当該科目を復習しておくこと。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

日頃目にする加工食品の食品加工の目的、食品の腐敗抑制に関して、各食品ごとにどのような処理がなされているかを意識すること。

【評価方法・基準】

受講態度50%、レポート50%により総合的に評価する。

【教 材】

食品製造化学（建帛社）

【キーワード】

食品 加工法 製パン 製麺 レトルト 真空調理

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標：栄養士として食の安全を確保するにあたって、食品衛生に係る科学的評価の方法について理解・実践することをめざす。

到達目標：作業環境、水ならびに食品等の衛生学的検査方法について理解でき、実際に検査・測定ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

作業環境、水質、食品等について、各回実験プリントを配布し、原理および（性状）検査方法を実習概説する。

【授業の計画】

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1) 実験諸注意および実験機器と操作 | 食品衛生学実験の説明と実験機器の操作 |
| 2) 環境衛生、作業環境測定 | 温度、湿度、気流、不快指数、照度、騒音、浮遊微生物 |
| 3) 鮮度測定① | 獣肉、魚肉たんぱく質、牛乳、米、卵の腐敗・変質検査 |
| 4) 鮮度測定② | 油脂の酸敗検査 |
| 5) 食品添加物の検査 | 着色料、発色剤、殺菌料の定性検査、 |
| 6) 環境細菌検査① | 培地作成および細菌の消毒・殺菌 |
| 7) 環境細菌検査② | 菌観察および判定 |
| 8) 食中毒菌検査① | 食品等からの細菌検査-培地作成- |
| 9) 食中毒菌検査② | 食品等からの細菌検査-分離- |
| 10) 食中毒菌検査③ | 食品等からの細菌検査-同定、滅菌- |
| 11) 食品の組み換え遺伝子検査① | DNA抽出およびPCR |
| 12) 食品の組み換え遺伝子検査② | 電気泳動および判定 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

はじめに実験計画を説明するので、各回の実験関連項目（実験方法、関連法規等）について、事前に予習しておくことが望ましい。加えて、復習を兼ねて実験終了後は各自レポートを提出する。日々の予習・復習、レポート作成に加えて、休日や長期休業期間などを利用して概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

P2 実験室を使用するため、白衣がない場合は入室できない。また、劇毒物薬等を使用する実験もあるので、指示に従い時間内に的確に作業を行うことに注意する。実験中は私語を慎み、無駄に席を立たないよう気を付ける。その他、実験前の諸注意を厳守すること。

【評価方法・基準】

レポート（80%）、学習意欲（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：食品衛生学実験プリント（配布）

参考文献：Nボックス 食品衛生学実験、その他関連する資料（文献、書籍、HP等）

【キーワード】

環境検査、消毒・殺菌法、腐敗・変質検査、添加物検査、食中毒細菌検査、遺伝子検査

【授業科目】 臨床栄養学

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

疾病時における身体と栄養生理的特性を知り、疾病治療のための栄養管理および栄養処方能力を習得することを授業目標とし、生活習慣病についての具体的な栄養管理を理解することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

臨床栄養学では疾患時の栄養代謝動態と、これらを改善もしくは治療を補助する栄養管理について習得する。また、病院の栄養部門における栄養士が関わる職務や取り扱う食品についての理解を深める。授業はパワーポイントプレゼンテーションを用いて説明する講義形式で行う。

【授業の計画】

1. 臨床栄養とは（病院の栄養士の役割、管理栄養士の役割）、医療倫理、診療報酬
2. 病態の栄養評価①臨床検査・臨床診査
3. 病態の栄養評価②栄養量算出
4. 病院における栄養管理法（病態栄養管理と成分栄養管理）
5. 糖尿病
6. 肥満・脂質異常症
7. 高血圧症
8. 循環器・血栓性疾患
9. 腎臓疾患
10. 胃腸疾患
11. 肝臓疾患
12. 膵臓疾患
13. 血液疾患
14. 骨疾患
15. アレルギー疾患

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習，復習，試験対策および試験後の見直しを含めて、概ね 30 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

定期試験(70%)、受講態度(30%)として評価する。

【教 材】

教科書 NEXT 臨床栄養学概論 講談社 (2,600 円)

わかりやすい疾患別栄養ケア・マネジメントー献立から指導までー 学建書院 (2,800 円)

松崎政三・福井富穂・田中明編著 臨床栄養管理ポケット辞典 建帛社 (2,800 円)

【キーワード】

臨床栄養 栄養評価 病院給食経営管理

【授業科目】 臨床栄養学実習 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

臨床栄養管理における傷病者の疾病の状況や栄養状態に応じた栄養素の増減や食事の形態、調理法などを調整する能力の習得を目標とし、これらを調整する能力の習得を到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

臨床栄養管理実習 I では、臨床で提供される食事のうち、基本となる成分コントロールについて献立の検討や調理などを通して理解を深める。

【授業の計画】

1. 臨床栄養学実習 I 概要 講義
2. 臨床における給食管理・治療食献立の成り立ち 講義
3. 常食献立の立案 (実習講義)
4. 常食献立から治療食献立への展開 (1) エネルギーコントロール食 (実習講義)
5. エネルギーコントロール食の指定献立調理と検食 (実習)
6. 常食献立から治療食献立への展開 (2) 減塩食 (実習講義)
7. 減塩食の指定献立調理と検食 (実習)
8. 常食献立から治療食献立への展開 (3) 脂質コントロール食 (実習講義)
9. 脂質コントロール食の指定献立調理と検食 (実習)
10. 常食献立から治療食献立への展開 (4) たんぱく質コントロール食 (実習講義)
11. たんぱく質コントロール食の指定献立調理と検食 (実習)
12. 衛生管理
13. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習、復習、献立課題や実習レポート作成を含めて、概ね 15 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

調理は、班単位での実習となるため、班員との協力を心がけることを期待する。

【評価方法・基準】

実習に関するレポート、学習態度によって総合的に評価する。

評価の配分は、レポート(50%)、受講態度 (50%) である。

【教 材】

教科書：わかりやすい疾患別栄養ケア・マネジメントー献立から指導までー 学建書院 (2,800 円)

糖尿病患者のための食品交換表 第7版 文光堂 (900 円)

腎臓病食品交換表 第8版 医歯薬出版 (1,500 円)

参考文献：宗像伸子編著 一品料理500選 医歯薬出版

【キーワード】

臨床調理、特別治療食、一般治療食、エネルギーコントロール食、食塩制限食

【授業科目】 臨床栄養学実習 II

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

臨床栄養管理における傷病者の疾病の状況や栄養状態に応じた栄養素の増減や食事の形態、調理法などを調整する能力の習得を目標とし、自主献立の調理実習・検食を通じて治療食立案を習得することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

臨床栄養管理実習 II では、症例別供食実習や指導演習を通して食事計画能力を修得する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、臨床栄養管理(復習)
2. 献立展開の概要
3. エネルギーコントロール食・減塩食のオリジナル献立作成
4. エネルギーコントロール食の調理と指導媒体の作成
5. 脂質コントロール食・たんぱく質コントロール食の概要
6. 脂質コントロール食のオリジナル献立作成
7. たんぱく質コントロール食のオリジナル献立作成
8. 脂質コントロール食の調理と指導媒体の作成
9. たんぱく質コントロール食の調理と指導媒体の作成
10. 易消化食の献立作成
11. 易消化食の調理
12. 術前・術後食、摂食・嚥下障害食 実習講義
13. 衛生管理
14. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習、復習、献立課題や実習レポート作成を含めて、概ね 15 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

調理は、班単位での実習となるため、班員との協力を心がけることを期待する。

【評価方法・基準】

実習に関するレポート、学習態度によって総合的に評価する。

評価の配分は、レポート(50%)、受講態度 (50%) である。

【教 材】

教科書：わかりやすい疾患別栄養ケア・マネジメントー献立から指導までー 第一出版

糖尿病患者のための食品交換表 第7版 文光堂

腎臓病食品交換表 第8版 医歯薬出版

参考文献:宗像伸子編著 一品料理500選 医歯薬出版

【キーワード】

臨床調理、特別治療食、一般治療食、エネルギーコントロール食、食塩制限食

【授業科目】 公衆栄養学

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 徳広 千恵

(自室番号 125)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、地域住民や集団の健康・栄養問題の現状を把握し、それらを取り巻く要因を分析・評価する能力の養成と公衆栄養活動を効率的・効果的に進めるための公衆栄養マネジメントに必要な理論と方法の修得をめざす。到達目標は、栄養疫学と公衆栄養活動を関連づけることができる、PDCAサイクルに基づく公衆栄養マネジメントの説明ができる、健康増進対策「健康日本 21 (第二次)」や食育推進活動等について述べるができる。

【授業の内容及び方法】

公衆栄養の概念、栄養政策、健康・栄養問題の現状と課題、公衆栄養活動の進め方、管理栄養士・栄養士制度や関係法規、栄養疫学、公衆栄養マネジメント、食事摂取基準等について概説する。

【授業の計画】

1. 公衆栄養の概念 公衆栄養の意義と目的、公衆栄養活動の歴史
2. 健康・栄養問題の現状と課題① 社会環境と健康・栄養問題、健康状態の変化
3. 健康・栄養問題の現状と課題② 食事の変化、食生活の変化
4. 健康・栄養問題の現状と課題③ 食環境の変化、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題
5. 栄養政策① わが国の公衆栄養活動
6. 栄養政策② 公衆栄養関連法規、わが国の管理栄養士・栄養士制度
7. 栄養政策③ 国民健康・栄養調査
8. 栄養政策④ 公衆栄養活動の実施に関する指針、ツール
9. 栄養政策 国の健康増進基本方針と地方計画、諸外国の健康・栄養政策
10. 栄養疫学 栄養疫学の概要、食事摂取量の測定方法及び評価方法
11. 公衆栄養マネジメント① 公衆栄養マネジメントの考え方・重要性、公衆栄養アセスメント
12. 公衆栄養マネジメント② 公衆栄養プログラムの目標設定、計画、実施、評価
13. 公衆栄養プログラムの展開① 地域特性に対応したプログラムの展開
14. 公衆栄養プログラムの展開② 食環境づくりのためのプログラムの展開
15. 公衆栄養プログラムの展開③ 地域集団の特性格プログラム展開

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業前に教科書の該当する箇所や配布する資料等を熟読しておくこと。授業後は、再読して内容の理解を深めること。上記の予習・復習などを含め概ね 30 時間の自主学修時間が必要。

【履修上の注意・要望等】

公衆栄養学は、応用的で地域や集団を対象とし、社会・経済・行政的側面を取り扱うため、平素から報道に接し、社会的情勢 (特に健康・栄養問題に関する事項) について見聞を広めておくこと。

【評価方法・基準】

定期試験 (70%)、課題提出 (レポート等) (20%)、小テスト (10%) 等により総合的に評価する。

【教 材】

教科書: ウエルネス 公衆栄養学 2018 年版 (医歯薬出版)

参考文献: 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)、国民健康・栄養の現状 (第一出版)

日本人の食事摂取基準 2015 年版 (第一出版) 食料需給表の概要 (農林水産省)

【キーワード】

ヘルスプロモーション、マネジメントサイクル、国民健康・栄養調査、食事摂取基準、健康日本 21 栄養疫学、特定健康診査・特定保健指導、食事摂取基準、健康日本 21、食料需給率

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、栄養指導論Ⅰの基礎知識をもとに対象別の栄養指導の課題と指導方法と技術を修得することをめざす。

各ライフステージ別の栄養特性や栄養上の問題点とその指導方法や栄養指導が必要な代表的疾患の特徴とその指導方法と技術を理解し、実践に活かすことができる。

【授業の内容及び方法】

各ライフステージ・ライフスタイルに即した栄養指導、代表的疾患の栄養指導ができるための実践に必要なポイントを学ぶ。授業方法は、テキスト及び配布資料をもとに講義形式で展開する。

【授業の計画】

1. ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導の基礎知識
2. 妊娠期の栄養指導 妊娠期の栄養特性・栄養指導のポイント
3. 授乳期の栄養指導 授乳期の栄養特性・栄養指導のポイント
4. 乳児期の栄養指導 乳児期の栄養特性・栄養指導のポイント
5. 幼児期の栄養指導① 幼児期の栄養特性・栄養指導のポイント
6. 幼児期の栄養指導② 幼稚園・保育所での栄養指導
7. 学童期の栄養指導① 学童期の栄養特性・栄養指導のポイント
8. 学童期の栄養指導② 学校教育・学校給食と栄養指導
9. 思春期の栄養指導① 思春期の栄養特性・栄養指導のポイント、栄養・食生活の問題
10. 思春期の栄養指導② 肥満・やせ・貧血・摂食障害と栄養指導
11. 成人期の栄養指導① 成人期の栄養特性・栄養指導のポイント、栄養・食生活の問題
12. 成人期の栄養指導② 生活習慣病と栄養指導
13. 高齢期の栄養指導 高齢期の栄養特性、栄養指導のポイント、栄養・食生活の問題
14. 特定給食施設における栄養指導 病院・学校・事業所・福祉施設などの指導のポイント
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

様々な授業で学んだことがベースとなっていることを認識し、他の科目及び栄養指導論Ⅰで学習した内容は十分復習し、理解をしておくこと。この授業を履修するには、30時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

テキスト、配布された資料は、必ず再読すること。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って受講することを希望する。

【評価方法・基準】

試験(80%)、課題提出(10%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト：栄養士のための栄養指導論第5版(学建書院)

*適宜プリントを配布

参考文献：栄養教育論(各出版社)、日本人の食事摂取基準2015年版(第一出版)、授乳・離乳の支援ガイド(母子衛生研究会)

栄養教育スキルアップブック(化学同人)、管理栄養士・栄養士必携(第一出版)

【キーワード】

栄養教育、ライフステージ、ライフスタイル、栄養マネジメント

【授業科目】 栄養指導論実習Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 柳澤 ひとみ

(自室番号:)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、実際の栄養指導場面で個人・集団に適したさまざまな観点から指導ができるよう実践を取り入れ、栄養指導技術を修得することをめざす。

対象者(幼児)に適した指導媒体の作成、プレゼンテーション技法を修得できる。

【授業の内容及び方法】

栄養指導論実習Ⅰをさらに応用展開させ、ライフステージ・ライフスタイルに応じた実践、技術を学ぶ。また、実際に幼稚園児に対し、食育を行う。授業には、コミュニケーションスキルの向上を図るため、グループでの実習を多く取り入れている。

【授業の計画】

1. 栄養指導実践の準備① オリエンテーション、グループ討議
2. 栄養指導実践の準備② 学習形態、カウンセリングの技法
3. 栄養指導の模擬体験① ロールプレイング
4. 栄養指導の知識・技術① 情報収集と集計
5. 栄養指導の知識・技術② ライフステージ・スタイルに応じた栄養指導計画、指導案の書き方
6. 栄養指導計画① 食育(対象:幼児)実施に向けての計画・指導案の検討
7. 栄養指導計画② プレゼンテーション
8. 栄養指導計画③ 指導媒体作成
9. 栄養指導計画④ 附属幼稚園での食育実践準備(リハーサル・評価・改善・完成)
10. 栄養指導実施① 附属幼稚園児に食育(Aグループ) (Bグループ:課題実施)
11. 栄養指導実施② 附属幼稚園児に食育(Bグループ) (Aグループ:課題実施)
12. 他学科との食育模擬授業・評価

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

栄養指導論Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習し、理解を深めておくこと。

テキスト、今までに配布された資料、参考書等を十分読んでおくこと。

この授業を履修するには、15時間程度の自主学修が必要で日々及び長期休業などに予習・復習等の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

グループで実習する場合にあっては、特に主体性と協調性をもって取り組むこと。

授業内容の理解を深めるために課せるレポートは必ず提出すること。

【評価方法・基準】

提出課題(70%)、受講態度(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

テキスト:なし *適宜プリント配布

参考文献:栄養士のための栄養指導論第5版(学建書院)、栄養教育スキルアップブック(化学同人)

【キーワード】

プレゼンテーション技法、カウンセリング技法、栄養士実務

【授業科目】 給食管理Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 服鳥 昌子

(自室番号 226-2)

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：本授業は、給食管理Ⅰで学んだ内容を理解したうえで、実際に給食業務を行う事ができるように、給食管理の内容を理解して、実践できるようにする事を目的とする。

②到達目標：学内の給食施設を参考にし、具体的な給食管理の一例を学ぶことで、給食管理実習Ⅰにおいて、予定献立を作成し、実際に実施・再現・評価・反省できるように計画・準備することができる。

【授業の内容及び方法】

実務業務を実施する上で必要な問題点や留意点を理解するために、学内の給食施設を参考にし、具体的な給食管理の一例を示しながら、給食管理実習Ⅰと連動させて進めていく。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、給食施設の説明
2. 給食施設における衛生管理について①：ビデオ視聴
3. 給食施設における衛生管理について②：実践に向けての方法
4. 給食管理における作業工程表について①：給食室全体の作業工程について
5. 給食管理における作業工程表について②：エリアごとの作業工程について
6. 給食業務における帳簿類の説明
7. 給食管理における献立作成について①：説明
8. 給食管理における献立作成について②：実践に向けての方法
9. 給食管理における残食調査について
10. 栄養メモ・食卓メモの書き方について
11. 給食管理における検収について①：説明
12. 給食管理における検収について②：実践に向けての方法
13. ポスター・アンケートについて
14. 栄養出納の算出方法・加重平均成分表の算定について
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業時に指示した課題に取り組み、提出、発表できるように考えをまとめておくこと。

学修時間：おおむね 15 時間

【履修上の注意・要望等】

給食管理実習Ⅰの授業と連動して実施する。

【評価方法・基準】

提出課題(50%)、受講態度(20%)、学習意欲(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

「イラスト給食経営管理論」東京学舎、「栄養士課程実習ノート」熊沢昭子他共著、適宜プリントを配布

【キーワード】

給食管理、献立作成、作業工程、栄養出納、衛生管理

【授業科目】 給食管理実習 I

【単 位】 1

【学 期】 前期

【担当教員】 藤井 わか子・ (自室番号 226-2)

服鳥 昌子

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：本授業は、学内において給食管理の実習の場として設けられているものであり、各専門科目で基礎的に得た知識を応用し、給食の運営を通して給食管理能力を養うことを目的とする。

②到達目標：一般の調理を実施する実習室とは異なる給食施設の使用方法を習得し、計画立案・試作・評価・反省等の栄養士業務の模擬体験を反復することで、最終的には予定献立を条件に合うように再現し、提供することができる。

【授業の内容及び方法】

給食管理Ⅱと連動して、給食施設の使用手法や運営の流れを学び、クラスを数班に分けて、献立作成、実施計画、試作、評価・反省のサイクルで、本実習に向けて進めていく。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、
2. 献立作成：実施する献立をテーマに合わせ、各自で作成する
3. 実施計画（1）：班で試作用の献立を選出し、試作に向けて実施の計画を立案する
4. 試作：数種類の献立を、班ごとで再現して本実習で実施する献立を選出する
5. 実施計画（2）：試作を基に検討、修正し、プレ実習（1）に向けて実施の計画を立案する
6. プレ実習（1）：クラスの学生を対象に試作で決定した献立を再現し、提供する
7. 評価・反省・実施計画（1）各班で反省・日誌等帳簿の整理・プレ実習（2）に向けて実施の計画を立案する
8. プレ実習（2）：クラスの学生を対象にプレ実習（1）で決定した献立を再現し、提供する
9. 評価・反省・実施計画（2）：各班で反省・日誌等帳簿の整理・本実習に向けて実施の計画を立案する
10. 本実習：学内学生・教職員を対象にプレ実習（2）で決定した献立を再現し、提供する
11. 評価・反省：各班で反省・日誌等帳簿の整理をする
12. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：授業時に指示した課題に取り組み、提出、発表できるように考えをまとめておくこと。

復習：次回授業時まで、白衣の早着替えや、班ごとで打ち合わせ内容の確認をしておくこと。

学修時間：おおむね 15 時間

【履修上の注意・要望等】

常日頃から、挨拶をする習慣を身に付け、場に応じた言葉を使うことができるように心がけておくこと。また、衛生管理や体調管理にも充分気を付けておくこと。毎回の実習に臨むために適した服装も常に意識しておくこと。常に時間を意識し、限られた時間の中で作業を完成させることができるよう心掛けること。

【評価方法・基準】

提出課題(50%)、受講態度(20%)、学習意欲(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

「栄養士課程実習ノート」熊沢昭子他共著、「イラスト給食経営管理論」東京学舎、適宜プリントを配布

【キーワード】

特定給食施設、献立作成、大量調理、衛生、安全管理、体調管理、

【授業科目】 給食管理実習Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 服鳥 昌子

(自室番号 226-2)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：本授業では、栄養士の勤務する学外施設にて実地研修を受けることにより、具体的な栄養士像を学ぶことを目的とする。

②到達目標：栄養士としての責任感、実践力、協調性、専門性などを身に付けることができる。

【授業の内容及び方法】

数単位のグループごとで、津山市並びにその周辺の集団給食施設に出向き、給食管理や運営の実際を体験するとともに、栄養士業務の実地研修を行う。

【授業の計画】

※実習前(1)オリエンテーション、事前打ち合わせに関する実習先との電話連絡の実施：1時間

※実習前(2)実習先に出向き、事前打ち合わせの実施、打ち合わせの報告書の作成・提出：1時間

※学外実習期間(第1日目から第5日目まで)：1日8時間×5日間=40時間

・第1日目：栄養士の勤務する学外施設(事業所、福祉施設、病院、学校・学校食育センター・学校給食センターのいずれか)に出向き、施設見学・職員への挨拶に回り、概要案内・給食管理の実際や運営の流れ等につき、講義を受ける。

・第2日目：給食現場での調理実習、衛生管理、献立作成、帳簿の整理、対象者への配食や栄養指導・アンケート調査等を実際に体験する。

・第3日目：給食現場での調理実習、衛生管理、献立作成、帳簿の整理、対象者への配食や栄養指導・アンケート調査等を実際に体験する。

・第4日目：給食現場での調理実習、衛生管理、献立作成、帳簿の整理、対象者への配食や栄養指導・アンケート調査等を実際に体験する。

・第5日目：5日間の課題の提出をし、評価を受ける。反省会への出席をし、職員へのお礼のあいさつ等に回る。実習ノートのまとめをした後、担当栄養士より、指導の認印を受ける。

※実習後(1)実習先への礼状の作成・提出：2時間

※実習後(2)実習先からの評価についての講評：1時間

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予習：後期に入り、実習先から出された課題について取り組むこと

復習：2年次夏季休暇中に、調理学・応用栄養学・臨床栄養学・給食管理・給食献立作成論・食品衛生学及び各種実習授業のまとめ、献立作成のポイントのまとめをしておくこと

学修時間：おおむね15時間

【履修上の注意・要望等】

2年間の常日頃から、挨拶をする習慣を身に付け、場に応じた言葉を使うことができるように心がけておくこと。また、体調管理にも充分気を付けておくこと。学外実習への参加資格は、内規に定められている(単位の取得状況・学科での普段の受講態度等)項目を満たす必要がある。

【評価方法・基準】

提出課題(50%)、実習施設からの個別評価(20%)、受講態度(10%)、学習意欲(20%)により総合的に評価する。

【教 材】

熊沢昭子他「栄養士課程実習ノート」(医歯薬出版)

【キーワード】

栄養士の業務、給食の運営、給食管理、食育、献立作成

【授業科目】 学外実習指導

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 服鳥 昌子 (自室番号 226-2)

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標：本授業では、栄養士の勤務する学外施設にて実地研修を受けるために、事前の準備を行う事で目的意識を高めるとともに、事後のまとめや報告を行う事で、効果的な成果を得る事を目的とする。

②到達目標：栄養士の勤務する学外施設での実地研修が円滑に行われ、具体的な栄養士業務を学ぶとともに、社会における人間関係の重要性や礼儀を身に付けることができる。

【授業の内容及び方法】

学外施設への実習に出るまでの授業で、模擬体験の実施や過去の事例について協同で取り組む(★印：テーマを決めて協議し、意見交換する)。事後にはグループごとで実習体験報告をまとめ、報告会にて成果を確認し、施設ごとの実際や違い・共通して重要な事柄について学ぶ。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 事前① 班分け、実習先発表、挨拶練習、★、意識確認のためのレポート作成、
3. 事前② 挨拶練習、白衣の早着替え練習、リーダー選出、実習先への電話のかけ方練習、★
4. 事前③ 挨拶練習、白衣の早着替え練習、(実習先への電話連絡実施)、実習先との事前打ち合わせ時の練習、打ち合わせ報告書の書き方説明、★
5. 事前④ 挨拶練習、白衣の早着替え練習、個人情報保護法・実習先からの評価についての説明、実習ノートの記入の仕方の説明・実施Ⅰ、検便指導Ⅰ、★
6. 事前⑤ 挨拶練習、白衣の早着替え練習、実習ノートの記入の仕方説明Ⅱ、検便指導Ⅱ、過去の事例について協議・意見交換、★
7. 事前⑥特別授業Ⅰ：学内講師によるコンピューターウイルス対策についての説明・実施
特別授業Ⅱ：学外実習指導者による学外実習の心構えや栄養士業務に関する講話
8. 事前⑦ 挨拶練習、白衣の早着替え練習、実習直前の諸注意・再確認、検便証明書等配布、★
.....(給食管理実習Ⅱ).....
9. 事後① 礼状の書き方説明、礼状下書き作成、臨地実習票の提出
10. 事後② 実習期間中の個人負担金報告書の記入・提出、学外実習を終えてのアンケートへの回答
11. 事後③ 合同報告会についての意義・取り組みについて説明及び役割分担、報告会報告書の作成・提出
12. 事後④特別授業Ⅲ：学内講師による栄養士免許申請についての説明、実習ノートの提出、報告会発表練習Ⅰ、負担金返金、
13. 事後⑤ 実習ノートの返却、報告会発表練習Ⅱ
14. 事後⑥ 1・2年生・学科教職員参加による合同報告会、感想文記入・提出
15. 事後⑦、まとめ、アンケートの記入・提出

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

予習：授業時に指示した課題に取り組み、提出したり、発表できるように考えをまとめておくこと。

復習：次回授業時まで、白衣の早着替えや、班ごとで挨拶練習、発表練習をしておくこと。

学修時間：おおむね10時間

【履修上の注意・要望等】

常日頃から、挨拶をする習慣を身に付け、場に応じた言葉を使うことができるように心がけておくこと。また、体調管理にも充分気を付けておくこと。毎回の授業に臨むための服装も受講者同士で話し合い、決まりを設けるのでそれに従うこと。

【評価方法・基準】

提出課題(50%)、受講態度(20%)、学習意欲(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

「平成29年度 学外実習事前事後指導 実習の手引き書」

【キーワード】

挨拶の仕方、敬語の使い方、体調管理、礼状の書き方、電話の応対・かけ方

【授業科目】 調理学実習Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 藤井 わか子 (自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科 2年

【到達目標及び学習内容】

前年度に引続き、基本的な調理操作、調理上の問題点を考えながら、実習を行っていく。内容は、栄養士として、できるだけ多くの料理とその技法（切り方、盛り付け方）を身につけ、それぞれの理論を理解し、実習することができるように訓練する。献立作成できるよう、分量、材料の組合せなどを確認し、テーマに沿って料理を提案する。

【授業の計画】

- (1) 実習の内容説明
- (2) 日本料理①：ご飯 若竹汁 天ぷら おろし和え うぐいす餅
- (3) 西洋料理①：ライス コンソメロワイヤル ポークソティ コールスロー ブラマンジェ
- (4) 中華料理①：五目飯 うずらの卵のスープ もち米蒸し団子
- (5) 日本料理②：赤飯 赤だし味噌汁 かば焼きもどき ごま豆腐
- (6) 西洋料理②：ライス オニオンスープ ビーフストロガノフ パウンドケーキ
- (7) 中華料理②：ご飯 ハムとほうれん草のスープ 回鍋肉 涼拌豆芽 あん入り白玉団子
- (8) 日本料理③：巻きずし いなりずし 吉野鶏の澄まし汁 黄身酢あえ
- (9) 西洋料理③：パエリア ヴィシソワーズ マセドアンサラダ 二色ゼリー
- (10) 中華料理③：鶏蓉粟米湯 麻婆豆腐 涼拌海蟹 粽子
- (11) 夏の日本料理：ご難 冷汁 卵豆腐 さわらの西京焼き 水ようかん
- (12) 実習のまとめ

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間)について】

実習前にプリント、テキストをよく復習し、実施日にスムーズに行くようにグループで話し合う。料理の栄養価、作り方を記録して、留意点を記録しておく。

【履修上の注意・要望等】

一人分の分量と味付けとしっかり身につける。積極的に学ぶ。実技試験を行う。

【評価方法・基準】

実習態度(10%)、調理カード提出(30%)、実技試験(30%)、筆記試験(30%)

【教 材】

教科書：大羽和子他「調理学実習」(ナカニシヤ出版)

参考文献：山崎清子 島田キミエ 「調理と理論」(同文書院)

【キーワード】

調理実習 献立立案 基礎と応用

【授業科目】 栄養情報処理演習 I

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

コンピューターを用いたデータ操作は、栄養士実務において頻繁に行われ、給食管理の専用アプリケーションを除き、Microsoft Office®の使用頻度が高い。演習では、本アプリケーションを用いて、情報処理のスキルを習得することを授業目標とし、基本となる栄養計算シートを作成することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

栄養情報処理演習 I においては、表計算アプリケーションのスキルを身につけるべく、基本操作、データベースや基礎的な関数を習得し、オリジナルの栄養計算フォームを作成する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ソフトの画面やメニューの説明及び実際の操作
3. 表計算、グラフの操作
4. データベース（ソート）の操作
5. 統計処理の関数① 統計関数
6. 統計処理の関数② 論理関数
7. 統計処理の関数③ 行列関数
8. 調査テーマに基づいたデータの分析
9. 食品成分表データベースの作成 成分表データ入力
10. オリジナル栄養計算ソフトの作成① 成分表データベースの並び替え
11. オリジナル栄養計算ソフトの作成② 行列関数による抽出
12. オリジナル栄養計算ソフトの作成③ 表示方法の設定
13. オリジナル栄養計算ソフトの作成④ 動作確認
14. 献立作成と栄養計算
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習，復習，レポート作成を含めて概ね 15 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

栄養士の実務に必要とされるソフト操作を知り、目的意識を持って授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

レポート(60%)、受講態度(40%)として評価する。

【教 材】

教科書 食品成分表（最新のものであれば、出版社は問わない）

【キーワード】

Microsoft Excel、表計算、グラフ作成、統計

【授業科目】 栄養情報処理演習 II

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 橋本 賢

(自室番号 224)

【対象学生】 栄養学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

栄養士の情報処理実務として、立案した献立からの食事指導媒体作成、栄養管理カルテへの反映などのスキルを身につけることを授業目的とし、情報処理技術の関連性を理解することを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

栄養情報処理演習 II においては、栄養情報処理演習 I で作成した献立計算シートを栄養指導媒体である糖尿病食品交換表のデータベースに連携させる。主に Microsoft Excel を用いて演習を行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 栄養計算ソフトの印刷フォーム作成 (1 日献立印刷)
3. 栄養計算ソフトの印刷フォーム作成 (1 食献立印刷)
4. 糖尿病食品交換表のデータベース化 (データベース作成方法の検討)
5. 糖尿病食品交換表のデータベース化 (データベース入力)
6. 糖尿病単位計算表のシート枠組みの検討・作成
7. 糖尿病交換表データベースからの情報抽出 (データベース関数の作成)
8. 糖尿病交換表データベースから抽出された情報の操作
9. 糖尿病単位計算表の関数エラーの修正
10. 糖尿病単位計算ソフトの印刷フォーム作成 (1 日献立印刷)
11. 糖尿病単位計算ソフトの印刷フォーム作成 (1 食献立印刷)
12. 献立立案による動作確認
13. 栄養管理計画書の概要、栄養評価のための計算式
14. 栄養管理計画書のフォーム作成・計算式入力
15. まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

予習：事前に教科書を読んで、受講中に理解を深められるようにしておくこと。

復習：配布資料を用いて講義内容を整理して、他分野と関連について理解を深めておくこと。

学修時間：予習、復習、レポート作成を含めて、概ね 15 時間の自主学修を休日や長期休暇なども利用して行うこと。

【履修上の注意・要望等】

栄養士の実務に必要とされるソフト操作を知り、目的意識を持って授業に臨むこと。演習内容により、調理用白衣、帽子などが必要となります。

【評価方法・基準】

レポート (60%)、受講態度 (40%) として評価する。

【教 材】

教科書 食品成分表 (最新のものであれば、出版社は問わない)

応用栄養学、臨床栄養学概論で使用する教科書一式

【キーワード】

Microsoft Excel、表計算、グラフ作成、統計

【授業科目】 フードコーディネーター論 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 藤井 わか子 (自室番号 223)

【対象学生】 栄養学科2年

【授業の目標及び到達目標】

フードスペシャリストの仕事は食の流通や消費の場面で、食べ物の官能評価や鑑別ができる専門職であり、料理を提供する場面で、快適な食事ができるように、料理、メニュー、食卓、食空間を含めた食のコーディネートを行うことができる食の専門職である。この授業では食事の楽しさとおいしさ、さらには健康を支える食を企画、構成、演出することを学ぶ。

【授業の内容及び方法】

主の内容は食生活の感性、食文化、調理文化の構造と変容、メニュープランニング、テーブルウェアの知識と演出、食事作法、トータルプランを総合的に理解する。そこでフードスペシャリストとしての必要な実践力を身につける。

【授業の計画】

- (1) フードコーディネーターの基礎理念
- (2) 食事の文化(1) 日本の食事の歴史
- (3) 食事の文化(2) 外国の食事
- (4) 食事の文化(3) 特別な日の食事
- (5) 食卓のコーディネート (1) テーブルコーディネーターの要点
- (6) 食事のコーディネート (2) 料理様式別の食卓のコーディネート
- (7) 食卓のサービスとマナー(1) サービスとマナーの基本 (日本料理、中国料理、西洋料理)
- (8) 食卓のサービスとマナー(2) パーティの種類、プロトコルの概念
- (9) メニュープランニング (1) メニュープランニングの要件
- (10) メニュープランニング (2) 料理様式とメニュー開発
- (11) 食空間のコーディネート
- (12) フードサービスマネジメント(1) フードサービスマネジメントの動向と特性
- (13) フードサービスマネジメント(2) マネジメントの基礎
- (14) 企画の実践コーディネート(1) 外部講師の話 その1
- (15) 企画の実践コーディネート(2) 外部講師の話 その2

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

資格試験のために授業後、まとめておくこと。

外部講師として、起業をしている方の話を聞く (2回) マナー、サービスの実際を体験する。
概ね30時間程度の学修時間が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

この科目はフードスペシャリスト資格のため科目で、資格試験を希望する学生は履修すること。
資格試験のために、12月の試験までに(1)から(13)までを終了し、模擬試験を実施する。

【評価方法と基準】

模擬試験(30%) 課題レポート提出(30%) ノート提出(40%)

【教 材】

教科書：日本フードスペシャリスト協会編 フードコーディネーター論 (建帛社)

参考文献：日本フードスペシャリスト協会編 フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集 (建帛社)

【キーワード】

フードコーディネーター メニュープランニング 食空間 フードマネジメント

【授業科目】 栄養学特別演習

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 桑守 正範

(自室番号 210)

【対象学生】 栄養学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

これまで培ってきた栄養士としての実力・基礎学力を見据え、実力の伴う栄養士として活躍することを目的として、学科ならびに学生が到達点を確認する授業として開講する。本授業の履修により受講者が卒業後に必要とされる技能やスキルを正しく理解し、継続した勉学に励むことを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

栄養士としての実力を確認することを目的とし、栄養士養成施設協会認定栄養士実力試験の対策講座を各教科教員が持ち回りで担当する。

【授業の計画】

- (1) ガイダンス：栄養学特別演習の趣旨・進め方の説明
- (2) 食品学総論：食品成分の働き、性質を復習する
- (3) 食品学各論：個々の食品の特徴を復習する
- (4) 食品機能学：食品のもつ機能性を復習する
- (5) 基礎栄養学：基礎栄養学の内容を復習する
- (6) 応用栄養学：応用栄養学の内容を復習する
- (7) 臨床栄養学：臨床栄養学の内容を復習する
- (8) 生化学：生化学の内容を復習する
- (9) 人体構造学：人体の構造に関する講義内容を復習する
- (10) 人体機能学：各臓器、器官の機能に関する講義内容を復習する
- (11) 栄養教育論：栄養教育論の内容を復習する
- (12) 公衆衛生学：公衆衛生学の内容を復習する
- (13) 食品衛生学：微生物による汚染に関する講義内容を復習する
- (14) 食品衛生学：食品添加物に関する講義内容を復習する
- (15) 調理学：調理学の内容を復習する

上記の計画は予定で、担当者により時間数を変更することがある。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

本授業はこれまでの受講内容を受けての展開となるため、受講前に当該科目を復習しておくこと。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

最終的な評価は二年次の12月に行われる栄養士認定実力試験によってなされるため、栄養士必須科目に関して総合的に復習しておくこと。

【評価方法・基準】

12月に行われる栄養士認定実力試験80%、学習態度20%により総合的に評価する。

【教 材】

各教科担当教員から適宜指示をする。

【キーワード】

栄養士実力認定試験、栄養学、食品学、衛生学、調理学

幼兒教育學科 1 年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年		資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	保育士	教員免許		
導科 入目	1年次セミナー	演習	2		○					81
教養・ 基礎 科目	日本語リテラシー	講義		2	○		△			82
	現代生活論	講義		2	不開講		△			
	心理学概論	講義		2	○		△			83
	遊びと人間	講義		2	○		△			84
	日本国憲法	講義		2	○		△	◎		85
	絵本と子どもの世界	講義		2	○					86
キ ャ リ ア 科 目	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講					
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○					87
	インターンシップ実習	実習		1	○					88
	ボランティア実習	実習		1	○					89
情 報 リ テ ラ シ イ 科 目	情報リテラシー	演習		2	○		△	◎		90
	情報活用演習	演習		1		○				
外 国 語 科 目	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	○		◎	◎		91
	英語コミュニケーションⅡ	演習		1	○		◎	◎		92
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○				93
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○				94
ス ポ ー ツ 健 康 科 目	レクリエーション概論	講義		2	○					95
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○					96
	スポーツ健康講義	講義		1	○		◎	◎		97
	スポーツ健康実習	実習		1	○		◎	◎		98
単 科 位 目 互 換	放送大学科目Ⅰ	—		—	○	○			通算して2単位まで卒業要件に含む	99
	放送大学科目Ⅱ	—		—	○	○				99

【卒業要件】 必修科目2単位と選択科目8単位を合わせた、計10単位以上を修得のこと。

【備考1】 保育士・教員免許欄の◎印科目は、必修科目。

【備考2】 保育士欄の△印科目は、3科目6単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

授 業 科 目	授業 形態	単位数		学年配当		資格		備 考	頁
		必修	選択	1年	2年	保育士	教員免許		
保育原理	講義	2		○		◎			100
社会的養護	講義	2		○		◎			101
保育計画論	講義		2	○		▲			102
介護原論	講義		2		○	▲			
教育原理	講義	2		○		◎	◎		103
教育法規	講義		2		○		◎		
教育史	講義		2	本年度休講			▲		
社会福祉	講義		2	○		◎			104
相談援助	演習		1		○	◎			
児童家庭福祉	講義	2			○	◎			
教職論	講義		2		○	◎	◎		
教育心理学	講義	2		○		▲	◎		105
保育の心理学Ⅰ	講義	2		○		◎	◎		106
保育の心理学Ⅱ	演習		1		○	◎			
子どもの保健Ⅰ	講義		4		○	◎			
子どもの保健Ⅱ	演習		1		○	◎			
子どもの食と栄養	演習		2		○	◎			
家庭支援論	講義		2		○	◎			
保育課程論	講義	2		○		◎	◎		107
保育内容総論	演習	2			○	◎	◎		
保育内容健康	演習	2		○		◎	◎		108
保育内容人間関係	演習	2		○		◎	◎		109
保育内容環境	演習	2		○		◎	◎		110
保育内容言葉	演習	2		○		◎	◎		111
保育内容表現Ⅰ	演習	2			○	◎	◎		
保育内容表現Ⅱ	演習	2			○	◎	◎		
保育内容研究Ⅰ	演習		2		○	▲	◎		
保育内容研究Ⅱ	演習		2	○		▲	◎		112
乳児保育	演習		2		○	◎			
障がい児保育	演習		2		○	◎			
社会的養護内容	演習		1	○		◎			113
保育相談支援	演習		1		○	◎			
保育相談の基礎	講義		2		○	▲	◎		
保育方法論	講義		2		○		◎		
国語	講義		2	○			◎	児童文学を含む	114
幼児音楽	演習	2		○		◎	◎		115
幼児造形	演習	2		○		◎	◎		116
幼児体育	演習	2			○	◎	◎	1年後期から2年前期にかけて履修のこと	117
総合表現技術	演習	2		○		◎			118~120
声楽	実技		2	○		▲	◎		121
器楽Ⅰ	演習		2	○		▲	◎		122
器楽Ⅱ	演習		1		○	▲	◎		
教育実習指導	実習		5		○		◎		
教育実習	実習				○				
保育実習指導Ⅰ	演習		2	○	○	◎			123
保育実習Ⅰ	実習		4	○	○	◎		1年後期(保育所10日)、2年前期(施設10日)	124
保育実習指導Ⅱ	演習		1		○	△			
保育実習Ⅱ	実習		2		○			2年後期(保育所10日)	
保育実習指導Ⅲ	演習		1	本年度休講			△		
保育実習Ⅲ	実習		2	本年度休講					
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2		○	◎	◎		

【卒業要件】必修科目36単位に選択科目16単位を加え、52単位以上取得すること。

【備考1】保育士欄および教員免許欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印の科目は選択科目。

【備考2】保育士資格取得希望者は、保育士欄の◎印の科目に加え、▲印の科目を6単位以上修得すること。

歌と音を楽しむ		—	—	○				美作高校サテライト受講者用	125
---------	--	---	---	---	--	--	--	---------------	-----

【授業科目】 1年次セミナー

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 担当教員 他

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

この授業の目標は、学生生活への円滑な適応ならびに大学における学修の仕方を学び、基礎学力の形成と充実を目指すものである。学生は、この授業を通して本学が示す教育目標と教育内容を理解し、それらと関連づけて在学期間全体を通して主体的に学びうるよう、1年次において「大学での学び」に関わる基礎的知識や技術などを習得する。

【授業の内容及び方法】

- 全学必修の通年科目である。(本学の専任教員全員がこの科目を分け持って担当する。)
- 全学科合同で行う合同セミナー(6回)と、各学科での10人程度のグループによる個別セミナー(ゼミ形式の授業)からなる。個別セミナーの授業内容および回数は、内規に基づき、各グループの担当教員によって決定される。グループによっては、学外での授業も計画されている。
- 授業の内容は次の通りである。
 - ①学生の日常生活における心身の健康と安全への備え
 - ②学科の教育目的・教育目標等の認知
 - ③「読むこと」「書くこと」「発表すること」「議論すること」の力の養成
 - ④学科に即した内容での基礎学力の向上

【授業の計画】

- 合同セミナーは、次の6回である。このうち②～⑤の4回の授業は、外部講師による講演を企画している。
 - ①ガイダンス
 - ②学生の食生活について
 - ③自分の身を守る(心と身体)
 - ④自分の身を守る(防犯面)
 - ⑤悪徳商法等への対処
 - ⑥特別講演

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- 各グループの担当教員から指示された予習・復習の課題については積極的に取り組むこと。授業外の学修時間については各グループでの取り組みによるが、演習科目として0～15時間程度を目安とする。

【履修上の注意・要望等】

全授業回数は、各グループによって異なるので、担当の教員に確認すること。

【評価方法・基準】

1年次セミナーは、他の科目と異なり、認定単位の科目である。セミナー内で課される課題をこなし、かつ、必要な出席時間数が足りている場合に限り、所定の単位が認められる。

【教 材】

1年次セミナー -学びのために- (美作大学・美作大学短期大学部)

【キーワード】

大学生としてのマナー 大学での学び キャリアデザイン タイムマネジメント

【授業科目】 日本語リテラシー

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 横川 知之 (自室番号 123)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

「話し言葉」「書き言葉」を用いた表現力を高める。また、それらを用いたコミュニケーション能力を高め、各種報告書やプレゼンテーションを作成する能力を身につける。

【授業の内容及び方法】

生活の中で言葉が果たす役割を正しく理解し、言葉を用いて豊かに「表現」したり「理解」したりする能力を鍛えるとともに、言葉を用いたコミュニケーション能力を高め、豊かな言葉の担い手となる。

【授業の計画】

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1. 言葉の力 | 人間にとっての言葉 表現の意義 |
| 2. 自己紹介 | 材料集め・紹介の組み立て・紹介 |
| 3. 好きな食べ物 | 題材・材料・構想・表現 |
| 4. 文章作法 | わかりやすい文章の書き方 |
| 5. 誤文訂正 | 誤字・誤用 |
| 6. 推 敲 | 文の成分・文節相互の関係・文体 |
| 7. 宝物紹介 | 宝物を文章で紹介する |
| 8. 要約文 | 文章の要約・要点のまとめ方 |
| 9. 公文書 | 公文書の書き方 書式・形式 |
| 10. 報告書 | 出来事の報告書を作成 |
| 11. 意見文 | 出来事に対する意見文の作成 |
| 12. お話づくり | 与えられた題材で「おはなし」を作る |
| 13. 解釈・鑑賞 | 解釈・鑑賞の基礎知識 |
| 14. 作品の解釈鑑賞 | 優れた文学の解釈・鑑賞 |
| 15. 座右の銘 | 自分を支える座右の銘を作る
言葉の多義性 豊かな表現やその理解 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業ごとに、準備や課題が与えられるので、意欲的に準備や課題に取り組む。

上記の準備や課題作成などに概ね 30 時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

日頃から、言語表現（新聞・雑誌・書物等）に親しみ、言葉に対する感覚を磨いておくとともに、日頃から積極的に記録や報告書を書く習慣を身につける。

【評価方法・基準】

学習態度や各種の発表（含む模擬授業）・レポートにより、総合的に評価する。

学習態度（20%） 発表（20%） レポート（60%）

【教 材】

教材は、担当が毎回資料やプリントを用意するが、『国語学概論』等の書物に目を通しておく。

【キーワード】 日本語リテラシー 現代語表現 論文の書き方

【授業科目】 心理学概論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 津々 清美

(自室番号 676)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

心理学に関する基礎知識を幅広く学ぶことにより、広い視野と社会人としての基礎的能力を獲得することを目標とする。

- (1)心理学の様々な分野の特徴を知る。
- (2)心理学の様々な分野において見出された知見を理解することができる。

【授業の内容及び方法】

この授業では、心理学に関する様々な分野から得られたエビデンスに基づく知見を紹介し、それらについて映像やスライド等を通して心理学の基礎的内容を幅広く学んでいく。

【授業の計画】

1. 心理学とは何か ・心はどこにあるのか
2. 心理学の研究法：実験法、観察法、調査法、面接法、検査法など。
3. 感覚と知覚：感覚・知覚の役割とその特徴
4. 記憶(1)：記憶の仕組み
5. 記憶(2)：誤（虚偽）記憶
6. 学習(1)：条件付け学習
7. 学習(2)：学習性無力感，社会的学習
8. 教育(2)：教授方法
9. 教育(1)：知能と創造性
10. 発達(1)：発達とは
11. 発達(2)：発達に関する理論
12. パーソナリティ(1)：類型論
13. パーソナリティ(2)：特性論
14. 判断と意思決定
15. 対人関係

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・復習として、配布・紹介した資料や上記のテーマ及び下記キーワードを基に、各自、図書館等を利用してこれらに関する書籍を読むこと。休日や長期休暇等を利用して授業で学習した内容について概ね30時間程度の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

日頃から自分や他者の行動や考え方等に関心をもち、本講義で学んだことと関連付けながら受講してほしい。

【評価方法・基準】

期末試験（70%）、授業態度・ミニレポート（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

参考文献・資料：無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳（編） よくわかる心理学 ミネルヴァ書房
星薫・森津太子 心理学概論 放送大学教育振興会

【キーワード】

心理学，感覚と知覚，記憶，学習，パーソナリティ，発達，教育，判断と意思決定，対人関係

【授業科目】 遊びと人間

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 中田 稔

(自室番号 231)

【対象学生】 幼児教育学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、子どもの遊びの持つ意味や、遊びの大切さについて学ぶことである。

具体的な事例を通して、社会と遊びとのかかわりや、子どもの発達段階と遊びの発展過程について、保育にあたる者の視点で関連づけて論じることができるようにする。

【授業の内容及び方法】

遊びに関する資料や、保育現場での実践事例をもとにした講義を主とするが、途中、学外授業も行う。

【授業の計画】

- | | | |
|----|---------------|-------------------------------|
| 1 | 遊びについてのガイダンス | ・本授業の目的と授業内容 |
| 2 | 現代社会と子どもの遊び 1 | ・時間の変容と子どもの遊びの変化 |
| 3 | 現代社会と子どもの遊び 2 | ・空間の変容と子どもの遊びの変化 |
| 4 | 現代社会と子どもの遊び 3 | ・子どもの遊び空間の事例 |
| 5 | 現代社会と子どもの遊び 4 | ・仲間の変容と子どもの遊びの変化 |
| 6 | 子どもの遊びと玩具 1 | ・玩具の歴史と遊び |
| 7 | 子どもの遊びと玩具 2 | ・学外授業 現代玩具博物館の見学 (木製玩具を中心に) |
| 8 | 子どもの遊びと玩具 3 | ・学外授業 現代玩具博物館の見学 (オルゴール等について) |
| 9 | 子どもの遊びとその支援 | ・保育や教育の中での遊び |
| 10 | 子どもの遊びの発展過程 1 | ・遊びの種類と展開過程の概要 |
| 11 | 子どもの遊びの発展過程 2 | ・ルールのある遊びの展開過程 |
| 12 | 子どもの遊びの発展過程 3 | ・ごっこ遊びの展開過程 |
| 13 | 子どもの遊びの発展過程 4 | ・構成遊びの展開過程 |
| 14 | 実践事例に学ぶ | ・遊びの中での保育者の役割 |
| 15 | まとめ | ・遊びをめぐる展望や課題 |

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この授業を履修するにあたって、概ね 30 時間程度の自主学修が必要となる。前時に予告する次回の講義内容や、興味を抱いた項目について参考文献等を用いて予習したり、授業内容や授業で配布した資料をもとに、自分なりの課題を持ってより深く調べたり、まとめたりすること。

【履修上の注意・要望等】

配布プリント及び資料類の保管のために専用のファイルを用意すること。

7, 8 回目の授業で、現代玩具博物館 (美作市湯郷) の見学を予定している。

【評価方法・基準】

受講態度 (60%)、提出物(40%)により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：使用しない

参考文献：仙田満「こどものためのあそび空間」(市ヶ谷出版社)、勅使千鶴「子どもの発達とあそびの指導」(ひとなる書房)、その他授業の中で適宜紹介する。

【キーワード】

子どもの遊び 遊び空間 遊びの仲間 遊び時間 玩具

【授業科目】 日本国憲法

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 俵野 英二

(自室番号)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

- ・(授業の目標) 憲法の基本原理を理解させ、各自の問題として憲法問題を考えさせることを目的とする。
- ・(到達目標) 身近な憲法問題について、必要な情報を取捨選択し、憲法の基本原理から問題点の本質を理解し、自分の結論を論理的に説明できる。

【授業の内容及び方法】

- ・身近な事例を素材にソクラテス・メソッド及び小テストを活用して、憲法の基本原理から各自で考えさせる。

【授業の計画】

1. ガイダンス、法律を学ぼう
2. 憲法とは何か、憲法の特質
3. 立憲主義と現代国家、法の支配
4. 基本的事件の原理、憲法総論まとめ1 (第1回小テスト)
5. 憲法総論まとめ2 (講評)、基本的人権の限界1 (公共の福祉)
6. 基本的人権の限界2 (私人間効力等)、包括的基本権と法の下での平等
7. 校則と生徒の自己決定権、精神的自由権1 (思想良心の自由、学問の自由)
8. 精神的自由権2(表現の自由)、経済的自由権
9. 受益権、参政権、社会権、人権まとめ1 (第2回小テスト)
10. 人権まとめ2 (講評)、権力分立
11. 国会、内閣
12. 裁判所、憲法訴訟
13. 地方自治、統治機構まとめ1 (第3回小テスト)
14. 統治機構まとめ2 (講評)、いじめと人権1 (いじめの定義)
15. いじめと人権2 (人権侵害と関係者の法律関係)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- ・受講前にテキストを読み、専門用語の定義を覚えておく。また、わからない言葉を調べておく。
- ・講義終了後、論点を文章で整理しておく。(概ね30時間程度の自宅学習が必要である。)

【履修上の注意・要望等】

- ・予習していなければ、講義中の説明が理解できない。論点を文章化する復習をしていなければ、問題点を理解できない。予習、復習は、単位習得に不可欠である。
- ・暗記のみの勉強方法では思考力がつかないので、理解し、論述する勉強に重点をおくこと。
- ・毎回の授業には配布した講義資料を全て携行すること。

【評価の方法・基準】

- ・期末試験(50%)、小テスト(30%)、各回のレポート(20%)。課題図書(提出任意、20%の範囲内で素点に加算)により評価する。

【教 材】

教科書：伊藤真『伊藤真の憲法入門 第6版』(日本評論社、2017年)、現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第3版』(法律文化社、2017年)

参考書：西原博史、斎藤一久『教職課程のための憲法入門』(弘文堂、2016年)

【キーワード】

憲法 人権 統治

【授業科目】 絵本と子どもの世界 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 松岡 信義 (自室番号：234)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

受講者の感受力を高め、子どもを見る目を鍛えたい。幼少期の経験がその後の人生と世界に向き合う構えを形づくるうえで決定的とも思えるほどに重要であることから、今日の子育ち・子育て環境にあつての身近な絵本に親しみ、絵本の力を学び探求することを通して、子どもの心の世界を感得できる「視点」を獲得できるようにする。

【授業の内容及び方法】

「絵本の種類や形式」「絵本についての言説や絵本論」「絵本の活用のされ方」「絵本の楽しみ」「絵本の可能性」など、テーマを掲げての講義形式とともに、絵本の読み語りの実践や、実践の工夫に関する効果的な視聴覚機器の使用等を含めた多角的な取り組みを試み、能動的な受講姿勢を育てるよう配慮する。

【授業の計画】

- (1) 絵本のあれこれ または あれこれの絵本 (種類から / 形式から / 内容から / 作者から)
- (2) 語りとしての絵本① (「語る」と「話す」 / 「ことばは心を育てる母乳」)
- (3) 語りとしての絵本② (文字のない絵本での語りについて)
- (4) 読み聞かせと読み語り① (十人十色の読み聞かせ (読み語り))
- (5) 読み聞かせと読み語り② (読み手 (語り手) と聞き手の心をつなぐ)
- (6) 絵本の中へ① (見知らぬ館を訪問する)
- (7) 絵本の中へ② (絵を読み深める)
- (8) 絵本の中へ③ (ことばを味わう)
- (9) 教科書に採用された絵本の問題点
- (10) 絵本の可能性① (自己を開く)
- (11) 絵本の可能性② (世界を拓く)
- (12) 絵本の可能性③ (歴史をむすぶ)
- (13) 絵本の可能性④ (人と人をむすぶ)
- (14) 絵本の可能性⑤ (幼少期からの世界市民)
- (15) まとめ (「子どもを確実に本嫌いにさせる方法」)

【授業外の学習 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回、その日の授業で直接には取り上げて使用することがない (なかった) ものを含め、相当量の資料を配付するので、その都度、配布された資料にはすべて目を通しておき、整理しておくこと。なお、このことを含め、予習・復習や参考文献の閲覧など、授業時間外に概ね 30 時間を別途にした自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

- ・プリント等の印刷資料 (A4 版) をファイルできるものを用意すること。
- ・毎回の授業に先立ち、前回の授業で配布された資料を見直しておくこと。欠席等による配付資料の欠落はコピーを取って補充しておくこと。

【評価方法・基準】

レポート (50%)、受講への姿勢 (50%) で総合評価する。

【教 材】

参考文献：長谷川摂子 著『子どもたちと絵本』〔1988 年〕
松居 直 著『絵本のよろこび』〔NHK出版 2003 年〕

【キーワード】

読み聞かせ 読み語り 絵本の力 絵本の可能性 文字のない絵本 絵本論 本嫌いの子

【授業科目】 ボランティア論（福祉系）

【単 位】 1

【学 期】 前期集中

【担当教員】 松尾 彰

（自室番号 ）

【対象学生】 全学科

【授業の目標及び到達目標】

本講義では、ボランティアの性格や意義等について理解を深めるとともに、ボランティア活動が個人の生活にもたらす意味、地域福祉の推進におけるボランティアの役割を知り、実際のボランティア活動への参加につなげることを目標とする。

学生は、ボランティアの性格である自主性、社会性、無償性の意味や役割、活動の意義を理解し、相手の立場になってボランティアを考えることができる。また、自分なりにボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴むことができる。

【授業の内容及び方法】

ボランティアとして自ら考え、活動するための知識と実践力を学ぶ。

ボランティアの自己満足にならないためにも、相手の立場で考えるための視点を学ぶ。

地域でボランティア活動や NPO 法人で仕事している方などを招き、講義を展開する。さらに、グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

【授業の計画】

第 1 回 ボランティアとは① ボランティアの性格や役割について

第 2 回 ボランティアとは② 実践者に学ぶボランティアの意義について

第 3 回 認知症サポーターとは 認知症の理解とボランティア活動への期待について

第 4 回 擬似体験から学ぶ 車いす・アイマスク体験による構内点検をとおして、相手の立場を知る。

第 5 回 ボランティアとは③ 実践者に学ぶボランティアから NPO 活動への展開について

第 6 回 NPO 活動の紹介 実践者に学ぶ地域と大学等との連携から生まれた市内の活動について

第 7 回 ボランティアとは④ グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。

第 8 回 まとめ グループワークにより、講義をふりかえりながら、“気づき”を大切に、もう一度「ボランティアとは？」という問について考える。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に、自分なりに「ボランティア」について調べておくこと。配布された資料を再読しておくこと。以上に示す予習・復習などの自主学修については概ね 10 時間程度が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

授業は、グループで行う事が多く、自分の意見の発表や討論の機会が多いので、積極的な参加を心がけてください。実践者の方の話は、実際のボランティア活動の経験にたった貴重な内容であり、心構え、特に相手を尊重し、共感するボランティア精神とは何かなどを理解できるよう心がけてください。

【評価方法・基準】

提出課題（60%）、授業態度（40%）

【教 材】

適宜、資料を配布します。

<参考図書>学生のためのボランティア論（大阪ボランティア協会）

編著：岡本 栄一、菅井 直也、妻鹿 ふみ子 他

【キーワード】

自主性 社会性 無償性 NPO 共感 地域福祉

【授業科目】 インターンシップ実習 【単 位】 1

【学 期】 集 中 【担当教員】 松坂 仁美

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、就業体験を通して学ぶことである。幼児教育学科の専門性に関連のある分野(保育、教育、子育て支援)でインターンシップ実習をすることを通して、自主性や社会性を身につけ、自己の将来像を確認できるようになる。

【授業の内容及び方法】

実施要領に従い申請したインターンシップ実習を自主的に行なう。

【授業の計画】

1、履修希望届けの提出

「インターンシップ実習」を履修しようとする者は、定められた期日までに、担当教員に履修希望届を提出し、申請を行う。

2、インターンシップ実習の実施要領

- (1) 「インターンシップ実習」の期間は、1年次の夏期から2年次の長期休業中、もしくは、週末の休業日等を利用して行うものとする。ただし、活動に対する公認欠席等は認めない。
- (2) 「インターンシップ実習」は、科目の趣旨に合致した活動であり、1施設での継続的な活動であることが望ましい。
- (3) 通算して1週間（45時間）程度の活動を、1単位の目安とする。
- (4) 実施前に「活動計画書」を提出し、実施後には、実施中に記録した「活動の記録」と「事後レポート」を提出する。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習前の「活動計画書」の作成を予習、実習後の「活動の記録」と「事後レポート」の作成を復習とする。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

事前に行われる「インターンシップ実習」に関する、学科オリエンテーションを必ず受講すること。原則として、単位申請できる活動は、当該年度のものとする。

***実習や就職にかかわる施設での「インターンシップ実習」は認めない。**

【評価方法・基準】

単位認定は、優・良・可によらず、上記実施要領に基づき、合格であれば「認定」と記載する。

【教 材】

テキスト、参考文献は、特に定めないが、インターンシップの内容により、文献などを紹介する。

【キーワード】

インターン キャリア教育 職業指導

【授業科目】 ボランティア実習 【単 位】 1

【学 期】 集 中 【担当教員】 松坂 仁美

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、ボランティア活動を通して、体験的に学ぶことである。幼児教育学科の専門性に関連のある分野(保育、教育、子育て支援)でボランティア活動を通して、自主性や社会性を身につけ、行動できるようになる。

【授業の内容及び方法】

実施要領に従い、申請したボランティア活動を自主的に行なう。

【授業の計画】

1、履修希望届けの提出

「ボランティア実習」を履修しようとする者は、定められた期日までに、担当教員に履修希望届を提出し、申請を行う。

2、ボランティア活動の実施要領

- (1)「ボランティア実習」の期間は、1年次の夏期から2年次の長期休業中、もしくは、週末の休業日等を利用して行うものとする。ただし、活動に対する公認欠席等は認めない。
- (2)「ボランティア実習」は、科目の趣旨に合致した活動であり、1施設での継続的な活動であることが望ましい。
- (3)通算して1週間(45時間)程度の活動を、1単位の目安とする。
- (4)実施前に「活動計画書」を提出し、実施後には、実施中に記録した「活動の記録」と「事後レポート」を提出する。

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

実習前の「活動計画書」の作成を予習、実習後の「活動の記録」と「事後レポート」の作成を復習とする。またこの授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

事前に行われる「ボランティア実習」に関する、学科オリエンテーションを必ず受講すること。原則として、単位申請できる活動は、当該年度のものとする。

***実習や就職にかかわる施設での「ボランティア実習」は認めない。**

【評価方法・基準】

単位認定は、優・良・可によらず、上記実施要領に基づき、合格であれば「認定」と記載する。

【教 材】

テキスト、参考文献は、特に定めない。ボランティアの内容に応じて、ボランティアの事前準備に役立つ、必要な文献を紹介する。

【キーワード】

ボランティア 自発性 無償性 利他性 先駆性 保障性 ボランティア元年

【授業科目】 情報リテラシー

【単 位】 2

【学 期】 通年

【担当教員】 下池 洋一

(自室番号 225-2)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

今日の情報化社会ではコンピューターを使いこなす技術は必須となっている。本授業では、これからの学生生活で必要になる基礎的な情報処理技術や情報モラルの知識の習得をめざす。本科目を履修することにより、社会人として必要な文章作成、表計算、発表資料作成ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

授業は演習スタイルで行う。最も代表的なソフトである Word, Excel, PowerPoint の基本的な操作法をテキストの練習問題を中心に実践するとともに、ネット社会に必要な情報モラルとセキュリティーについても概説する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション：コンピューターの操作、Windows の基礎
2. 文字入力の基礎練習(タッチタイピング)、ファイル・データの管理
3. Word：文字の入力、変換、書式、表の作成、ワードアート、図の挿入
4. Word：レポート作成（1）ページ設定、ヘッダー、フッター、画像の挿入
5. Word：レポート作成（2）Excel の表・グラフの挿入、引用の方法、文章校正
6. メールの使い方：マナー、署名、添付ファイル、アドレス帳、cc と bcc の違い
7. 情報検索：インターネットを用いた情報収集
8. セキュリティー：コンピューターウイルス対策、パスワード管理、不正アクセス防止
9. 情報モラル：著作権、個人情報保護、ネットコミュニケーション
10. PowerPoint：スライド作成の基礎、箇条書き、表の編集
11. PowerPoint：ワードアート、Excel の表、グラフの挿入
12. PowerPoint：画面切り替えの効果、アニメーションの作り方
13. Excel：表の作成、効率よいデータ入力、表の書式編集、罫線
14. Excel：数式の入力、基本関数（SUM, Average, if 文）、相対参照と絶対参照
15. Excel：円グラフ、棒グラフ等の作成、データの並べ替え、印刷の方法

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業で学習した内容は、テキストを見なくてもできるように復習すること。特に文字入力の不慣れな学生は、空き時間を利用して十分に練習を行うこと。課題作成で約 30 時間の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

パソコンの初心者向けの内容になっている。高校の内容と重複するが復習のつもりで受講すること。

【評価方法・基準】

期末試験(30%)、提出課題(40%)、タイピング練習(10%)、受講態度(20%)

【教 材】

教科書： イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Office2016 対応 (noa 出版)
2018 年度版 情報倫理ハンドブック (noa 出版)

【キーワード】

ワード、エクセル、パワーポイント、情報セキュリティー、情報モラル、ネットコミュニケーション

【授業科目】 英語コミュニケーションⅠ 【単 位】 1

【学 期】 前 期 【担当教員】 ランボー典子 (自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、基本的な英語の読み、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。基本的な英会話を聞きとることや、短い英文を読んで理解することや、英語の童謡を歌うことができるようになる。

【授業の内容及び方法】

教科書に沿って、単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、会話練習などの活動を行う。英語の nursery song(童謡)を練習する。

【授業の計画】

1. ガイダンス 教科書 Pre-Unit 歌①
2. Lesson 1 be 動詞 基本練習
3. Lesson 1 be 動詞 応用練習 歌②
4. Lesson 2 一般動詞 基本練習
5. Lesson 2 一般動詞 応用練習 歌③
6. Lesson 3 代名詞 基本練習
7. Lesson 3 代名詞 応用練習 歌④
8. Lesson 4 場所を表す前置詞 基本練習
9. Lesson 4 場所を表す前置詞 応用練習 歌⑤
10. Lesson 5 Yes/No で答える疑問文 基本練習
11. Lesson 5 Yes/No で答える疑問文 応用練習 歌⑥
12. Lesson 6 現在進行形・過去進行形 基本練習
13. Lesson 6 現在進行形・過去進行形 応用練習 歌⑦
14. Lesson 7 一般動詞の過去形 基本練習
15. Lesson 7 一般動詞の過去形 応用練習とまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に指示されている単語を覚えてくること。課ごとに単語テストを行う。

授業後は、必ず復習をしておくこと。

日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

宿題は必ずやってから授業に臨むこと。

【評価の方法・基準】

小テストと期末テスト（70%）提出物と受講態度（30%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書： English First Starter 大学英語の総合アプローチ（入門編）（金星堂）

【キーワード】

英文法、英会話、英語の童謡

【授業科目】 英語コミュニケーション II 【単 位】 1

【学 期】 後 期 【担当教員】 多田 昌美 (自室番号 342)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

英語の基本的な表現や文法を用いてコミュニケーションができるようになることを目的とする。身近な事柄を平易な英語で積極的に相手に伝え、相手の問いに答えることができるようになる。

【授業の内容及び方法】

日常に関連した事柄を扱ったテキストを用い、基本的な文法事項を確認しながら会話練習・問題演習を行い、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業の計画】

1. 開講にあたって／Unit 8 I Have to Study Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 2. Unit 8 I Have to Study Conversation, Grammar Check, Express Yourself
 3. Unit 9 What Do You Think of My Sketch? Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 4. Unit 9 What Do You Think of My Sketch? Conversation, Grammar Check, Express Yourself
／ Unit 10 *Kanji* Is So Difficult Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 5. Unit 10 *Kanji* Is So Difficult Conversation, Grammar Check, Express Yourself
 6. Unit 11 I'll Make a Birthday Cake Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 7. Unit 11 I'll Make a Birthday Cake Conversation, Grammar Check, Express Yourself
 8. ここまでのまとめ
 9. Unit 12 Saturday or Sunday? Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 10. Unit 12 Saturday or Sunday? Conversation, Grammar Check, Express Yourself
／ Unit 13 I'm Not Good with Computers Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 11. Unit 13 I'm Not Good with Computers Conversation, Grammar Check, Express Yourself
 12. Unit 14 Which Is Better? Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 13. Unit 14 Which Is Better? Conversation, Grammar Check, Express Yourself
／ Unit 15 Surprise! Grammar Points, Listening Warm Up, Conversation
 14. Unit 15 Surprise! Conversation, Grammar Check, Express Yourself
 15. 総合練習
-

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

指示された箇所について必ず予習をしてから授業に出席すること、復習として Unit の要点を確認しながら会話や文章の音読などを行って定着をはかること等、概ね 15 時間の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

授業時には英和辞典を持参すること。なお授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる課が若干前後する場合や Unit の一部を省略する場合がある。

【評価方法・基準】

2 回の筆記試験の平均 (70%)、1 回の口頭試験 (20%)・受講態度 (10%) により総合的に評価する。

【教 材】

Robert Hickling / 臼倉美里 著 *English First Starter* (金星堂)

参考文献：なし

【キーワード】

英語、英語コミュニケーション、英会話

【授業科目】 英語資格認定 I

【単 位】 1

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定 I の認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	2 級
TOE I C	430 点以上
TOE F L-P B T	450 点以上
TOE F L-i B T	45 点以上
国連英検	C 級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格 II に利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は 1 回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ: <http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 英語資格認定Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 集 中

【担当教員】 桐生 和幸 (自室番号 131)

【対象学生】 全学科・全学年

【授業の目標及び到達目標】

英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。

【授業の内容及び方法】

認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。学内ホームページに学習の参考になるページを解説していますので、利用してください。

資格取得後は、所定の用紙に、認定の条件を示す書類を添付し、教務課に提出してください。英語資格認定Ⅱの認定基準は以下の通りです。

資格名	基準
実用英語技能検定	準1級以上
TOEIC	650点以上
TOEFL-PBT	550点以上
TOEFL-iBT	79点以上
国連英検	B級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。ただし、同じ結果を英語資格Ⅰに利用することはできません。

【授業の計画】

資格認定書提出による科目のため、該当せず。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。

受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

【履修上の注意・要望等】

【評価方法・基準】

基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は1回のみです。

【教 材】

特になし。参考ウェブページ：<http://ganesh.staff.mimasaka.ac.jp/wordpress/>

(学内のみ閲覧可能。学内ポータルサイトから「授業」を選んでそこからアクセスできます)

【キーワード】 英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

【授業科目】 レクリエーション概論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 居原田 洋子 (自室番号241)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業目標及び到達目標】

本授業では、一人ひとりの豊かなライフスタイルとそれを実現する環境づくりのために、必要となる支援について概要を理解することを目指す。

課程認定校養成基準カリキュラムの4つの分野のねらいが達成できるようにする。

【授業の内容及び方法】

幼児教育学科の特性を生かした支援の在り方や事業計画の立案について概説する。

【授業の計画】

《レクリエーション概論》

- 1 オリエンテーション
- 2 レクリエーションという言葉の主旨
- 3 レクリエーション支援の目的と方法
- 4 レク・インストラクターの役割

《楽しみと心の元気づくりの理論》

- 5 レク活動の楽しさを感じる心の仕組み、
および心の仕組みを根拠にした支援
- 6 ライフステージと心の元気づくり
- 7 地域のきずなとレクリエーション

《レクリエーション支援理論》

- 8 レクリエーション支援におけるコミュニケーション
- 9 対象者と支援者の信頼関係づくりの方法
- 10 レクリエーション活動を通じた良好な集団づくり
- 11 集団内のコミュニケーションの促進

《レク支援のプログラム》

- 12 リスクマネジメントの方法
- 13 プログラムの立案の視点
- 14 プログラムの立案（現代の課題から）
- 15 プログラムの立案（タイムスケジュール等）

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

- ・日々の予習・復習に加えて、休日を利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

- ・目的意識をもって授業に望むこと。

【評価方法・基準】

筆記テスト（60%）・レポート（30%）・授業態度（10%）により総合評価する。

【教 材】

教科書：『楽しさとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』

（財）日本レクリエーション協会編

参考文献：授業の中で随時紹介する。

【キーワード】 支援、少子高齢化社会、事業計画

【授業科目】 レクリエーション実技・実習

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 居原田 洋子 (自室番号241)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業目標及び到達目標】

本授業では、レクリエーション支援の意図的、計画的な支援の技術を身に付けることをめざす。対象者の目的にあわせたレクリエーション支援を展開するイメージが理解できるようになる。

【授業内容及び方法】

レクリエーション支援を実際実践し、支援の方法を幼児教育学科の特性を生かして学ぶ。レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた実践例を、「理論科目」と「実技科目」の学習を踏まえて、実際にそれらが現場でどのように役立つかということを経験するために「現場実習」が設定されている。「現場実習」とは、スタッフ参加と事業参加の2つの領域から履修する。スタッフ参加は、「幼稚園教育実習」「保育実習Ⅰ」の実習科目を「スタッフ参加」として設定（読み替え）をする。事業参加は、地域において、実施されているレク事業に実際に参加者（もしくはスタッフ）として体験し、「理論科目」と「実技科目」の授業において学習した内容について理解を深める。

【授業の計画】

- | | | | |
|----|-------------------|----|----------------------|
| 1 | ホスピタリティの基本技術 | 16 | 芸術・文化活動の体験 |
| 2 | ホスピタリティの方法 | 17 | 芸術・文化活動のアレンジの方法 |
| 3 | アイスブレイキングの基本技術 | 18 | クラフトの体験 |
| 4 | アイスブレイキングの方法 | 19 | クラフトのアレンジの方法② |
| 5 | アイスブレイキングのプログラミング | 20 | ネイチャーレクリエーションの体験 |
| 6 | レポートを築くための基本技術 | 21 | ネイチャーレクリエーションのアレンジ方法 |
| 7 | レポートの築くための方法 | 22 | 指導実習①A・Bグループの実践と振り返り |
| 8 | 目的に沿ったアクティビティの選択 | 23 | 指導実習②C・Dグループの実践と振り返り |
| 9 | 目的に沿ったアクティビティの展開法 | 24 | 指導実習③E・Fグループの実践と振り返り |
| 10 | 相互作用の活用 | 25 | 指導実習④G・Hグループの実践と振り返り |
| 11 | 相互作用の展開法 | 26 | 指導案の作成及び指導体験①（ゲーム） |
| 12 | ニュースポーツの体験 | 27 | 指導案の作成及び指導体験②（ソング） |
| 13 | ニュースポーツのアレンジ方法 | 28 | 指導案の作成及び指導体験③（ダンス） |
| 14 | 遊びの体験 | 29 | 評価と反省①ニュースポーツ・クラフト |
| 15 | 遊びのアレンジの方法 | 30 | 評価と反省②ゲーム・ソング・ダンス |

【授業外の学修（予習、復習の提示、学修時間など）について】

・日々の予習・復習や休日や長期休養期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

・レクリエーション・インストラクターの資格が必要な学生は、レクリエーション協会が主催する地域の事業に2回以上参加しなければならない。

【評価方法・基準】

実技テスト（50%）・レポート（30%）・授業態度（20%）により総合評価する。

【教 材】

教科書：『レクリエーション支援の基礎』（(財)日本レクリエーション協会編）

参考文献：・レクリエーション種目の実際に使用できるテキストや教材を紹介する。

・必要に応じて資料を配布する。

【キーワード】

ホスピタリティトレーニング・アイスブレイキング・指導実習

【授業科目】 スポーツ健康講義

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 津田 幸保

(自室番号 G3)

【対象学生】 幼児教育学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

身体に関する正しい知識を身につけると同時に、自己の身体の状態について知り、健康な生活を送る意欲を高めさせる。

【授業の内容及び方法】

身体に関する基本知識を学ぶ。理論を学ぶと同時に演習も行い理解を深める。

【授業の計画】

共通種目

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1. オリエンテーション | 授業内容、評価方法等の説明 |
| 2. 体力測定 | 10種目の体力を測定し、自己の体力年齢を知る |
| 3. 身体ケア | ストレッチ、マッサージ、テーピングの理論と実技 |
| 4. トレーニング理論 | トレーニングに関する理論を学ぶ |
| 5. ダイエット理論 | 正しいダイエットについての理論を学ぶ |
| 6. 運動能力と遺伝 | 遺伝が運動能力に与える影響 |
| 7. スポーツと脳 | 脳と運動の関係について |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

各自習った内容を家庭等で実践することが望ましい。15時間の自修学習が望ましい。

【履修上の注意・要望等】

体育館で行う時間と、教室で行う時間があります。

【評価方法・基準】

筆記試験(90%)、授業の取組み(10%)

【教 材】

「保育が楽しくなるダンスの基本リズムジャンプ」

【キーワード】

運動 健康

【授業科目】 スポーツ健康実習

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 津田 幸保

(自室番号 G3)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

スポーツを通じた健康づくり及び仲間作りを目標とする。また、それに付随したルールの理解や遵守、練習方法の学習や開発、他者理解やコミュニケーション能力を高めることにも留意する。

【授業の内容及び方法】

5種目のスポーツを実践し、様々な運動器を刺激するとともに、種目ごとにチームメンバーを変え、様々な仲間と関わりあえるようにする。

【授業の計画】

共通種目

1. ピックルボールⅠ チーム分け、ルール説明、チーム練習
2. ピックルボールⅡ チーム練習、試合
3. ピックルボールⅢ チーム練習、試合
4. バスケットボールⅠ チーム分け、ルール説明、パス練習、ゲーム
5. バスケットボールⅡ ドリブル・シュート練習、ゲーム
6. バスケットボールⅢ チーム練習、ゲーム
7. バスケットボールⅣ チーム練習、ゲーム
8. バドミントンⅠ チーム分け、ルール説明、ゲーム
9. バドミントンⅡ サーブ練習、ゲーム
10. バドミントンⅢ スマッシュ練習、ゲーム
11. バドミントンⅣ チーム練習、ゲーム
12. バレーボールⅠ チーム分け、ルール説明、パス練習、ゲーム
13. バレーボールⅡ スパイク、サーブ練習、ゲーム
14. バレーボールⅢ チーム練習、ゲーム
15. バレーボールⅣ チーム練習、ゲーム

スキー・スノーボード (8時間集中)

開講式、板のつけ方、転び方、リフトの乗り方、止まり方、ターンの仕方、自由滑走、閉講式

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

既往症のある場合は報告すること。別途配慮する。15時間の自修学習が望ましい。
水分、タオル、着替え等を準備すること。

【評価方法・基準】

出席点(60%)、実技点(40%)の合計

【教 材】

「保育が楽しくなるダンスの基本リズムジャンプ」

【キーワード】

運動 健康

【授業科目】 放送大学科目Ⅰ・Ⅱ

【単 位】

【学 期】 集 中

【担当教員】 長谷川 勝一

(自室番号 341)

【対象学生】 全学年 全学科

【授業の目標及び到達目標】

この授業では、放送大学との協定により本学の学生が受講可能な科目を通じて、多様な今日的課題に対する関心に答えることを目標とします。学生は、放送大学で提供されている授業科目から大学人として必要な教養を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容及び方法】

放送大学の授業科目は、“生活と福祉”、“発達と教育”、“社会と経済”、“産業と技術”、“人間の探究”、“自然の理解”の6専攻に分かれており、人文・社会・自然・産業などの幅広い分野の科目が開設されています。自分の興味に応じて受講してください。

放送大学の授業は、テレビ又はラジオ、インターネットで行われる放送授業と印刷教材で進められます。再視聴することができるので、自分の生活リズムにあわせて学習することができます。

【授業の計画】

出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

放送大学の科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。概ね授業時間と同程度の時間（2単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

【履修上の注意・要望等】

放送大学の「科目履修生」として、20名程度を受け入れます。

【評価方法・基準】

所定の単位数を認定します。

なお、この科目の単位認定は、放送大学で開講されている科目の単位を、本学の修得単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです

【教 材】

履修科目による

【キーワード】

なし

【授業科目】 保育原理 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 松岡 信義 (自室番号：234)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

子どもの成長と発達を保障する保育のあり方を追求する。保育の意義、目的の考察をふまえ、それらが実際の保育をめぐる諸条件の中でどのように生かされ、あるいは阻まれているかを検討し、それをとおして保育を考える「視点」を獲得できるようにする。

【授業の内容及び方法】

子ども観の歴史、乳幼児の発達の特徴、保育の制度、子どもの権利保障等について、主に講義形式で進めるが、効果的な視聴覚機器の使用や、ミニレポートで出された質問を受講者に投げ返すなどして、能動的な受講姿勢を育てるよう配慮する。

【授業の計画】

- (1) 保育の意義と目的
- (2) 子ども観の歴史① (歴史・社会通貫的に)
- (3) 子ども観の歴史② (西洋の事例をもとに)
- (4) 子ども観の歴史③ (日本の事例をもとに)
- (5) 子ども観の転換とその意味
- (6) 子どもの発見とルソー
- (7) 子どもの発達と文化① (発達の概念)
- (8) 子どもの発達と文化② (子どもの物の考え方)
- (9) 子どもの発達と文化③ (子どもが言葉を獲得するとき)
- (10) 遊びと保育① (遊びの概念と基本条件)
- (11) 遊びと保育② (子どもの遊びの特長)
- (12) 保育・幼児教育の制度① (幼稚園)
- (13) 保育・幼児教育の制度② (保育所)
- (14) 保育・幼児教育の制度③ (認定こども園)
- (15) 子どもの権利保障；児童憲章や子どもの権利条約を手がかりに理念を整理し、課題を探る。

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

毎回、その日の授業で直接には取り上げて使用することがない (なかった) ものを含め、相当量の資料を配付するので、その都度、配布された資料にはすべて目を通しておき、整理しておくこと。なお、このことを含め、予習・復習や参考文献の閲覧など、授業時間外に概ね 30 時間を目途にした自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

- ・プリント等の印刷資料 (A4 版) をファイルできるものを用意すること。
- ・毎回の授業に先立ち、前回の授業の講義カードと配布された資料を見直しておくこと。欠席等による配付資料の欠落はコピーを取って補充しておくこと。
- ・TV ニュースや新聞等により社会での出来事に耳目を傾ける習慣を身につけるよう努めること。

【評価方法・基準】

定期試験 (60%)、レポート (30%)、受講への姿勢 (10%) で総合評価する。

【教 材】

参考文献： 森上史郎 監修 / 大豆生田啓友ほか 編集『最新保育資料集』〔ミネルヴァ書房〕

汐見稔幸 編『子どもにかかわる仕事』〔岩波書店 2011 年〕

【キーワード】

保育 子ども観 発達の概念 遊び 保育所 幼稚園 認定保育園 子どもの権利

【授業科目】 社会的養護

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 奥 典 之 (自室番号 333)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

保育士に求められる多様な役割として、社会的養護、児童虐待を受けた子どもや障がいのある子どもなどへの支援、保護者対応や地域の子育て支援などの資質及び専門性の向上を目標とする。そして、授業で学んだ社会的養護の考え方をを用いて、具体的な課題について思考出来るようになることを到達目標にする。

【授業の内容及び方法】

社会的養護理論が実践的に学べるテキストを用いて、講義による社会的養護の基礎的な学習を行うことにより、①社会的養護の大枠の理解、②具体的な社会的養護の重要な事項や場面の理解及び整理、を主な内容とする。

【授業の計画】

1. 子育て家庭の現状と社会的養護
2. 社会的養護の対象と領域—健全育成と予防
3. 社会的養護の対象と領域—養育環境に問題のある子ども
4. 社会的養護の対象と領域—障がいのある子ども
5. 社会的養護の対象と領域—情緒・行動面に問題のある子ども
6. 社会的養護の対象と領域—里親・その他の子ども
7. 社会的養護の歴史
8. 社会的養護の基本理念
9. 社会的養護の原理・原則
10. 社会的養護の理論
11. 社会的養護の体系と運営
12. 社会的養護の専門職
13. 社会的養護の形態と働き方
14. 子どもの権利擁護
15. 社会的養護の課題・まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

その日に行う予定の教科書の頁に目を通しておくと共に、その日のうちに授業内容を見直すこと。

日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめるようにして下さい。

【評価方法・基準】

受講態度 40% レポート 10% 定期試験 50% 受講態度や学修意欲を重視します。

授業は講義が中心ですが、適宜、課題レポートの作成・提出を求めます。

【教 材】

教科書：中山正雄 編著 保育出版社「実践から学ぶ 社会的養護」

参考文献：なし

【キーワード】

子どもの権利、社会的養護サービス、子ども虐待、アタッチメント、愛着障害

【授業科目】 保育計画論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 岡本 美幸

(自室番号 332)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

「一人ひとりの子どもが生き生きと主体的に活動し仲間と育ち合える」姿に対し、創意工夫した日々の保育で、幼児に充実した園生活が送れるように、子どもの育ちに見通しを持ち、自主性・主体性に富んだ生活と遊びの計画を立てる知識や方法を取得する。また、保育者の意図を考えることで、保育の基本と向き合う力を養うことができるようにする。

【授業の内容及び方法】

保育計画の必要性や子どもの発達を理解し、「子どもに即した保育」「子どもの視座に立った保育」の実践記録を通して子どもを具体的に理解する。その上で、実際に生活する子どもたちの実態をとらえた計画作成について学ぶ。

【授業の計画】

1. 保育の基本・保育計画論の位置づけ・オリエンテーションと授業計画
2. 保育計画の必要性
3. 保育計画のとらえ方・考え方、子ども理解
4. 保育の計画① (保育課程と指導計画との関連)
5. 保育の計画② (子どもの実態と指導計画)
6. 保育の計画③ (指導計画と子どもの活動)
7. 保育の計画④ (計画の実際・遊びを組み立てる、行事の位置づけ)
8. 指導計画の実際① (0, 1歳児の指導計画)
9. 指導計画の実際② (2歳児の指導計画)
10. 指導計画の実際③ (3歳児の指導計画)
11. 指導計画の実際④ (4歳児の指導計画)
12. 指導計画の実際⑤ (5歳児の指導計画、指導要録と保育要録)
13. 日案の作成① (実践事例)
14. 日案の作成② (遊びと計画)
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

事前に示された課題に取り組み、その内容を理解してくること。事後には、授業で扱った内容を振り返り、ノートやプリントを整理し、まとめておくこと。概ね30時間自主学習が必要である。

【履修上の注意・要望等】

子どもが育ち合うように、保育者も相互関係の中で常に学び続けている。この授業においても同様に、目的意識を持って取り組むこと。

【評価方法・基準】

定期試験(60%)、提出課題(10%)、授業態度(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

全国保育士会編「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」
その他、必要に応じて資料を配布する。

【キーワード】

全体的な計画 指導計画 乳幼児の発達 保育の実践 保育の計画及び評価

【授業科目】 教育原理

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 松岡 信義

(自室番号：234)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

子どもの存在のありようを考え、探求し、子どもの成長を励ます者としての対応力を高める。担当者は受講者が履修した前期の「保育原理」の担当でもあり、「保育原理は乳幼児期の教育の原理」と理解し得ることから、翻ってその対象たる子どもこそを原理として認識する力を獲得できるようにする。

【授業の内容及び方法】

下記に教材として掲げた『育ての心』のなかにある「子どもたちの中にいて」の章を読み解き続けることを通して子どもを見る目を鍛え、子どもへの対応力を高める。1人が1テーマを担当し、毎回、3人が1人ずつ「朗読」→「所感の発表」→「再度の朗読」を行った後、→「3択の1テーマについて全員がミニレポートを作成する」というサイクルで進め、担当者はそのコーディネートをしながら必要なレクチャーを挟み入れる。

【授業の計画】

- (1) 教育の原理としての子ども ―履修ガイダンス―
- (2) 「子どもたちの中にいて」を読み解く① (子どもの目・子どもたちの顔・涼しい顔)
- (3) 「子どもたちの中にいて」を読み解く② (子どもの心のはだ・汗・仏心と童心)
- (4) 「子どもたちの中にいて」を読み解く③ (人間教育・小さき太陽・にじみ出る真実性)
- (5) 「子どもたちの中にいて」を読み解く④ (いきいきしさ・驚く心・まめやかさ)
- (6) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑤ (こころもち・廊下で・ひきつけられて)
- (7) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑥ (うっかりしている時・飛びついてきた子ども・霜柱)
- (8) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑦ (先生・とげ・親切)
- (9) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑧ (子どもたちを送る日・詫びる心・自ら責める心)
- (10) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑨ (自分・教育される教育者・自らを)
- (11) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑩ (子どもらが帰った後・創意なき教育・自らを新たにす努力)
- (12) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑪ (感情清算・正月・二月)
- (13) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑫ (三月・この萌芽に対して・早春)
- (14) 「子どもたちの中にいて」を読み解く⑬ (四月・早春 春雨・温)
- (15) まとめと課題の提示

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

担当者は第1回のガイダンスで決定しているから各人は前もって準備を進めておくこと。テーマによっては関連することからは無尽蔵にあるので、自分の担当するテーマの扱いを実りあるものにするために自主学習は欠かせない。自分の担当以外のテーマに関わる毎回の授業の予習・復習を含め、授業時間外に概ね30時間を目途にした自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

- ・プリント等の印刷資料 (A4版) をファイルできるものを用意すること。
- ・欠席等による配付資料の欠落はコピーを取って補充しておくこと。
- ・自分が担当する日に欠席せざるを得ない状況が発生したら、可能な限り1週間前までに連絡すること。担当当日の無断欠席は厳禁である。

【評価方法・基準】

毎回のミニレポート及び最終レポート (70%)、受講への姿勢 (30%) で総合評価する。

【教 材】

テキスト : 倉橋惣三 著『育ての心』(上) [倉橋惣三文庫③ フレーベル館 2008年]

参考文献 : 倉橋惣三 著『育ての心』(下) [倉橋惣三文庫④ フレーベル館 2008年]

【キーワード】

倉橋惣三 保育 幼児教育 子ども観 子どもの権利

【授業科目】 社会福祉

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 奥 典 之

(自室番号 333)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

保育士を「社会福祉分野の保育ソーシャルワーカー」と位置づけ、「保育と福祉を切り離さない」バランスのとれた保育者になるために、その基本的なフレーム（枠）としての社会福祉の理念や制度を理解することを目標とする。そして、これらのフレームを意識して用いて、具体的な課題について思考できるようになる事を到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

社会福祉の実践書を用いて講義による社会福祉の基礎的な学習を行うことにより、①社会福祉の基礎的理解とその理念について学ぶ、②社会福祉の歴史を知る、③社会福祉サービスの概観について理解する、という内容である。

【授業の計画】

1. 貧困の歴史的経緯から、現在の貧困・格差及び孤立問題について
2. 子ども家庭や母子家庭、高齢者の現状と暮らしについて
3. さまざまな障がいをもつ人たちの現状と暮らしについて
4. 社会保障と社会福祉制度、民間における福祉活動について
5. 幸福追求権と生存権、社会福祉基礎構造改革について
6. 社会福祉の発展過程について
7. 社会福祉の政策論、固有論、技術論、実践論について
8. 措置制度、利用契約制度、行政組織の制度の仕組みについて
9. 社会福祉財政の歴史的経緯を踏まえた現状の問題や今後の課題について
10. 福祉事務所や児童相談所、その他の公的機関の施設における現状や課題について
11. 子ども・母子の施設における現状や今後の課題について
12. 高齢者の施設における現状や今後の課題について
13. 障がい者の施設における現状や今後の課題について
14. 地域にある施設における現状や今後の課題について
15. 社会福祉の今後の課題・まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

その日に行う予定の教科書の頁に目を通しておくと共に、その日のうちに授業内容を見直すこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめるようにして下さい。

【評価方法・基準】

受講態度 40% レポート 10% 定期試験 50% 受講態度や学修意欲を重視します。

授業は講義が中心ですが、適宜、課題レポートの作成・提出を求めます。

【教 材】

教科書：長谷川俊雄 他編著 保育出版社「実践から学ぶ 社会福祉 第2版」

全国社会福祉協議会「第3版 よくわかる社会福祉施設-教員免許志願者のためのガイドブック」

【キーワード】 貧困問題 児童福祉法 障がい 社会保障 生存権 ソーシャルワーク

【授業科目】 教育心理学

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 安田 純

(自室番号 671)

【対象学生】 幼児教育学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本講義においては、教職に関する専門的識見を涵養することを目的とする。そして、教育の諸場面における人間の行動の理解を深めるとともに、そこで発生した課題について解決する方策を検討できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

心理学は、人の心や生き方を客観的な手法により探る学問であり、その対象となるのは外に表現された人間の行動である。心理学は、古くからの基礎研究とそれらを用いた応用研究からなっている。本講義においては、心理学と呼ばれる様々な領域の研究と、それらが教育場面において、いかなる意味を持つのかを捉え、講義を主として概説する。

【授業の計画】

1. 教育心理学とは
2. 発達心理学と教育心理学
3. 動機づけと教育
4. 教育に生かす学習理論① 連合理論
5. 教育に生かす学習理論② 認知理論
6. 認知心理学と教育心理学
7. 知能と学力
8. 知能の評価
9. 人格の理解
10. 教育現場に見る社会 (集団)
11. 教育現場に見る社会 (コミュニケーション)
12. 学級の心理学
13. 発達障害に対する理解
14. 発達障害に対する支援
15. 教育心理学再考

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

この講義を履修するにあたり、概ね 30 時間程度の自主学習を必要とする。配布資料等を再読し、確実に知識を蓄積すること。また、書籍、文献等を参考にし、自身の知識を確かなものにしておくこと。

【履修上の注意・要望等】

積極的な姿勢での参加を望みます。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%)、レポート (30%)、受講態度 (20%)

【教 材】

教科書：なし

参考文献：鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ

【キーワード】

発達、動機、学習、認知、発達障害

【授業科目】 保育の心理学 I

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 津々 清美

(自室番号 676)

【対象学生】 幼児教育学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

大人と子どもとは、身体の大きさだけでなく、ものの考え方や感じ方、社会性などに差異があり、そのことが発達の違いとして現れている。本授業は、子どもへの理解を深める基礎として、各時期の心理的な発達特色を取り上げ、保育・教育現場等で求められる子どもの心理的な発達に関する専門的知識を養うことを目標とする。

(1)各時期の子どもの心理的な発達特色について説明することができる。

【授業の内容及び方法】

発達・保育に関する理論や各時期の発達特徴を取り上げ、映像やスライド、エビデンスに基づく知見を通して各時期の発達特徴を幅広く学んでいく。

【授業の計画】

1. 発達心理学を学ぶ意義：事例から考える
2. 発達の諸問題と理論 (1)：遺伝か環境か
3. 発達の諸理論 (2)：認知発達
4. 発達の諸理論 (3)：行動・学習，保育・教育
5. 発達段階・発達課題
6. 発達心理学の研究法：実験・調査法，横断的研究，縦断的研究
7. 胎児期の発達：胎児の身体の発達，妊娠中の注意，出生までの過程
8. 乳児期の発達 (1)：原始反射と知覚（視覚，聴覚，嗅覚，味覚等）
9. 乳児期の発達 (2)：認知，情動，身体・運動(二足歩行まで)
10. 乳児期の発達 (3)：性格，養育者との関係，養育者・保育者への助言・援助
11. 幼児期の発達 (1)：自我の芽生え，言語，出来事の記憶
12. 幼児期の発達 (2)：注意の切り替え，他者の心的状態を推測する
13. 幼児期の発達 (3)：イメージ，描画
14. 幼児期の発達 (4)：遊びの発達と仲間関係
15. 幼児期以降の発達

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・復習として、配布・紹介した資料や上記のテーマ及び下記キーワードを基に、各自、図書館等を利用してこれらに関する書籍を読むこと。休日や長期休暇等を利用して授業で学習した内容について概ね 30 時間程度の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

日頃から実際の子どもの姿に関心を持ち、本講義で学んだことと関連付けながら子ども理解をしようとする意識をもって受講してほしい。

【評価方法・基準】 期末試験 (70%)，授業態度・ミニレポート (30%) により総合的に評価する。

【教 材】 参考文献：内田伸子（編）よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房

杉村伸一郎・白川佳子・清水益治 基本保育シリーズ⑧保育の心理学 I 中央法規

【キーワード】

発達心理学，保育心理学，乳児，幼児，児童

【授業科目】 保育課程論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 居原田 洋子

(自室番号241)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業目標及び到達目標】

本授業では、子どもたちの育ちを保障して創意工夫のある保育が展開できるように教育課程・保育計画を立案することをめざす。時代や環境がさまざまに変わる中で、子どもの発達段階に応じた指導計画を組織的・計画的に考えられるようにする。

【授業の内容及び方法】

乳幼児の自主的・主体的な活動を基礎として、活動の展開と保育者の援助のあり方を踏まえながら、指導計画を作成する手順や展開について演習を行う。

【授業の計画】

- 1 学校教育における教育課程の概念と理念
- 2 保育の基本と計画の考え方
- 3 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力
- 4 幼稚園における教育課程の役割と編成
- 5 保育所における全体的な計画
- 6 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画
- 7 長期の指導計画と短期の指導計画の実際
- 8 幼児理解に基づいた評価と実際
- 9 カリキュラム・マネジメントの意義と実際
- 10 教育の成立と家庭・学校・地域社会
- 11 幼児教育と小学校教育との円滑な接続
- 12 保育における計画の変遷
- 13 幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景
- 14 保育所保育指針の改定の変遷とその背景
- 15 諸外国の幼児教育改革

【授業外の学修（予習、復習の提示、学修時間など）について】

・日々の予習・復習、課題作成に加えて、休日を利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望】

・指導案については、予想される「子どもの生活する姿」，「ねらいと内容」，「環境構成」「保育者の援助」が記入できるようになるまで数回の添削指導を行う予定である。

【評価方法・基準】

定期テスト（60%）・レポート（30%）・授業態度（10%）により総合評価する。

【教 材】

- 教科書：・柴崎正行・戸田雅美編『教育課程・保育計画総論』（ミネルヴァ書房）
・『新しい私たちの指導計画 0・1・2歳児』（全国社会福祉協議会編）
・『3・4・5歳児の保育計画』（草土文化）：『教育実習の手引き』（伊藤亮子編）
・文部省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）
・文部省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）

参考文献：適宜プリントを配布する。

【キーワード】

教育課程、指導計画、評価と反省

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目標は、社会の夜型化やメディア機器の使用の影響などの現代的課題を理解し、子どもたちの心身ともに健康に生きていく力を身につけるために、保育者の果たす役割について、学生が認識し、子どもたちの心身の発達を考えた保育・教育内容の精選ができる力を身につけることである。

到達目標は、幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を常に考えながら、保育・教育活動を展開できる指導力を養うことである。

【授業の内容及び方法】

講義とグループワークにより、乳幼児期の健康な発達を保障するための保育者の役割について理解する。幼児の運動遊びの具体的実践について、ICTの利用や、乳幼児と実際に関わりを通して学ぶ。

【授業の計画】

- 1) 乳幼児の健康と現代的課題
- 2) 3ガイドラインにおける領域「健康」1…3歳未満児における「健康」とらえ方と目指すもの
- 3) 3ガイドラインにおける領域「健康」2…3歳以上児における「健康」とらえ方と目指すもの
- 4) 領域「健康」からみた幼児期に育みたい資質・能力
- 5) 乳児期の発育・発達と健康
- 6) 幼児期の発育・発達と健康
- 7) 子どもの生活習慣の現状と健康課題
- 8) 健康な生活リズムの理解と形成
- 9) 現代の子どもの身体活動の現状と課題
- 10) 乳幼児の運動あそびの重要性
- 11) 非認知的スキル発達を考えた運動あそびの実践のための保育者の援助あり方
- 12) 乳幼児の運動あそびの実際
- 13) 領域「健康」からみた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的実践について考え、話し合い、発表する。
- 14) 領域「健康」からみた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育者の援助のあり方について考え、話し合い、発表する。
- 15) 安全管理と安全教育の必要性

【授業外の学習(予習・復習の指示、学修時間など)について】

必要資料をあらかじめ読んで 授業に臨むため、予習1時間(計15時間)。さらに復習1時間(計15時間)が必要である。

【履修上の注意・要望等】

保育者になるという意欲を持つこと。自らの課題と目標をもって授業に取り組んでほしい。

【評価方法・基準】

受講態度(30%) 課題レポート(70%)

【教 材】

内閣府ほか：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
前橋 明ほか『コンパス保育内容 健康(仮題)』2018年4月 刊行予定

【キーワード】

乳幼児、生活習慣、運動あそび、非認知的スキル、資質・能力、10の姿

【授業科目】 保育内容人間関係

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 内田 慶子

(自室番号675)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

①本講義は、乳幼児期に「人とかかわる力」の基礎が形成されることを理解することをめざす。②友だちとのかかわりを通してコミュニケーション能力、自制心や規範意識の芽生えを培うための、保育内容と指導の在り方について理解を深めることができることを目標とする。

【授業の内容及び方法】

- ・幼稚園教育の基本を学ぶ。
- ・乳幼児期の人間関係の発達を学ぶ。
- ・人とかかわりを育てる教師の役割について学ぶ。
- ・友だちとかかわりながら、遊びや生活をする中で何が育つかについて学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 現代社会と子どもの「人間関係」 | ・子どもを取り巻く環境としての「人間関係」 |
| 2 幼稚園教育の基本 | ・幼稚園教育要領より |
| 3 保育内容「人間関係」に求められること | ・「協同する経験を重ねる」「規範意識の芽生えを培う」 |
| 4 保育計画と評価 | ・保育の計画と評価の考え方 |
| 5 実技 ① | ・集団遊びを通して人間関係づくりを体験 |
| 6 実技 ② | ・伝承遊びを通して人間関係づくりを体験 |
| 7 乳幼児期の人間関係の発達 ① | ・0～3歳未満児の育ちと人との関わり |
| 8 乳幼児期の人間関係の発達 ② | ・3歳児の育ちと人との関わり |
| 9 乳幼児期の人間関係の発達 ③ | ・4歳児の育ちと人との関わり |
| 10 乳幼児期の人間関係の発達 ④ | ・5歳児の育ちと人との関わり |
| 11 道徳性の芽生え | ・規範意識・道徳性の芽生えを培うための指導 |
| 12 トラブルの中で成長する | ・トラブルを通して育つもの |
| 13 協同する経験を重ねる | ・遊びや生活の中で協同性を育む |
| 14 特別なニーズをもつ子ども | ・子どもへの援助と保護者への対応 |
| 15 小学校へつなぐ | ・なめらかな接続のために |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習・配布した資料を再読、課題作成や試験対策に加えて、休日を利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

板書を写すだけではなく、ノートの取り方を工夫すること。

【評価方法・基準】

定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 テキストは別途指示する

参考文献 「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 必要に応じて資料を配布

【キーワード】

保育内容・愛着の形成・自我の芽生え・幼児期の道徳性・規範意識

【授業科目】 保育内容環境

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 今井 博子

(自室番号)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、領域「環境」が意図しているねらいや内容を理解し、保育の実際に向けて実践の基盤を築くことをめざす。〈到達目標〉○領域「環境」と環境を通しての教育・・との違いが説明できる。○子どもの活動を領域「環境」の視点から捉え保育内容を説明できる。○保育内容を踏まえた保育が想定できるようになる。○環境にかかわる実体験から保育内容を実感できるようになる。(感性を磨く)

【授業の内容及び方法】

環境にかかわる幼児の生活を、領域「環境」の視点でとらえ保育内容を明らかにする。それが確かな発達となるように環境構成や指導・援助のあり方等を学ぶ。講義が主となるが、学外授業や実技、グループ討議等の演習も行う。

【授業の計画】

1. 保育の基本と領域「環境」① 保育の基本
2. 保育の基本と領域「環境」② 領域「環境」、保育内容とは
3. 子どもと環境のかかわり ① 身近な自然・生き物とのかかわり
4. 子どもと環境のかかわり ② 物、文字や記号、数量とのかかわり
5. 学外学習（自然との触れ合い） 実体験を通して保育内容の理解（学校周辺の探索）
6. 子どもと環境のかかわり③ 情報や施設、園内外行事とのかかわり
7. 子どもと環境のかかわり④ 園庭の自然や遊具、室内の遊具・教材・設備とのかかわり
8. 子どもと環境のかかわり⑤ 飼育・栽培・園外保育
9. 実技（遊びの体験） 実体験を通して保育内容の理解（多目的ホール）
10. 領域「環境」と指導の実際① 環境にかかわる力を育てる保育者の援助
11. 指導の実際（事例検討）② 身の回りの生活環境の変化に気付く、環境を生活に取り入れる
12. 指導の実際（事例検討）③ 物を大切にする、思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつ
13. 指導の実際（事例検討）④ 文字・数量の感覚を身につける
14. 領域「環境」として大切なこと
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に、教科書や資料などの該当箇所を読んでくことと復習。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

積極的に授業に臨むこと。授業の進行上、計画通りに進まないことがあるかもしれません。

【評価方法・基準】

期末試験（60%）、受講態度（30%）、レポート（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書： 演習保育内容 環境（建帛社）

参考文献： 幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）

【キーワード】

保育内容「環境」 幼稚園教育要領 保育の基本

【授業科目】 保育内容言葉

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 今井 博子

(自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、乳幼児期の言葉の発達過程や育ちを支える視点の一つ・領域「言葉」が意図している保育内容を理解し、保育実践の基盤を築くことを目指す。〈到達目標〉○言葉の育つ道筋を理解し説明できる。
○子どもの生活を領域「言葉」の視点で捉え、育ちの姿（経験していること）を示すことができる。
○言葉に対する感覚や豊かな言葉が育ち言葉で表現する保育活動が想定できるようになる。

【授業の内容及び方法】

子どもの生活・遊び等の実践事例や演習を通して、豊かな言葉の育ちや保育内容を明らかにする。一人一人の子どもに確かな発達を促す為に子どもを理解した指導、環境構成や適切な援助のあり方を学ぶ。講義が主となるが、絵本・物語の読み聞かせ等ワークショップ、グループ討議等の演習も行う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション 保育内容「言葉」を学ぶとは、言葉とは何か、人の生活と言葉
2. 乳幼児期の言葉の発達 (1) 3歳までの子どもの発達と言葉の発達
3. 乳幼児期の言葉の発達 (2) 4歳から6歳までの子どもの発達と言葉の発達
4. 乳幼児期の言葉の発達 (3) 言葉の発達と環境
5. 言葉をめぐるワークショップ お話・絵本の読み聞かせ、わらべうた遊び等
6. 保育内容としての「言葉」 (1) 領域「言葉」のねらいと内容
7. 保育内容としての「言葉」 (2) 領域「言葉」の具体的な内容
8. 言葉を育む保育 (1) 0, 1, 2歳児と保育者のかかわり
9. 言葉を育む保育 (2) 3歳児と保育者のかかわり
10. 言葉を育む保育 (3) 4, 5歳児の活動と言語活動
11. 言葉を育む保育 (4) 保育者の援助とかかわり、文字への興味の発達
12. 児童文化財（絵本・お話・紙芝居等）と言葉の育ち
13. 模擬保育 領域「言葉」の保育内容を捉えた保育
14. 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども
15. まとめ（振り返り）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習として、テキストの授業範囲を熟読することと復習。予習復習に加え、休日や長期休業期間を利用して、学修した内容を自主学修すること。また、課題作成等加えると概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

乳幼児期は「言葉」の発達がめざましい。その重要性を認識し意欲的、積極的に臨むこと。

【評価方法・基準】

期末試験（60%）、受講態度（20%）、レポート（20%）

【教 材】

教科書：子どもと言葉（萌文書林）

参考文献：幼稚園教育要領解説（文部科学省） 保育所保育指針（厚生労働省）必要に応じて資料配布

【キーワード】

豊かな言葉 保育内容「言葉」 子どもとことば 聞く・話す・伝える

【授業の目標及び到達目標】

本授業は幼児教育に必要な音楽の基礎知識や技能を身につけ、自信をもって弾き歌いができるようになることを目標とする。コードネームを理解し、簡易な伴奏法や効果的な編曲法を修得する。

【授業の内容及び方法】

基本的な音楽理論を理解し、実技・演習を通して歌唱法(発声法・呼吸法・発音等)、伴奏法、編曲法について学ぶ。毎回、課題曲の発表をして研究を深める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 基礎発声法…歌う姿勢、呼吸法、発声法についての理解と演習 (発声練習は毎回実施)
音名と音階、長調と短調の理解 課題…ハ長調の曲の弾き歌い(毎回課題あり)
3. コードネームについて コードの理解と主要3和音「T・S・D」の理解
弾き歌いの基礎(ハ長調) ハ長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
4. 弾き歌い(ヘ長調) ヘ長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
5. 弾き歌い(ト長調) ト長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
6. 弾き歌い(ニ長調) ニ長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
7. 弾き歌い(イ短調) イ短調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
8. 弾き歌い(ニ短調) ニ短調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
9. 弾き歌い(ホ短調) ホ短調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
10. 弾き歌い(変ロ長調) 変ロ長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
11. 弾き歌い(変ホ長調) 変ホ長調の音階と主要3和音 伴奏法及びアレンジについて
12. 簡易伴奏 調の判定と主要3和音 旋律に対しての伴奏付け
13. 簡易伴奏 調の判定及びコード付け 各調のコード付けと伴奏法
14. 簡易伴奏 伴奏アレンジの実践 リズムパターンの理解と実践
15. 歌唱指導法 聴唱法による指導 … 範唱, 模唱の理解と実践
指揮法 2・3・4拍子の指揮法演習

定期試験

【授業外の学習(予習・復習の指示、学習時間など)について】

課題曲の練習は毎日行うことが望ましい。概ね30時間の自主練習が必要。

歌集やポップスなど好きな曲をコード伴奏で弾き歌いをすると上達が早い。

【履修上の注意・要望等】

弾き歌いは口をしっかりと開けて、遠くに声を届けるように歌うこと。(口の確認の為、鏡を持参する)

アドバイスを把握し苦手な部分を克服できるよう努力する。他から技術を学ぶ事も大切。

講義内容は必ずノートにまとめる。

【評価方法・基準】

実技試験(60%)

筆記試験(20%)

受講態度(20%)

【教 材】

こどもの歌名曲アルバム(ドレミ楽譜出版社) 幼稚園教育要領解説(文部科学省) 適宜資料配布

【キーワード】

コードネーム 主要3和音 移調 アレンジ アルペジオ 鼻濁音 子・母音 フレーズ

【授業科目】 社会的養護内容

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 青木 幹生

(自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

社会的養護における施設養護や家庭養護の本質や機能を学び、専門的知識を持ち合わせた保育者としての理解を深めていくようにする。

加えて、より具体的な内容と実際について体感する事によって、専門的養育者として必要な支援技術を獲得することを目的とする。

【授業の内容及び方法】

社会的養護の専門職に関する内容理解を深めていくために、その理念や実際的な支援について、演習や体験学習等も加えながら、現場での支援に近い形での解説を行っていく。

【授業の計画】

1. 社会的養護について
2. 社会的養護と子どもの権利
3. 施設養護について
4. 日常の中での生活支援
5. 施設の小規模化
6. 児童養護施設について
7. 家庭養護について
8. 里親家庭について
9. 自立支援について
10. 記録とライフストーリーワーク
11. ソーシャルワークと社会的養護
12. 自立支援計画票について
13. 社会的養護に関わる専門職について
14. 社会的養護の将来像
15. 社会的養護の課題とこれから

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

- ・ 事前に教科書を読み、講義内容の理解を深めてから受講すること。
- ・ 授業を履修するにあたって、概ね15時間程度の自主学習が必要となる。
- ・ 受講後の課題演習には積極的に取り組み、分からない内容は調べておくように。

【履修上の注意・要望等】

- ・ 日頃から、TV、インターネット等から児童福祉に関する課題等に情報を収集し、自分なりの考えや意見を持っておくようにしてください。

【評価方法・基準】

- ・ 試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）等により総合的に評価する。

【教 材】

- ・ 資料、書き込みプリント等を配布
- ・ 教科書：演習 保育と社会的養護内容 橋本好一/原田旬哉 編著（株式会社 みらい）
- ・ 参考文献：明日の子供たち（幻冬舎）、ぶどうの木（幻冬舎）

【キーワード】

児童福祉、社会的養護、自立支援、パーマネンシー

【授業科目】 国語

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 横川 知之 (自室番号 123)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

日本語の、音声・語彙・表記・文法などについて再確認する。また、その能力を用いて、すぐれた文学の理解や鑑賞ができるようになるとともに、日本語の豊かさや美しさを知ることができるようになる。

【授業の内容及び方法】

日本語の特質である、音声・語彙・表記・文法などについて学習し、その体系的に理解した日本語を、幼小者に対して指導・助言ができるようになる。

【授業の計画】

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 国語とは | 国語の概念 国語の意義 国語の尊重 |
| 2. 日本語の国際比較 | 日本語の特色を知るために、外国語との比較・検証 |
| 3. 日本語の文字 | 日本語の文字の特徴・ひらがな・カタカナ・漢字・・・ |
| 4. 文の構造 | 文・文節・単語・品詞・・・ |
| 5. 日本語の音韻 | 日本語の音韻構造 |
| 6. 日本語のアクセント | 日本語のアクセント・語彙・方言 |
| 7. 原稿用紙の使い方 | 原稿用紙の使い方 |
| 8. わかりやすい文章の書き方 | 一文を短く、段落を設ける、文体の統一・・・ |
| 9. 文章表現 | 文章表現の特質 |
| 10. 口頭表現 | 口頭表現の特質 |
| 11. 読み聞かせの工夫 | 読み聞かせの方法および意義 |
| 12. 面接力の鍛え方 | 面接の観点に対する対策 |
| 13. 履歴書の書き方 | 優れた自己紹介書の書き方 |
| 14. 豊かな言葉の働き | 豊かな言葉がもたらすもの |
| 15. 国語の諸問題 | 国語に関わる様々な問題 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業ごとに、準備や課題が与えられるので、意欲的に準備や課題に取り組む。

上記の準備や課題作成などに概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

日頃の言語活動に興味や関心を持ち、問題意識を持って、それらを使用するように心がける。また、日本語の特性や特質を大系的に学習し理解するため、『国語学概論』等を読んでおく。

【評価方法・基準】

学習態度や各種の発表（含む模擬授業）・レポートにより、総合的に評価する。

学習態度（20%） 発表（20%） レポート（60%）

【教 材】

教材は、担当が毎回資料やプリントを用意するが、『国語学概論』等の書物に目を通しておく。

【キーワード】 国語学 国語学概論

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、これからの幼児教育の音楽表現がわかるように音楽的基礎知識と技能そして広い音楽観を身に付け、子どもが主体的に音や音楽と関わることができる音楽活動のあり方と援助方法について学ぶことである。到達目標は、歌・手遊び・身体表現など様々な音楽を子どもと楽しむことができることである。

【授業の内容及び方法】

手遊び・歌・リズム指導法、コード、日本や諸民族の音楽、映像教材などを一斉・個別授業で学ぶ。

【授業の計画】

- ・毎回、授業の始めと終わりに「オープニング」と「エンディング」と題して、
「手遊び」と「子どもの歌」の指導と「リズム・エコー」のグループ・プレゼンテーションを行う。
1. ガイダンス 広い音楽観 保育指針と教育要領 歌うとは < 試験・レポート >
 2. 手遊びと歌 楽典とコード 音取り①方法
 3. 歌い方と伴奏法の理解と音楽観拡大の為の<ミニ・コンサート>
 4. 手遊びと歌 楽典とコード①楽譜 音取り②実際
 5. 手遊びと歌 楽典とコード②音譜 音取り③指導 音取り実技試験
 6. 手遊びと歌 楽典とコード③音名 オルフ①同時模倣 太鼓①膝うち
 7. 手遊びと歌 楽典とコード④拍子 オルフ②エコー 太鼓②かけ声
 8. 手遊びと歌 楽典とコード⑤音程 オルフ③カノン 太鼓③打ち方
 9. 手遊びと歌 楽典とコード⑥音程 オルフ④ロンド 太鼓④指導方法 楽典とコード筆記試験
 10. 手遊びと歌 コード・スタイル①&0.5 トガトン①鑑賞
 11. 手遊びと歌 コード・スタイル② トガトン②リズム
 12. 手遊びと歌 コード・スタイル③ トガトン③創作 レポート
 13. 手遊びと歌 コード・スタイル全 トガトン④まとめ 「幼児教育とトガトン」
 14. 手遊びと歌 音楽ゲーム①声 合奏①曲選び 創作音具①竹で
 15. 手遊びと歌 音楽ゲーム②手拍子 合奏②コード確認 創作音具②プリン容器で
 16. 手遊びと歌 音楽ゲーム③名のり 合奏③班で演奏 創作音具③紙で
 17. 手遊びと歌 べつくり①一本べ 音狩り①教室内 リトミック①手拍子で
 18. 手遊びと歌 べつくり②他のべ 音狩り②学校内 リトミック②肩膝うちで
 19. 手遊びと歌 べつくり③べ作り 音狩り③学外で リトミック③全身で べつくり実技試験
 20. 手遊びと歌 オルフのロンド①問と答で 日本の動き①すり足
 21. 手遊びと歌 オルフのロンド②手足拍子 日本の動き②立つ・座る コード確認実技試験
 22. 手遊びと歌 オルフのロンド③タップ人形 日本の動き③サス・ヒラクなど
 23. 手遊びと歌 映像鑑賞①アニメ 前半 わらべ歌①「あんたがたどこさ」等
 24. 手遊びと歌 映像鑑賞②アニメ 後半 わらべ歌②「今年の牡丹」等
 25. 手遊びと歌 映像鑑賞③日本語で遊ば わらべ歌③ 津山のわらべ歌 レポート
 26. 手遊びと歌 映像鑑賞④お父さんと一緒 わらべ歌④～出身地のリスト作成 「幼児教育と映像作品」

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業に使用される歌・手遊び・コードの知識等を事前に確かめて予習する。事後は反復実践による学習内容の復習が必要とされる。グループ・プレゼンでは事前の相談が必須である。休日や長期休業、保育実習期間などを利用して授業で学修した内容を30時間程度自主学修することが必要とされる。

【履修上の注意・要望等】 個人やグループでの創作・表現活動への積極的参加が必要である。

【評価方法・基準】 受講態度(30%) レポート(40%) 試験・実技試験(30%)

【教 材】 「五線譜の約束」明星大出版部「こどもの歌名曲アルバム」ドレミ出版「歌はともだち」教芸

【キーワード】

手遊び 子どもの歌 トガトン オルフ・シュールベルク リトミック サウンド・ハンティング

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、幼児期の造形表現の指導に必要な基礎的な知識や技能を、体験的に学ぶことである。様々な製作活動を通して、造形活動のよさを理解し、保育現場で実践的な指導ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

個人やグループでの製作を中心に、造形活動の楽しさを体感しながら学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1 幼児造形の授業について | ・ ガイダンス及びはさみ・のりの指導と製作 |
| 2 用具・用法の基礎と実践① | ・ 紙の工作①(紙の性質と技法) |
| 3 用具・用法の基礎と実践② | ・ 紙の工作②(紙を使った保育題材) |
| 4 用具・用法の基礎と実践③ | ・ 絵の具を使った表現①(身近な材料を使って) |
| 5 用具・用法の基礎と実践④ | ・ 絵の具を使った表現②(オートマチックな技法) |
| 6 感触あそび① | ・ 自然材を使って(光る泥団子づくり) |
| 7 用具・用法の基礎と実践⑤ | ・ 身近な材料を使った造形あそび①(構成あそび) |
| 8 用具・用法の基礎と実践⑥ | ・ 身近な材料を使った造形あそび②(みたてあそび) |
| 9 用具・用法の基礎と実践⑦ | ・ 色染め遊びと製作①(団扇作り) |
| 10 用具・用法の基礎と実践⑧ | ・ 色染め遊びと製作②(七夕飾り/夏のお便り) |
| 11 用具・用法の基礎と実践⑨ | ・ パスを使った表現①(点描・ステンシル) |
| 12 用具・用法の基礎と実践⑩ | ・ パスを使った表現②(スクラッチ・フロッタージュ) |
| 13 子どもの表現の発達過程 | ・ 描画の発達過程と子どもの絵の見方 |
| 14 感触あそび③ | ・ スライムづくりとあそび |
| 15 用具・用法の基礎と実践⑩ | ・ 版あそびとその表現 |
| 16 用具・用法の基礎と実践⑪ | ・ ローラーあそびとその表現 |
| 17 園内行事等に伴う製作① | ・ 展示環境の構成 |
| 18 園内行事に伴う製作② | ・ 展示物の製作 |
| 19 感触あそび④ | ・ 小麦粉粘土の製作と粘土を使ったあそび |
| 20 保育に生かす壁面構成① | ・ グループ製作(構想) |
| 21 保育に生かす壁面構成② | ・ グループ製作(製作1・パネルづくり) |
| 22 保育に生かす壁面構成③ | ・ グループ製作(製作2・パーツ作り) |
| 23 保育に生かす壁面構成④ | ・ グループ製作(製作3・構成) |
| 24 用具・用法の基礎と実践⑫ | ・ しくみをつかった表現①(パペット) |
| 25 用具・用法の基礎と実践⑬ | ・ しくみをつかった表現②(ポップアップカード) |
| 26 用具・用法の基礎と実践⑭ | ・ 身近な材料を使った工作(ストロー、紙コップ等を使って) |

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。前時に予告する次回の内容について、教科書等で調べたり、製作に必要な材料や用具を整えたりするとともに、授業後に配布するワークシートによって、授業内容をまとめたり、自分なりの課題を持ち、より深く調べたりすること。

【履修上の注意・要望等】

配布プリント及び資料類の保管のために専用のファイルを用意すること。

絵の具セット、クレパス、スケッチブックの購入についてガイダンス(第1回)で指示する。

【評価方法・基準】

受講態度(60%)、提出物(40%)により総合的に評価する。

【教 材】

教科書:「新造形表現 実技編」(三晃書房)

参考文献:「幼稚園教育要領」(文部科学省)「保育所保育指針」(厚生労働省)村田夕紀・内本久美「2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ」(ひかりのくに) 竹井史「作って遊べるカンタンおもちゃ」(ひかりのくに) その他授業の中で適宜紹介する。

【キーワード】 幼児の造形 造形表現 造形あそび つくってあそぶ

【到達目標及び到達目標】

この授業では、乳幼児期の運動保育理論に基づいた実践ができるようになることを目標とする。到達目標は乳幼児期の発達と運動との関わりについて理解する。さらに様々な運動あそびの体験をとおして、運動あそびを指導する上で子どもの『何が育つか』という視点から目標設定し、保育計画を立案できることを目指す。

【授業の内容及び方法】

理論の講義・実技・乳幼児への指導実践の 3 方法を通して、子どもの運動あそびの指導について理論と実践を学ぶ。

【授業の計画】

- (1) 子どもの心身の健康な発達と運動……子どもの生活の現状やからだの異変を理解し、運動あそびの必要性を知る。
- (2) 心の安定と運動あそび……乳幼児の人格形成と運動あそびの関連について学ぶ
- (3) 乳幼児期の発達と運動……ビデオ教材から発達変化について学ぶ。
- (4) 幼児体育とは……幼児体育のねらいと指導内容
- (5) ～ (6) 未就園児の運動あそびの実践Ⅰ……乳幼児の発達を知る。
- (7) 体を使って遊ぶ①……コーディネーション運動を重視し、子どもの体づくりを学ぶ
- (8) 体を使って遊ぶ②……リズム学習と集団遊びを音楽とのリズム同期から実践する。
- (9) 表現遊び……動物模倣を中心に、創造的な体の動きと動きを生み出す言葉かけについて学ぶ。
- (10) リトミック遊び……即時反応を中心に、音の高低、リズム変化の表現を学ぶ。
- (11) リズムダンスの創作
- (12) 身近な素材と運動あそび①……新聞紙を使い、コーディネーション運動の発達をねらいとする。
- (13) 身近な素材と運動あそび②……ナイロン袋等を使い、
- (14) 作って遊ぼう①……廃品を利用して、投げる、捕る、振る等の運動遊びの道具を作って遊ぶ。
- (15) 作って遊ぼう②……廃品を利用して、跳ぶ、渡る等の運動遊びの用具を作って遊ぶ。
- (16) 大型遊具のあそび②……マットと跳び箱を組み合わせて、よじ登る、転がる、跳ぶ動きの
- (17) 大型遊具のあそび③……小学校との連携を目指した跳び箱運動の指導について学ぶ。
- (18) 大型遊具のあそび④……小学校との連携を目指した鉄棒運動の指導について学ぶ。
- (19) ～ (20) 未就園児の親子運動あそびの実践Ⅱ
- (21) サーキット遊びの計画と実践①……グループ別にサーキット遊びを考案する。
- (22) サーキット遊びの計画と実践②……考案したサーキット遊びを発表。
- (23) 小型遊具のあそび①……縄やゴムあそびを通して、跳ぶ遊びだけでなく、遊びの創造を目的とする。
- (24) 小型遊具のあそび②……ボールや風船あそびを通して、投一捕の遊びだけでなく、
- (25) 運動有能感を育てる実践について学ぶ。
- (26) 創造性を育てる実践について学ぶ。

【授業外の学習(予習・復習の指示、学修時間など)について】

実技の授業は、毎時間ごとに(復習 約 2 時間 合計 52 時間)、授業中に行ったあそびの目的、指導方法、指導上の留意事項について詳細に記載し、あそびの発展のさせ方、理論的裏付けなどを調べ、授業ノートを作成し提出する。

【履修上の注意・要望等】 保育のプロになるという意識を持って授業に参加すること。実技は、体操服を着用し、体育館シューズ及び運動靴を用意すること。

【評価方法】 授業ノートを採点する。最後に講義内容を含めたレポートを提出する。

受講態度 30%、授業ノートおよびレポート 70%で評価する。

【教材】 前橋 明他：コンパス 幼児の体育，建帛社

岩崎 洋子「乳幼児の運動 1・2」チャイルド本社

【キーワード】 乳幼児の運動発達・運動あそび・運動有能感

【授業科目】 総合表現技術

【単 位】 2

【学 期】 通年前期

【担当教員】 安東 篤志

(自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標

本授業は、人形劇の基本的な知識や技能を習得し、保育に生かせる劇表現を学ぶために行う

到達目標

- 人形の制作方法を学び、実際に制作することができる。
- 子どもの視点に立ち、分かりやすく演じることができる。
- グループで協力して人形劇を発表する。

【授業の内容及び方法】

内容 人形の制作方法を学び、片手遣い人形（パペット）を制作する。

人形の操作技術を学び、演じる。

グループで協力して人形劇を作り、発表する。

方法 人形の制作、人形劇の上演を中心に、講義を行う。

【授業の計画】

1	人形劇理論 ①	人形劇と児童文化
2	人形劇理論 ②	人形劇の多様性について
3	人形制作 ①	制作計画 頭部
4	人形制作 ②	手足、体
5	人形制作 ③	組み立て
6	人形制作 ④	衣装 仕上げ
7	保育現場における人形劇	子どもと楽しむ人形の使い方
8	グループ制作 ①	活動計画の立案 台本作成
9	グループ制作 ②	人形の制作
10	グループ制作 ③	大道具、小道具の制作
11	グループ制作 ④	人形の具体的な操作と演技
12	グループ制作 ⑤	舞台表現 効果音
13	グループ制作 ⑥	予行演習
14	グループ制作 ⑦	表現の比較、考察
15	人形劇発表会	グループごとの上演

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

課題制作やレポートの作成、人形劇のグループ制作などで自主学修をする。

概ね30時間の自主学修が必要です。

【履修上の注意・要望等】

指示された物は、必ず準備して授業に臨むこと。

提出物の期限を厳守すること。

【評価方法・基準】

グループ制作・発表(人形劇30%)、レポート・提出物20%、制作物(人形)20%、受講態度30%

【教 材】

必要に応じて、プリントを配布。

参考文献 「手づくり人形劇ハンドブック」—子どもといっしょに楽しむ劇表現の世界—

幸田眞希 掃守純一郎 金城久美子 横田左千子 著 萌文書林

【キーワード】

人形劇 パペット 児童文化

【授業科目】 総合表現技術

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 鈴木 雪絵

(自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

個々が主体的・積極的に身体を使って表現することを楽しみ、また他者と協力して一つの作品を作り上げていく。

保育現場においても、子どもの興味や気持ちに配慮しながら意欲を引き出す指導が出来ることを目指す。

【授業の内容及び方法】

グループ毎に演目を一つ選び、歌い演じる役、大小道具・衣裳などの役割を分担し、最終授業で行われる試演会での発表に向けて歌唱や演技などの練習を重ねていく。

また、並行して大小道具・衣裳などの制作も行う。

【授業の計画】

1. 参考 DVD 鑑賞、グループ分け、演目・配役決め
2. 音楽稽古①全員で歌い大まかな流れをつかむ
3. 音楽稽古②役毎に分かれて歌う
4. 音楽稽古③全体を通して歌う
5. 立ち稽古①出入りや立ち位置などの確認
6. 立ち稽古②細かい動きをつける
7. 舞台メイク講習
8. 立ち稽古③通し練習
9. 公開リハーサル（衣裳・大道具など本番と同じものを使用）
10. 作品発表（試演会）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

歌・セリフなどは授業外でもよく練習し、早い段階での暗譜を目指すこと。

概ね30時間の自主学修が必要。

楽譜に注意点などを書き込み、自発的に練習に取り組むこと。

グループで行う授業という性質上、衣裳・大道具制作なども協力して行うこと。

【評価方法・基準】

受講態度（80%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。

【教 材】

こどものミュージカル（ドレミ楽譜出版社）他

【キーワード】

オペレッタ、音楽劇、表現、劇遊び

【科目名】 総合表現技術

【単位】 2

【学期】 前期集中

【担当教員】 齊藤 頼陽 (自室番号)

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、保育に欠かせないと考えられる以下の資質能力の重要性を理解し、習得することをめざす。

- 1 想像力を使いながら、全身で遊ぶことの面白さ
- 2 グループで一つのをまとめることの、困難と楽しさ
- 3 想像力を膨らませた物語の読み方、組み立て方

【授業の内容及び方法】

シアターゲームや簡単なビデオアニメや芝居の創作活動を行いながら、創作する楽しさを体験する。

【授業の計画】

1. ウォーミングアップ

シアターゲームを行う。身体を動かしてゲームを楽しみながら、演じる際に大事なポイントとなる「目の前で起こっていることに自ら関わる」、「相手の発信したものを受け取り、瞬時に反応する」、「他者へとはっきり伝える」ことを感じる。

2. 「コマドリアニメを創る」

グループに分かれ、「コマドリ」の技法を使って、短いビデオ作品を創ってみる。

3. 「演じてみる1」

グループに分かれ、好きな教材（絵本）を選び、それぞれの教材の持っているおもしろさを意識しながら、5～10分程度のお芝居を創作する。

4・5. 「演じてみる2」

「総合表現技術」の授業の一環として実施されるオペレッタを、より演劇的な観点から捉え、演技や空間構成、演出プランを考え、実際に練習してみる。

※グループで創った各作品は講義中に発表し、互いの優れている点、改善した方がよい点を考察する。

※授業進行の関係上、コマの区分と授業内容の区分が異なります。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

総合表現技術の授業全体として概ね30時間の学修が必要。各自で受講内容を振り返り、他の講義受講の際に活用できるようになることが望ましい。

【履修上の注意・要望等】

動きやすい服装・上履きで受講すること。スカートは不可。能動的、協力的に参加できない場合、退室を命じることがある。

【評価方法・基準】

受講態度、積極性、他者との協力、真面目さといった授業態度（70%）、発表の成果[アイデアの独創性]（30%）により総合的に評価する。

【教材】

（こちら側で用意する）子ども向け絵本を用いる。受講生が取り上げてみたい絵本があれば、それを使用することも可能。

参考文献：「ももたろう」（福音館書店）、「三びきのこぶた」（福音館書店）、「かにむかし」（岩波書店）

【キーワード】

演劇を通じて、協働作業やコミュニケーションのあり方、体を使った物語（絵本）の楽しみ方を体験する

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目標は、無理のない発声により自然な明るい響きで歌うことである。

保育現場において正確な音程で自信を持って歌えることを目指す。

【授業の内容及び方法】

毎回、ストレッチ・発声練習を行った後に子どもの歌や童謡・唱歌などを歌う。

【授業の計画】

1. ガイダンス、ストレッチなどの準備運動、ヴォイストレーニング
2. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱①春の歌を歌う I
3. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱②春の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
4. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱③夏の歌を歌う I
5. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱④夏の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
6. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑤秋の歌を歌う I
7. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑥秋の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
8. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑦冬の歌を歌う I
9. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑧冬の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
10. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱①春の歌を歌う I
11. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱②春の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
12. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱③夏の歌を歌う I
13. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱④夏の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
14. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱⑤秋の歌を歌う I
15. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱⑥秋の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
16. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱⑦冬の歌を歌う I
17. ヴォイストレーニング、童謡・唱歌の歌唱⑧冬の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)
18. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱①オープニング
19. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱②エンディング
20. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱③オープニング・エンディング
21. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱④役柄ごとに分かれて I (独唱)
22. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑤役柄ごとに分かれて II (重唱)
23. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑥通し練習 I (音楽練習)
24. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑦通し練習 II (役柄に合わせた歌い方で)
25. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑧通し練習 III (台詞も含めて)
26. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑨通し練習 IV (実際に動きをつけながら)
27. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑩通し練習 V (楽譜を見ずに暗譜で)
28. ヴォイストレーニング、オペレッタの歌の歌唱⑪通し練習 VI (グループ通しで聴き合う)
29. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑨入学・卒業の歌を歌う I
30. ヴォイストレーニング、子どもの歌の歌唱⑩入学・卒業の歌を歌う II (伴奏を弾きながら)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

休日や長期休暇中など、授業で学習した楽曲を自主学習すること。

概ね30時間の自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

受動的な態度ではなく、子どもの前で歌って教えることも視野に入れながら積極的に授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

受講態度 (70%)、歌唱試験 (30%) によって総合的に評価する。

【教 材】

簡易ピアノ伴奏によるこどもの歌名曲アルバム (松山祐士 編/ドレミ楽譜出版社)

その他については別途指示する。

【キーワード】

子どもの歌、童謡、唱歌、弾き歌い

【授業科目】 器楽Ⅰ

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 木暮 朋佳 (自室番号242)
スタッフ

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、子どもの歌等をピアノで弾き歌いできるようなコードによるピアノ伴奏に習熟すると共に、広い音楽観を持つために、様々な種類のピアノ音楽や歌に親しみ、演奏技術を向上させることである。到達目標はコードを用いて子どもの歌等を弾き歌いできることである。

【授業の内容及び方法】 子どもの歌等を個人レッスン中心に学ぶがグループ・レッスンをを行うこともある。

【授業の計画】

・受講者の実力に応じた個別指導等が行われる。

コードを使った伴奏（弾き歌い）では、以下の様なスタイルを学習する。

スタイルゼロ → 右手メロディ（+歌）

スタイル0.5 → 右手メロディ+左手コード根音（+歌）

スタイル① → 右手メロディ+左手コード（+歌）

スタイル② → 右手和音+左手ベース（+歌）

スタイル③ → ②の右手の最高音にメロディ（+歌） ～簡易ブロック奏

譜面通りの伴奏も受講者の実力により、以上の方法に付加される。

前 期

1. Cスケールとコード奏 等
2. Fスケールとコード奏 等
3. Gスケールとコード奏 等
4. Dスケールとコード奏 等
5. aスケールとコード奏 等
6. スケールとコード奏、「とんぼのめがね」等の伴奏①
7. スケールとコード奏、「うみ」等の伴奏②
8. スケールとコード奏、「かえるのうた」等の伴奏③
9. スケールとコード奏、「おうま」等の伴奏④
10. スケールとコード奏 自由曲「とけいのうた」① 等
11. スケールとコード奏 自由曲「つき」②等
12. スケールとコード奏 自由曲「どんなときも」③ 等
13. スケールとコード奏 自由曲「魔王」④ 等
14. スケールとコード奏 自由曲「好きなJ-POP」⑤ 等
15. 人前で演奏しよう① 公開発表会 ～「5調のスケールとコード奏」&「自由曲」

後 期

16. コードによる童謡「もみじ」等の弾き歌い①
17. コードによる童謡「ゆき」等の弾き歌い②
18. コードによる童謡「たきび」等の弾き歌い③
19. コードによる童謡「まめまき」等の弾き歌い④
20. コードによる童謡「はる」等の弾き歌い⑤
21. 同上「ゆうひ」⑥ 歩「キラキラ星」等の曲①
22. 同上「らくだ」⑦歩「みつばち」等の曲②
23. 同上「かたつむり」⑧ 歩「凱進行進曲」等の曲③
24. 同上「トマト」⑨走「わら七面鳥」等の曲④
25. 同上「むしば」⑩ 走「楽隊あそび」等の曲⑤
26. 同上「ぞうさん」⑪走「乗馬」等の曲⑥
27. 同上「アイアイ」⑫ スキップ「おばけなんて」等の曲⑦
28. 人前で演奏しよう② 公開発表会 ～「コードを主に使った伴奏による童謡等の弾き歌い」
29. コードによる童謡「うれしい雛祭り」等の弾き歌い⑬ ワルツ「スケーターズワルツ」等の曲⑧
30. 人前で演奏しよう③～歩・走・スキップ・ワルツ「権兵衛さんの赤ちゃん」等の曲（担当ごと発表会）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】 毎回の反復練習による復習と予習が必須であり、コードを使った伴奏法と弾き歌いに十分な声量を獲得すべく、30時間超の自主学修が必要である。さらに休日や長期休業、保育実習期間などを利用して自主学修することも大切である。

【履修上の注意・要望等】 基本コード15個の暗記と構成原理の理解が必要である。

【評価方法・基準】 受講態度と普段のレッスンへの意欲や努力の大きさを高く評価する。(80%)

音楽スタッフ全員の審査による公開発表会と担当スタッフ個々の発表会(20%)

【教 材】 「子どもと遊ぶピアノ曲」 高橋 他編 音楽之友社

「やさしく学べるピアノ曲100」 関西地区大学音楽教育学会編著 音楽之友社

「子どもの歌名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 他

【キーワード】 ピアノ 弾き歌い コード コード伴奏 スケール 童謡 子どもの歌

【授業科目】 保育実習指導 I (保育所) 【単 位】 2

【学 期】 後 期 【担当教員】 岡本 美幸 (自室番号 332)

【対象学生】 幼児教育学科 1 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保育実習の目的、内容、方法を理解し、課題を持って実習することができるように、基本的な知識・技能・態度・職業人としての振る舞いやマナーを学び、身に付けることを目的とする。実習の事前、事後の学習や実習体験を振り返り、それぞれの自己課題や目標を明確にすることができるようにする。

【授業の内容及び方法】

観察や記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技術などを一斉・個別指導で習得する。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所や施設の機能、保育者の役割や職務内容など具体的・総合的に学修する。

【授業の計画】

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 保育実習の目的・内容・心構え | 保育実習の位置づけ 意義・目的についての理解 |
| 2. 実習に必要な手続きと準備 | 自己課題の設定 実習書類作成 実習のマナー・態度 |
| 3. 保育所の目的と概要 | 保育所の社会的役割 保育士の資格と業務 職業倫理 |
| 4. 子ども理解と観察 | 乳幼児の発達と保育 保育所保育指針の理解 |
| 5. 実習の実際 | 実習の段階 ねらい及び内容についての理解 |
| 6. 保育日誌の意義と内容の理解 | 記録することの意義 記録の書き方・留意点 |
| 7. 保育内容の展開 | デイリープログラムと月・週指導計画について |
| 8. 保育計画の理解 | 保育実技・教材研究の方法 守秘義務 保護者支援 |
| 9. 指導計画の書き方① | 指導計画の必要性の理解 指導案作成の基本的な考え方 |
| 10. 指導計画の書き方② | グループでの指導案作成 教材準備 実践シミュレーション |
| 11. 指導計画の書き方③ | グループ別での実践・評価・反省 各課題の明確化・反映 |
| 12. 実習の心構えと準備 | 実習の心構え・マナー、保育士の倫理綱領、基本事項の確認 |
| 13. 事後指導① 実習のふりかえり | 自己反省と自己評価 |
| 14. 事後指導② 実習の整理・活用 | グループでの実習体験を報告・交流・共有化 |
| 15. まとめ | 自己課題の検討と今後の展望 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習の目的を明確し、手遊びや絵本の読み聞かせなどの練習や作成をしたり、指導案作成に必要な教材研究を行ったりし、実習準備を万全にすること。概ね 30 時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

実習の必要書類作成なども行います。授業へは全出席すること。受講態度や、書類提出状況により実習ができなくなることがある。

【評価方法・基準】

授業態度(40%)、提出課題・書類などの提出状況(40%)、指導案及び日誌の作成への取り組み状況(20%)により総合的に評価する。

【教 材】

全国保育士会編「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」
岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」「保育所実習日誌」、授業中に配布するプリント。

【キーワード】

保育実習 保育所 実習日誌 指導計画 指導案 保育実技 守秘義務 自己課題の明確化

【授業科目】 保育実習Ⅰ（保育所）

【単 位】 4（施設を含む全体の単位）

【学 期】 後 期

【担当教員】 岡本 美幸

（自室番号 332 ）

【対象学生】 幼児教育学科1年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保育所の保育場面を実際に経験して実践力のある保育士になるために、学内で学んだ基礎理論や専門的理論と技術を保育の実践を通して具体的に学び、保育士の役割や専門性を知り必要な知識や技術を習得することできるようにする。また、乳幼児とのかかわりを通し、子ども理解を確かなものにする。保育者としてふさわしい人格形成を計ることができるようにする。

【授業の内容及び方法】

実際に保育所において乳幼児とのかかわり、保育士の仕事に携わることを通して、学内で学んだ内容と実践の統合を図る。実際に保育者に準ずる実践的に学び、実習日誌を記録し指導及び助言を仰いだり、実際に指導実習を行ったりすることを通して、保育所における様々な保育内容や指導技術の実際を具体的に学ぶ。

＜保育所実習Ⅰの内容＞

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 保育所の役割と機能<ol style="list-style-type: none">(1) 保育所の生活と一日の流れ(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開2. 子ども理解<ol style="list-style-type: none">(1) 子どもの観察とその記録による理解(2) 子どもの発達過程の理解(3) 子どもへの援助やかかわり3. 保育内容・保育環境<ol style="list-style-type: none">(1) 保育の計画に基づく保育内容(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容(3) 子どもの生活や遊びと保育環境(4) 子どもの健康と安全 | <ol style="list-style-type: none">4. 保育の計画、観察、記録<ol style="list-style-type: none">(1) 保育課程と指導計画の理解と活用(2) 記録に基づく省察・自己評価5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理<ol style="list-style-type: none">(1) 保育士の業務内容(2) 職員間の役割分担や連携(3) 保育士の役割と職業倫理 |
|---|---|

【授業の計画】

平成31年2月に10日間(90時間以上)の実習を行う。観察・参加実習を中心とし、実習園の指導のもとで、部分実習や半日実習を数日行う。(実習園により日程が異なる)

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

オリエンテーションやボランティア体験などの事前訪問により実習への意欲を高め、様々な保育実技を生かすことができるよう、教材研究や保育準備など十分に準備して臨むこと。帰宅後は、実習内容を振り返り日誌を記入し、反省や考察を行うこと。上記の準備や振り返りなどに概ね60時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

社会人としてのマナーと自覚をもって、現場保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲を持って多くを吸収するように努める。また、子どもの良いモデルとなれるような言葉遣い、態度、ふるまいに注意すること。

【評価方法・基準】

実習園の評価(40%)、実習態度・連絡(40%)、実習日誌や指導案(20%)（施設実習と合算して評価する）

【教 材】

全国保育士会編「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」
岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、「保育所実習日誌」

【キーワード】

保育実習 保育所 保育士 実習日誌 指導案

【授業科目】 ※歌と音を楽しむ（サテライト受講者用）

【単 位】

【学 期】 後 期

【担当教員】 木暮 朋佳

（自室番号242）

鈴木 雪絵

【対象学生】 美作高校サテライト受講者

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、子どもの歌等に親しみながら歌を歌えるようになるとともに、トガトンや和太鼓を使って、散奏する楽しさやオルフのロンドを使ったリズム遊びの楽しさを味わうことを目的とする。保育士や幼稚園教諭に必要とされる広い音楽観を得るための入り口となるように、こどもの歌とフィリピンの民族楽器と日本のお囃子の太鼓類に親しみ、歌と音の心を知る。

【授業の内容及び方法】

様々な子どもの歌などを歌うとともに音取りのやり方を学び、コード伴奏による弾き歌いの実例に触れる。トガトンの演奏の仕方と散奏の仕方をつかむ。また、やぐら太鼓、うちわ太鼓、鉦、チャップ、桶胴太鼓、大太鼓、ツケ木とツケ板、拍子木などの演奏のやり方がわかり、同時にオルフのロンドに親しむ。

【授業の計画】

後 期 （サテライト受講者用）

1. 子どもの歌に親しむ①「ありがとうさよなら」等 音取りの実際①楽譜の読み方の基本
2. 子どもの歌に親しむ②「おもちゃのちゃちゃちゃ」等 音取りの実際②階名唱の仕方
3. トガトンで散奏しよう①「七つの子」～手で竹の切り口を叩くサゲイッポの演奏法で
4. コード伴奏に親しむ①「ベストフレンド」等 音取りのやり方①音取りながら鍵盤を弾く
5. コード伴奏に親しむ②「虹」等 音取りのやり方②歌い手に合わせ鍵盤を弾く
6. トガトンで散奏しよう②「七つの子」～タイトルに打ち付けるトガトン本来の演奏法で
7. ミュージカルを見る「ヘンゼルとグレーテル」①前半
8. ミュージカルを見る「ヘンゼルとグレーテル」②後半
9. 和太鼓でロンド「出てこいリズム」①太鼓類の打ち方
10. 和太鼓でロンド「出てこいリズム」②ロンドのやり方
11. 子どもの歌に親しむ③「少年時代」「さとうきび畑」等
12. 和太鼓でロンド「出てこいリズム」③
13. 歌うとは～伴奏を聴いて歌う①「花」「巣立ちの歌」等
14. 歌うとは～伴奏を聴いて歌う②「となりのトトロ」「夏の思い出」等
15. 発表会～「出てこいリズム～ロンド個人創作リズム発表」「子どもの歌を歌う～個人発表」

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎日の反復練習によって、歌の歌詞もメロディも和太鼓やロンドのリズムも暗記できるほどになることが大切である。家事や勉強の合間を使って15時間程度は自主学修時間を持ち、歌やリズムを自分のものにした

い。

【履修上の注意・要望等】 子どもの歌は、習ったらいつでも口ずさめるようにしよう。

太鼓類は手拍子などでどこでもリズムがとれるようにしよう。

【評価方法・基準】

普通の授業や発表会でのパフォーマンスへの努力の大きさを高く評価する。（80%）

担当スタッフごとの個々の発表会（20%）

【教 材】

「歌はともだち」教育芸術社（コード付小学校用歌集）ーサテライト受講者

【キーワード】 音取り 弾き歌い コード伴奏 童謡 子どもの歌 トガトン 和太鼓 鉦

幼児教育学科 2年

1. 教養・基礎教育科目

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		配当学年		資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	保育士	教員免許		
導科 入目	1年次セミナー	演習	2		○					
教養・ 基礎 科目	日本語リテラシー	講義		2	○		△			
	現代生活論	講義		2	不開講		△			
	心理学概論	講義		2	○		△			
	遊びと人間	講義		2	○		△			
	日本国憲法	講義		2	○		△	◎		
	絵本と子どもの世界	講義		2	○					
キ ャ リ ア 科 目	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講					
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○					
	インターンシップ実習	実習		1	○					
	ボランティア実習	実習		1	○					
情 報 リ テ ラ シ イ 科 目	情報リテラシー	演習		2	○		△	◎		
	情報活用演習	演習		1		○				131
外 国 語 科 目	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	○		◎	◎		
	英語コミュニケーションⅡ	演習		1	○		◎	◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○				93
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○				94
ス ポ ー ツ 健 康 科 目	レクリエーション概論	講義		2	○					
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○					
	スポーツ健康講義	講義		1	○		◎	◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○		◎	◎		
単 科 位 目 互 換	放送大学科目Ⅰ	—		—	○	○			通算して2単位まで卒業要件に含む	99
	放送大学科目Ⅱ	—		—	○	○				99

【卒業要件】 必修科目2単位と選択科目8単位を合わせた、計10単位以上を修得のこと。

【備考1】 保育士・教員免許欄の◎印科目は、必修科目。

【備考2】 保育士欄の△印科目は、3科目6単位以上を修得のこと。

2. 専門教育科目

授 業 科 目	授業 形態	単位数		学年配当		資格		備 考	頁
		必修	選択	1年	2年	保育士	教員免許		
保育原理	講義	2		○		◎			
社会的養護	講義	2		○		◎			
保育計画論	講義		2	○		▲			
介護原論	講義		2		○	▲			132
教育原理	講義	2		○		◎	◎		
教育法規	講義		2		○		◎		133
教育史	講義		2	本年度休講			▲		
社会福祉	講義		2	○		◎			
相談援助	演習		1		○	◎			134
児童家庭福祉	講義	2			○	◎			135
教職論	講義		2		○	◎	◎		136
教育心理学	講義	2		○		▲	◎		
保育の心理学Ⅰ	講義	2		○		◎	◎		
保育の心理学Ⅱ	演習		1		○	◎			137
子どもの保健Ⅰ	講義		4		○	◎			138
子どもの保健Ⅱ	演習		1		○	◎			139
子どもの食と栄養	演習		2		○	◎			140
家庭支援論	講義		2		○	◎			141
保育課程論	講義	2		○		◎	◎		
保育内容総論	演習	2			○	◎	◎		142
保育内容健康	演習	2		○		◎	◎		
保育内容人間関係	演習	2		○		◎	◎		
保育内容環境	演習	2		○		◎	◎		
保育内容言葉	演習	2		○		◎	◎		
保育内容表現Ⅰ	演習	2			○	◎	◎		143
保育内容表現Ⅱ	演習	2			○	◎	◎		144
保育内容研究Ⅰ	演習		2		○	▲	◎		145
保育内容研究Ⅱ	演習		2	○		▲	◎		
乳児保育	演習		2		○	◎			146
障がい児保育	演習		2		○	◎			147
社会的養護内容	演習		1	○		◎			
保育相談支援	演習		1		○	◎			148
保育相談の基礎	講義		2		○	▲	◎		149
保育方法論	講義		2		○		◎		150
国語	講義		2	○			◎	児童文学を含む	
幼児音楽	演習	2		○		◎	◎		
幼児造形	演習	2		○		◎	◎		
幼児体育	演習	2		○		◎	◎	1年後期から2年前期にかけて履修のこと	151
総合表現技術	演習	2		○		◎			
声楽	実技		2	○		▲	◎		
器楽Ⅰ	演習		2	○		▲	◎		
器楽Ⅱ	演習		1		○	▲	◎		152
教育実習指導	実習		5		○		◎		153
教育実習	実習				○				154
保育実習指導Ⅰ	演習		2	○	○	◎			155
保育実習Ⅰ	実習		4	○	○	◎		1年後期(保育所10日)、2年前期(施設10日)	156
保育実習指導Ⅱ	演習		1		○	△			157
保育実習Ⅱ	実習		2		○			2年後期(保育所10日)	158
保育実習指導Ⅲ	演習		1	本年度休講			△		
保育実習Ⅲ	実習		2	本年度休講					
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2		○	◎	◎		159

【卒業要件】必修科目36単位に選択科目16単位を加え、52単位以上取得すること。

【備考1】保育士欄および教員免許欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印の科目は選択科目。

【備考2】保育士資格取得希望者は、保育士欄の◎印の科目に加え、▲印の科目を6単位以上修得すること。

【授業科目】 情報活用演習

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 下池 洋一

(自室番号 225-2)

【対象学生】 幼児教育学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

今日の情報化社会では、さまざまな分野でコンピューターを使いこなす技術は必須となっている。本授業では、今後、社会人として必要となるコンピューターを活用した情報発信能力の向上をめざす。本学の情報教育施設を利用し、文章作成、表計算、および聞き手が理解しやすい発表ができることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

授業は演習スタイルで行う。1年次で学修したパソコンの基本操作を復習するとともに、より実践的な文章、発表資料の作成を Word, Excel, PowerPoint を十分活用し、教材の練習問題を中心に実践する。

【授業の計画】

1. ガイダンス：授業の概略説明、1年次の復習、パソコンの操作、文字入力の実習等
2. Word：文章の入力、移動、コピー、貼り付け
3. Word：ワードアート、図、写真の挿入
4. Word：レポートの作成（1）スタイルの適用、アウトライン
5. Word：レポートの作成（2）ヘッダー、フッター、ページ番号、脚注
6. Word：これまで修得した技術を用いて「案内文」の作成
7. Excel：表の入力、罫線、列幅変更
8. Excel：基本的な関数の使い方（合計、平均、最大、最小）
9. Excel：様々なグラフの作り方、第2軸の使用法
10. PowerPoint：スライドのテーマ、ワードアート、図、写真の挿入
11. PowerPoint：Excel で作成した表、グラフの挿入、編集、
12. PowerPoint：スライドマスター、画面切り替え効果、アニメ効果
13. PowerPoint：オリジナルスライドの作成（1）テーマの設定
14. PowerPoint：オリジナルスライドの作成（2）インターネットで情報収集
15. PowerPoint：オリジナルのスライドの発表

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業で学習した内容は、テキストを見なくてもできるように復習すること。授業で出される課題は空き時間を利用して取り組むこと。おおむね 15 時間の自主学習が必要となる。

【履修上の注意・要望等】

1年次の復習から始めるが、パソコンの基本的な操作方法には慣れておくこと。

【評価方法・基準】

期末試験(30%)、提出課題(40%)、受講態度(20%)、発表内容(10%)

【教 材】

教科書： 実践ドリルで学ぶ Office 活用術 Word・Excel・PowerPoint 2016 対応 (noa 出版)

参考文献： 学生のための Office2010&情報モラル (noa 出版)

【キーワード】

ワード、エクセル、パワーポイント、プレゼンテーション、文書作成

【授業科目】 介護原論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 須江 裕子 (自室番号 226-1)

若林 美佐子 (自室番号 142)

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目的】 本授業は、子どもに限らず障がい者や高齢者の人権を尊重し、ともに学ぶ姿勢や態度を身に付けることを目的とする

【授業の到達目標】

1. 多世代を対象とする介護と介護士の果たす役割について説明できる
2. 介護の提供の場や介護の必要な人の理解、介護を取り巻く社会を理解し、説明できる
3. 介護の提供の方法・種類を学ぶとともに、自立支援、利用者の個別性・尊厳について説明できる

【授業の内容及び方法】

前半は講義形式で介護の本質とその変遷に触れ、介護が必要な人の尊厳保持や自立支援の理念を学ぶ。後半は実技を取り入れ、実際の介護に必要な知識と技術を学ぶ

【授業の計画】

- 1 ガイダンス
- 2 介護の概念と動向
- 3 介護福祉現場の現状
- 4 介護を必要としている人の理解と介護の役割 (生活の概念、日常生活行動の制限と要求、介護過程)
- 5 介護を必要としている人の理解と介護の役割 (障害のある人への理解と介護の役割)
- 6 介護を必要としている人の理解と介護の役割 (高齢者の心身の特徴と介護の役割)
- 7 介護を必要としている人の理解と介護の役割 (認知症の理解と介護の役割)
- 8 介護技法の基本① (住環境の整備と安全管理、福祉用具の活用)
- 9 介護技法の基本② (移動、移乗の介助)
- 10 介護技法の基本③ (衣服の着脱の介助)
- 11 介護技法の基本④ (排泄の介助)
- 12 介護技法の基本⑤ (身体の清潔と感染防止)
- 13 介護技法の基本⑥ (食事の介助)
- 14 介護技術の基本⑦ (リラクゼーション)
- 15 多職種連携の必要性

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間等) について】

- ・ 毎回資料を配布するので、きちんと整理し、授業前後で目を通して理解を深めること
- ・ この授業を履修するにあたって、おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間など、授業で学修した内容を自主学修すること

【履修上の注意・要望等】

- ・ 講義と演習の組み合わせによる授業となり、出席及び演習への積極的参加を求める。

【評価方法・基準】

レポート(80%) 受講態度(20%)の総合評価とする。

【教材】

(参考教材) 新・介護福祉士要請講座9「介護過程」(中央法規)

介護概論 編著 小池妙子 共著 丸山美知子他 (建帛社)

- ・ 授業内容ごとに資料を提示

【キーワード】

自立支援、尊厳、少子高齢化社会、障害、認知症、ターミナルケア

【授業科目】 教育法規

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 松岡 信義

(自室番号：234)

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

子どもの「人間」を伸ばす教育において、考えさせられる問題は多い。それらのうち、とくに法の見地からとりあげ教育の相のもとに考察するのが本講義の主眼である。「教育」と「法」との関わりについての原理的考察が出来るようにする。

【授業の内容及び方法】

教育と法規の対応関係、義務教育の法制度、教育法規の運用の実際、教育法規の体系、教育法規の歴史、子どもの権利保障等について、資料や視聴覚機器等を用いて事例を提示しながら講義する。

【授業の計画】

- (1) 序論 「教育」や「法」のイメージを問い、両者のむすびつきを考える。
- (2) 義務教育の法制度① 義務教育の構図（理念）
- (3) 義務教育の法制度② 義務教育の構図（根拠）
- (4) 義務教育の法制度③ 義務の含意と法手続き
- (5) 義務教育の法制度④ 教育の条理と教育法規
- (6) 教育法規の運用① 出席停止とは何か
- (7) 教育法規の運用② 懲戒と体罰の禁止
- (8) 教育法規の運用③ 信用失墜行為の禁止
- (9) 教育法規の運用④ 少年法・民法・公職選挙法をめぐる問題
- (10) 教育法規の運用⑤ 教育と宗教
- (11) 教育法規の運用⑥ 教育と政治
- (12) 教育法規の仕組み 法規の体系を鳥瞰し、教育法規の仕組みを理解する。
- (13) 教育法制の歴史① 教育勅語から敗戦までの教育
- (14) 教育法制の歴史② 憲法と教育基本法下の教育と教育法規
- (15) 子どもの権利保障 児童憲章と子どもの権利条約

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回、その日の授業で直接には取り上げて使用することがない（なかった）ものを含め、相当量の資料を配付するので、その都度、配布された資料にはすべて目を通しておき、整理しておくこと。なお、このことを含め、予習・復習や参考文献の閲覧など、授業時間外に概ね30時間を目途にした自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

- ・プリント等の印刷資料（A4版）をファイルできるものを用意すること。
- ・毎回の授業に先立ち、前回の授業の講義カードと配布された資料を見直しておくこと。欠席等による配付資料の欠落はコピーをするなどして補充しておくこと。
- ・TVニュースや新聞等により社会での出来事に耳目を傾ける習慣を身につけるよう努めること。

【評価方法・基準】

定期試験（60%）、レポート（30%）、受講への姿勢（10%）で総合評価する。

【教 材】

参考文献： 医療と法律研究協会 著『子どもをめぐるトラブルと法律Q&A』〔新紀元社2005年〕

【キーワード】

教育権 学習権 発達保障 教育への権利 学ぶ権利 発達する権利

【授業科目】 相談援助

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 奥 典 之 (自室番号 333)

【対象学生】 幼児教育学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

保育士を「社会福祉分野の保育ソーシャルワーカー」と位置づけ、ソーシャルワークの専門的価値・知識・技術を理解する事を目標にする。また、これらを用いて、具体的課題について思考できるようになる事を到達目標にする。

【授業の内容及び方法】

保育ソーシャルワークの講義・演習による基本的な学習を行うことにより、①ソーシャルワークの基礎的な理解、②ケースワーク等の基礎的な理解、③ケースワークの原則の基礎的な理解、を内容とする。

【授業の計画】

1. 保育とソーシャルワーク
2. ソーシャルワークの意味と種類—ソーシャルワークとは
3. ソーシャルワークの意味と種類—ケースワークとは
4. ソーシャルワークの意味と種類—グループワークとは
5. ソーシャルワークの意味と種類—コミュニティワークとは
6. ソーシャルワークの意味と種類—その他の間接援助技術とは
7. ソーシャルワークの意味と種類—関連援助技術とは
8. ソーシャルワークの専門性と倫理
9. ケースワークの構成要素・過程
10. ケースワーク関係とは何か
11. ケースワークの原則—関係性・個別化～非審判的態度
12. ケースワークの原則—統制された情緒的関与～秘密保持
13. ケースワークの専門的態度と技法
14. 対人援助技術の実践（援助関係の本質・個別化・受容・非審判的態度）
15. 対人援助技術の実践（統制された情緒的関与・意図的な感情の表出・自己決定・秘密保持）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

その日に行う予定の教科書の頁に目を通しておくと共に、その日のうちに授業内容を見直すこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめるようにして下さい。

【評価方法・基準】

受講態度 40%レポート 10%定期試験 50% 受講態度や学修意欲を重視します。

授業は講義が中心ですが、適宜、課題レポートの作成・提出を求めます。

【教 材】

教科書：相澤 譲治 編著「新版 保育士をめざす人のソーシャルワーク」みらい

参考文献：F. バイステック著 尾崎 新 他訳「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」誠信書房

【キーワード】

多面的理解、保育ソーシャルワーク、自己覚知、専門的価値

【授業の目標及び到達目標】

児童家庭福祉の実践者として、①子ども家庭の生活実態と社会情勢、社会福祉ニーズを知る、②基本的な理念である子どもの権利と、それに基づいた子ども家庭福祉制度や法体系を理解する、③特別に支援が必要な子ども家庭福祉サービスを理解する、ことをめざす。また、①子どもたちの本質や、その置かれた社会状況を正確に捉え、②児童家庭福祉の理念や制度についての基本的で応用が可能な理解ができるようになることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】

児童家庭福祉は社会福祉の出発点であり、基本を形成するという重要性をもつものとして位置付けた講義による基礎的な学習を内容とする。

【授業の計画】

1. 子どもの権利
2. 子ども家庭福祉の展開
3. 子どもと家庭を取り巻く社会情勢
4. 子どもと家庭の福祉ニーズ
5. 子ども家庭福祉に関する法と財政
6. 子どもと家庭のための相談窓口
7. 子ども家庭福祉に関する組織及び団体
8. 子育て支援サービスの現状と課題
9. 要保護の子どものための福祉サービス
10. 障がい児のための福祉サービス
11. 非行少年に対する支援
12. ひとり親家庭に対する支援
13. 母子保健・医療と子育て
14. 子ども家庭支援を担う専門職
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

その日に行う予定の教科書の頁に目を通しておくと共に、その日のうちに授業内容を見直すこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめるようにして下さい。

【評価方法・基準】

受講態度 40% レポート 10% 定期試験 50% 受講態度や学修意欲を重視します。

授業は講義が中心ですが、適宜、課題レポートの作成・提出を求めます。

【教 材】

教科書：星野 政明 編 黎明書房「社会福祉士養成シリーズ②子ども家庭福祉論－児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度－」

参考文献：山縣 文治 編 ミネルヴァ書房「よくわかる子ども家庭福祉」

【キーワード】 子どもの人権、子どもの最善の利益、少子化、子育て支援、アジアの児童労働

【授業科目】 教職論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 今井 博子 (自室番号)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、教職の意義、保育者の資質・能力について理解を深め、教職（保育）の認識、自覚をもつために行う。(到達目標) ○保育（教育）するということや保育者の役割、職務内容等について説明することができる。○求められる保育者の資質・能力を述べることができる。○自分がめざす保育者像を持つ。

【授業の内容及び方法】

教師・保育士に求められる資質・能力や役割、職務内容や日々の教育・保育実践にかかわる基本的な事等を学ぶ。講義を主とするが、途中意見交換やグループでの話し合いも行う。

【授業の計画】

1. 教職の意義① 人育てと教育の役割、求められる教師・保育士の資質
2. 教職の意義② 幼児の成長と教師・保育士の指導性、教師・保育士の責務
3. 公教育と教師 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の本質
4. 幼稚園教育要領と保育① 幼稚園教育の目的と幼稚園教育要領
5. 保育所保育指針と保育② 保育所保育の目的と保育所保育指針
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育③ 認定こども園の目的
7. 保育者の役割① 一日の保育をするにあたって、幼児期にふさわしい生活の展開
8. 保育者の役割② 遊びを通して総合的な指導、一人一人に応じる指導、幼児理解
9. 保育者の役割③ 学級経営、家庭・地域との連携、PTA
10. 保育者の役割④ 心身に障がいのある幼児の理解、幼児期の教育におけるにおける人権教育
11. 保育者の役割⑤ 健康・安全管理、幼稚園における食育
12. 保育者と研修① 保育者に課せられた研修、保育者の資質・能力の形成と専門性
13. 保育者と研修② 幼児が望む教師像（保育者像）
14. 服務について
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業後にノート、資料等を整理して復習しておくこと。また、授業後に生活で実践してみることや長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

話し合い等は積極的に参加すること。授業の進行上、計画通りに進まないことがあるかもしれません。

【評価方法・基準】

期末試験（50%）、受講態度（30%）、レポート（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：書名未定

参考文献：幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）必要に応じて資料配布。

【キーワード】

保育者論 教職論 教育法規 保育者の専門性

【授業科目】 保育の心理学Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 安田 純

(自室番号 671)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本講義においては保育者、教育者として必要な課題発見、課題解決能力を養うことを目的としている。教育・保育現場において直面する様々な課題について、自身でその解決策を検討し、実践できるようにする。

【授業の内容及び方法】

発達心理学の諸テーマについて、自身で資料を収集し、プレゼンテーション用にまとめ、発表を行う。

【授業の計画】

1. 発達心理学とは
2. 子どもの発達を概観する
3. 子どもの認知に関するテーマ発表① (1,2,3 グループ)
4. 子どもの認知に関するテーマ発表② (4,5,6 グループ)
5. 子どものことば
6. 子どもの言葉に関するテーマ発表① (1,2,3 グループ)
7. 子どもの言葉に関するテーマ発表② (4,5,6 グループ)
8. 仲間との関係
9. 子どもの仲間との関係に関するテーマ発表① (1,2,3 グループ)
10. 子どもの仲間との関係に関するテーマ発表② (4,5,6 グループ)
11. 社会性の発達
12. 子どもの社会性に関するテーマ発表① (1,2,3 グループ)
13. 子どもの社会性に関するテーマ発表② (4,5,6 グループ)
14. 青年期に関するテーマ発表
15. 発達心理学再考

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この講義を履修するにあたり、概ね 15 時間程度の自主学習を必要とする。演習に伴う予習を行い、演習で明らかとなった課題を復習しておくこと。

【履修上の注意・要望等】

プレゼンテーション、討論を中心とした授業を行います。積極的な姿勢での参加を望みます。

【評価方法・基準】

受講生によるプレゼンテーションおよび討論 (100%)

【教 材】

教科書：なし

参考文献：無藤 隆・大坪 治彦・岡本 祐子「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房

【キーワード】

発達、認知、言語、愛着、社会性、青年期

【授業の目標及び到達目標】

保育士として、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識及び判断・行動ができるようになること。

【授業内容及び方法】

子どもの安全を確保しながら、健全な発育と発達及び健康を保持増進させるために、必要な知識を習得し、その知識を将来に渡り活用できるようにすること。

【授業の計画】

<前期>

1. 子ども健康と保健の意義①生命維持
2. 子どもの健康と保健の意義②健康概念
3. 子どもの発育の原則
4. 子どもの発育発達の経過と速度
5. 子どもの身体発育⑤新生児期・乳児期
6. 子どもの身体発育⑥幼児期・学童期
7. 子どもの身体発育⑦青年期・思春期
8. 子どもの身体発育⑧身体発育・その評価
9. 子どもの生理機能⑨呼吸器・循環器・免疫
10. 子どもの生理機能⑩消化器・泌尿器・水分代謝
11. 子どもの生理機能⑪体温調節・内分泌
12. 子どもの生理機能⑫睡眠・覚醒・感覚器
13. 子どもの主な病気⑬病気の特徴
14. 保育現場でよくある病気⑭感染症・先天異常
15. まとめ

<後期>

16. 保育現場でよくある病気⑯アレルギー疾患
17. 保育現場でよくある病気⑰免疫疾患
18. 保育現場でよくある病気⑱消化器及び呼吸器疾患
19. 保育現場でよくある病気⑲循環器及び血液疾患
20. 保育現場でよくある病気⑳神経系及び泌尿器疾患
21. 保育現場でよくある病気㉑悪性腫瘍
22. 保育現場でよくある病気㉒皮膚や眼や耳鼻科疾患
23. 保育現場でよくある病気㉓整形外科の疾患
24. 保育現場でよくある病気㉔内分泌及び代謝異常
25. 保育現場でよくある病気㉕人畜共通感染症
26. 保育現場でよくある病気㉖SIDS
27. 子どもの精神保健
28. 子どもの心の健康とその課題
29. 保育環境の衛生管理と安全管理
30. まとめ

【授業外（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習して授業に臨み、必ず復習もすること。学修時間は予習復習に、各々最低 1.5 時間は取ること。

上記を踏まえて、授業全体での自主学修時間の目安は概ね 60 時間。

【履修上の注意・要望等】

遅刻しないこと。授業中、私語をせず、スマホ等を使用しないこと。

【評価の方法】

試験（80%）レポート（10%）授業態度（10%）で総合的に評価する。

【教材】

テキスト：佐藤益子他 編著『子どもの保健1』 ななみ書房 初版 2017

参考文献：わかりやすい小児保健、子どもの保健、その他

【キーワード】 子ども（小児）保育・健康・病気（疾病）・事故・安全・保健

子ども(小児)・健康・疾病(病気)・事故・安全・保健

【授業科目】 子どもの保健Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 菅田 榮子

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

1. 授業の目標

子どもの保健の知識を基に健康状態を観察・評価し、病気や事故、けがの対応や予防が実践できる技術を習得し、適切な保育ができるようになることを目指す。

2. 到達目標

- 1) 子どもの成長、発達に応じて対応できる保育、養護の知識と技術について述べることができる。
- 2) 子どもの健康状態を把握する観察方法や測定技術について述べるができる。
- 3) 子どもの疾病とその予防および適切な対応について説明できる。
- 4) 救急時の対応や事故防止および安全管理について説明できる。

【授業の内容及び方法】

子どもの保健Ⅰに関連して、自ら考え実践しながら保健活動に必要な知識と技術を習得する。

【授業の計画】

1. 保育に必要な保健演習 ①子どもの養護に必要な保健演習の意義 ②子どもの健康と健康観察
2. 子どもの保健と保育者の保健 ①保育者の自己管理とその必要性 ②保育者の手洗い、うがい
3. 子どもの保健と母子保健 ①子どもの保健と母子保健の意義 ②子どもの保健と母子保健の現状
4. 乳幼児の養護 ①乳児の抱き方・おんぶ ②乳幼児の衣服の着脱 ③乳幼児の排泄の世話
5. 乳幼児の身体発育の評価 ①乳幼児の身体計測 ②計測時の注意 ③評価
6. 乳幼児の生理機能の発達 ①生理機能の測定の特徴と工夫（体温・呼吸・脈拍・意識）
7. 乳幼児の精神・運動機能の発達評価 ①乳幼児の精神・運動発達 ②乳幼児の感覚の発達検査③評価
8. 乳幼児の歯の健康 ①歯の健康とは ②乳幼児のむし歯の現状 ③歯のケア
9. 乳幼児の身体の清潔 ①乳幼児の手・足・顔などの清潔 ②乳児の沐浴・座浴 ③乳幼児の入浴
10. 体調不良時の対応 ①発熱 ②咳 ③腹痛 ④下痢 ⑤けいれん ⑥発疹 ⑦薬の使い方 ⑧糞法
11. 体調不良時の対応 ①おう吐 ②乳幼児に多い感染症とその対処
12. 乳幼児の事故と応急手当て ①乳幼児と事故 ②応急手当て
13. 心肺蘇生法 ①心肺蘇生法について ②CPRとAED
14. 保育における環境衛生 ①保育室などの施設・設備の衛生 ②プールの衛生と注意点
15. 集団保育と保健 ①集団保育と保健対策、危機管理 ②年間保健計画と行事

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

・授業前に課題を作成し、授業後に生活で実践してみる。教科書のワークシートを活用すること。自主学修は概ね15時間必要。

【履修上の注意・要望等】

演習時は体操服とシューズ着用、学生が互いにモデルとなる。学生個々の母子手帳を持参してください。

【評価方法・基準】

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、演習態度（20%）で総合評価とする。

【教 材】

テキスト：高内正子 編著 「子どもの保健 演習ガイド」建帛社 必要に応じ資料を配付する。

【キーワード】

子ども 保健 演習 知識 技術

【授業の目標及び到達目標】

小児期は食生活の基礎が形成される時期であり、日々の食生活がとても重要である。本授業では、子供の食と栄養の基本的理論を学び、保育の場で実践できる力を身につけることを目的とする。

小児の発育・発達と栄養の関係を理解し、各ページにおける望ましい食事の内容や技術を学ぶことができる。また、食事を通して子供達との関り方や、指導の方法を学ぶことができる。

【授業の内容及び方法】

項目ごとに講義を行い、その後、調理や試食をして小児食を体験する。実習を通して得た感想・気づき改善点などを話し合い、発達・発育段階に応じた食事や支援のあり方を学ぶ。

【授業の計画】

- (1) 小児期の健康と食生活の意義
- (2) 小児期の特徴・発育発達の基本的理解 (幼児の簡単おやつ)
- (3) 栄養に関する基本的知識
- (4) 栄養素の種類と機能・6つの基礎食品群・日本人の食事摂取基準・調理の基本 (幼児の簡単おやつ)
- (5) 授乳期の食生活と栄養・・・母乳栄養・人工栄養について
- (6) 実習・・・調乳
- (7) 離乳期の食生活と栄養・・・離乳の意義・目的、離乳食各期の進め方
- (8) 実習・・・離乳食各期 (初期・中期・後期・完了期)
- (9) 基礎調理
- (10) 実習・・・和食の基本
- (11) 幼児期の食生活と栄養①・・・幼児期の栄養の特徴と留意点
- (12) 実習・・・1～2歳児の食事
- (13) 幼児期の食生活と栄養②・・・幼児期の栄養と食生活上の問題点
- (14) 実習・・・3～5歳児の食事
- (15) 幼児期の食生活と栄養③・・・幼児期の弁当作りのポイントと留意点
- (16) 実習・・・弁当2種
- (17) 幼児期の食生活と栄養④・・・幼児の行事食と間食
- (18) 実習・・・咀嚼力を高めるおやつ他
- (19) 学童期、思春期の食生活と栄養・・・食生活上の現状と問題点・学校給食について
- (20) 実習・・・鉄分、カルシウム摂取のための食事
- (21) 保育所給食・・・保育所給食の役割、保育士と給食との関わりについて
- (22) 実習・・・保育所の給食
- (23) 幼児期の食物アレルギーについて・・・保育園での対応
- (24) 実習・・・アレルギー対応メニュー
- (25) 食育の基本と内容・・・保育所の食育について
- (26) 保育所における食育の実践例 ・まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業では資料 (プリント) 中心で行うため、授業後にテキストの該当箇所を読み、復習すること。

授業で学修した内容は、休日や長期休業期間などを利用して、生活の中で実践、応用してみる。概ね 20 時間程度の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

実習では、班編成で調理を行う。小児食という目的意識をしっかりとって、協調的に取り組むこと。

【評価方法・基準】

定期試験 (50%) 提出課題 (30%) 受講態度 (20%) により総合的に評価する。

【教 材】

教科書 : 菅原 園他 「子どもの食生活と栄養」 (学建書院)

講義は資料 (プリント) 中心で行うが、実習では毎回レシピを配布する。

参考文献 : 上田玲子他 「子どもの食生活」 (ななみ書房)

【キーワード】 小児栄養 幼児食 小児食 食育

【授業科目】 家庭支援論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 岡本 美幸

(自室番号 332)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

保育士は、子どもに対する保育と同時に、保護者に対し保育に関する支援を行う役割がある。本授業では、子どもの保育だけでなく様々な問題を抱えている家庭が多く、社会全体の課題として家庭を支援するための知識や態度、技能について専門家である保育士を目指す。

保育士として期待される支援、援助の実際についての理解と必要な技術、方法についての習得できるようにする。

【授業の内容及び方法】

子育て中の家族や家族関係・地域社会の変化について理解し、保育士として保育所を利用する家庭と保育所を利用しない地域の子育て家庭への支援の実際や、地域の子育て支援の社会資源や関係機関について学ぶ。

【授業の計画】

1. 1 オリエンテーション (授業の進め方・家庭支援の対象と目的について理解)
2. 家庭の意義と機能
3. 家庭支援の必要性
4. 保育士等が行う家庭支援の原理
5. 現代の家庭における人間関係
6. 地域社会の変容と家庭支援
7. 男女共同参画社会とワークライフバランス
8. 子育て家庭の支援における社会資源
9. 子育て支援の施策
10. 子育て支援サービスの概要
11. 保育所入所児童の家庭への支援
12. 地域の子育て家庭への支援
13. 多様なニーズに応じた子育て支援
14. 子育て支援における関係機関との連携
15. 子育て支援サービスの展望と課題

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

現在の子育て環境の状況について関心を向けること。子育て家庭に関する新聞記事、政策、施策、時事問題について関心を向け知識を蓄えるよう、概ね 30 時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

事例や実習、近隣の子育て家庭との関わりを通して、現在の家庭の在り方や子どもをもつ保護者支援についてなど、目的意識をもって臨むこと。

【評価方法・基準】

定期試験(60%)、課題・レポート(20%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。

【教 材】

参考文献：家庭支援論(北大路書房)、家庭支援論(崩文書林)、保育所保育指針(厚生労働省)他

【キーワード】

家庭支援の実際 保護者支援 地域における子育て支援 保育者の役割

【授業科目】 保育内容総論 【単 位】 2

【学 期】 前期 【担当教員】 豊岡 万智子

【対象学生】 幼児教育学科 2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、幼児期のさまざまな能力が、主体的活動としての遊びの中で、5領域が相互に関連しながら、総合的に発達していくことを理解することを目標とする。

子どもの一人一人の育ちを支えるための保育について学ぶとともに、子どもの発達の特長や発達過程について総合的に捉える視点を養い、具体的な保育実践力を身に付けることができる。

【授業の内容及び方法】

テキストを用いて保育内容への理解を深め、実践事例を通して保育現場の状況を具体的にイメージしながら、子どもの育ちを支える保育者の役割について学ぶ。

遊びの演習を通して、子どもの内面の育ちを捉える視点、環境を通して保育を行う視点等とともに、保育の実践力について学び合う。

【授業の計画】

1. 保育の基本および保育の内容の理解
2. 保育の全体構造と保育内容
3. 保育内容の歴史的変遷
4. 子どもの発達特性と保育内容①
5. 子どもの発達特性と保育内容②
6. 個と集団の発達と保育内容
7. 保育における観察と記録
8. 養護と教育が一体的に展開する保育
9. 環境を通して行う保育
10. 遊びによる総合的な保育
11. 生活や発達の連続性に考慮した保育
12. 家庭・地域・小学校等との連携をふまえた保育
13. 乳児保育および長時間の保育
14. 特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 多文化共生の保育

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

テキストに目を通し、予習・復習を心がけること。演習課題の教材研究とレポート作成、試験対策の自主学修。概ね30時間程度の自主学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

工夫してノートや教材をまとめること。事例検討・演習などにも積極的に参加する。

【評価の方法・基準】

定期試験（50%）演習課題への取り組み・レポート提出（30%） 受講態度（20%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：テキストは別途指示する。

参考文献：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【キーワード】

乳幼児の発達の特性 子ども理解 応答的保育 内面の育ち

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、1年「幼児音楽」の授業を踏まえ、「子どもの音楽表現」を理解するために、子どもの歌や手遊びや身体表現をより多く学び、効果的に保育場面で出来るようにすることである。また、到達目標としては、様々な子どもの音楽表現の問題がわかり、保育や福祉現場で生かして使うことができるである。

【授業の内容及び方法】 子どもの歌や手遊びや身体表現などを一斉・個別授業で学ぶ。

【授業の計画】

1. 子どもの表現①---テキスト①使用 手遊びと子どもの歌①---テキスト②等使用
2. 子どもの表現②（表現するとは） 手遊びと子どもの歌②（伴奏法①）三線伴奏と歌①三線のこと
3. 子どもの表現③（子どもを見る） 手遊びと子どもの歌③（伴奏法②）三線伴奏と歌②唄のこと
4. 子どもの表現④（手などでつくる）手遊びと子どもの歌④（伴奏法③）三線伴奏と歌③シャクリアゲ
5. 子どもの表現⑤（文化と学び） 手遊びと子どもの歌⑤（伴奏法④）
6. 手遊びと子どもの歌⑥グループ単位でクラス発表会
7. 手遊びと子どもの歌⑦グループ単位で学年発表会（1 & 2 組合同）
8. 子どもの表現⑥（オルフについて）手遊びと子どもの歌⑧（伴奏法⑤）三線伴奏と歌④ウミジアゲ
9. 子どもの表現⑦（コダーイについて）手遊びと子どもの歌⑨（伴奏法⑥）三線伴奏と歌⑤マワシサゲ
10. 子どもの表現⑧（リトミックについて）手遊びと子どもの歌⑩（伴奏法⑦）三線伴奏と歌⑥アタリ
11. 保育所保育指針の表現について ケチャをつくろう①（点灯式歌関係①）三線伴奏と歌⑦既成コブシ
12. 幼稚園教育要領の表現について ケチャをつくろう②（点灯式歌関係②）三線伴奏と歌⑧自分のコブシ
13. 子どもの表現⑨（表現と技術） ケチャをつくろう③（点灯式歌関係③）三線伴奏と歌⑨ペアで発表会
14. ケチャをつくろう④ クラス発表会
15. 子どもの表現⑩（レポート課題をまとめる） レポート提出（B5レポート用紙4枚程度）
テーマ「子どもの音楽表現とは何か」

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

「子どもの音楽表現とは何か」というテーマで、テキスト①を参考にレポートをまとめる課題があるので、毎回、事前にテキストを読む予習を行い、事後には5～8行程度に学習内容をまとめる復習を行っておく。保育場面を想定できる実践的な課題ばかりなので、休日や長期休業、幼稚園・保育実習期間などを利用して、少なくとも30時間程度は自主学修して実践力を高める必要がある。

【履修上の注意・要望等】

実習の際に必要な歌や手遊び等のレパートリーを増やす意欲が必要である。

手遊びだけでなく身体全体を使った動きもつくるので、積極的に参加し実践する姿勢が必要である。

【評価方法・基準】 受講態度(30%) 「子どもの音楽表現とは何か」に関するレポート (50%)

「手遊びと歌」及び「ケチャ」のパフォーマンスや三線弾き歌いの取り組み (20%)

【教 材】 テキスト①「子どもの表現を見る、育てる 音楽と造形の視点から」文化書房博文社

テキスト②「なにをして遊ぶ？ 保育園で人気の手遊び・うたあそびⅡ」草土文化 他

テキスト③「保育所保育指針」 テキスト④「幼稚園教育要領」

【キーワード】

子どもの表現 手遊び 子どもの歌 季節の歌 ケチャ 童謡 オルフ コダーイ リトミック 三線

【授業科目】 保育内容表現Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 通 年 【担当教員】 中田 稔 (自室番号 231)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、乳幼児期のあそびや造形表現の指導に必要なスキルを体験的に学ぶことである。保育所や幼稚園での実践を基にした製作活動を通して、発達段階に応じた指導ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

個人やグループでの製作を中心に、模擬保育等も行ないながら、実践的に学ぶ。

【授業の計画】

- 1 ガイダンス／身近な材料による教材の製作①（紙や封筒を使って）
- 2 身近な材料による教材研究の仕方（「時の記念日」を前にした模擬教材研究）
- 3 絵あそびからごっこあそびへの発展（「郵便屋さんごっこ」）
- 4 園内行事をきっかけとした製作や表現①（七夕まつりの製作）
- 5 季節や身の回りの環境をもとにした表現①（夏の飾りをつくる）
- 6 読み聞かせをきっかけとした表現（「コロコロコロ」「100かいだてのいえ」）
- 7 身近な材料による教材の製作②（アルミホイル、トイレットペーパーを使って）
- 8 園内行事をきっかけとした製作や表現②（身につけるものをつくる）
- 9 身近な材料でつくる玩具①（紙でつくるこま）
- 10 身近な材料でつくる玩具②（紙コップを使った人形）
- 11 身近な材料でつくる玩具③（万華鏡、紙手袋人形）
- 12 身近な材料で作る玩具④（スポンジあそび、ひも通し）
- 13 季節や身の回りの環境をもとにした表現②（手作りカードをつくる）
- 14 身近な材料でつくる玩具⑤（楽しく動くしくみと玩具）
- 15 発表会の取り組みとまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

この授業を履修するにあたって、概ね 30 時間程度の自主学修が必要となる。前時に予告する次回の内容について、教科書等で調べたり、製作に必要な材料や用具を整えたりするとともに、授業内容や授業で配布した資料をもとに、自分なりの課題を持ってより深く調べたり、実習を想定して発展的な製作を行ったりする。

【履修上の注意・要望等】

配布プリント及び資料類の保管のために専用のファイルを用意すること。

通年 15 回の授業なので、授業日に留意すること。

【評価方法・基準】

受講態度（60%）、提出物（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：「新造形表現 実技編」（三晃書房）1 年次「幼児造形」より継続使用

参考文献：「幼稚園教育要領」（文部科学省）「保育所保育指針」（厚生労働省）村田夕紀「0・1・2 歳児の造形あそび実践ライブ」（ひかりのくに） その他授業の中で適宜紹介する。

【キーワード】

幼児の造形 乳幼児のあそび 造形表現 造形あそび 手作り玩具

【授業科目】 保育内容研究 I

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 野々上 瑞穂

(自室番号 ***)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標：子どもが遊びながら豊かな体験を共有する中で「言葉」の習得をいかにしていくか、その必要性や大切さを学ぶ。

到達目標：「言葉」を通して人々とのかかわりを深めていくたくさんの事例に触れながら具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目的とする。

【授業の内容及び方法】

事例に触れながら、幼児が心の動きにそって言葉をどのように体験しているかを、グループ討議や発表などを通して考察していく。また、言葉の発達を促す教材の活用を実践から学んでいく。

【授業の計画】

1. 保育内容「言葉」を学ぶ：オリエンテーション
2. 言葉をめぐるワークショップ
3. 言葉の育つ道すじ
4. 言葉の前の言葉
5. 一つの言葉で
6. 人とつながる言葉（1）人のかかわりと言葉
7. 人とつながる言葉（2）「つながりたい」思いの出し方
8. 人とつながる言葉（3）個性あふれる解決法
9. 言葉で考える
10. 言葉で表現する；遊びから生まれる表現
11. 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども
12. 言葉をめぐる相談の実際と対応
13. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」
14. 児童文化財で広がる世界
15. 子どもの言葉に心を寄せて：まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

事前にテキストの授業範囲を読んで予習しておくこと。日々の予習・復習・課題作成に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

幼児期という、重要な時期の教育に携わることの使命を十分に認識し、専門的な知識と理解を深めるよう意欲的に取り組むこと。

【評価方法・基準】

物語作りレポート（60%） 受講態度（20%） 提出物（20%）

【教 材】

演習保育内容 言葉（戸田雅美 編著 建白社）、幼稚園教育要領、保育所保育指針

【キーワード】

領域「言葉」 内言外言 コミュニケーション 児童文化財

【授業科目】 乳児保育

【単 位】 2

【学 期】 通 年

【担当教員】 岡本 美幸

(自室番号 332)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

乳児の生活や遊びの現状・集団保育の中での育ちなど、乳児のよりよき成長発達のために高度な知識と専門技術学ぶ。

乳児への全面受容の重要性と全面発達を保障するための援助のある方を身に付けるようにする。

【授業の内容及び方法】

現在の保育所の役割・乳児保育に求められるもの・乳児にとって望ましい生活とは何かということに目を向け、その上で、発達の特徴や遊びを保育の内容と関連付けて考える。また、保育の環境や保健活動および保育の計画の必要性を学ぶ。

【授業の計画】

(前期)

1. 乳児保育の基本的な考え方
2. 乳児保育の制度と乳児保育の 1 日
3. 生命の誕生と発達の特徴
4. 心と身体の特徴の発達
5. おおむね 6 か月未満の発達の特徴
6. おおむね 6 か月未満の保育の内容
7. おおむね 6 か月～1 歳 3 カ月未満の発達の特徴
8. おおむね 6 か月～1 歳 3 カ月未満の保育の内容
9. おおむね 1 歳 3 カ月～2 歳未満の発達の特徴
10. おおむね 1 歳 3 カ月～2 歳未満の保育の内容
11. おおむね 2 歳の発達の特徴
12. おおむね 2 歳の保育の内容
13. 乳児保育の環境
14. 乳児の健康・安全と個人差への配慮
15. 乳児の健康・病気と個人差への配慮

(後期)

16. 乳児保育の計画の必要性と保育課程
17. 乳児の保育記録と評価の実際
18. 遊びと玩具の実際① 現具作成
19. 遊びと玩具の実際② 研究発表
20. 乳児保育の実際
21. 乳児保育と連携
22. 乳児の虐待の実態と対応
23. 家庭における子育て
24. 保育所における子育て支援
25. 0 歳児の保育計画と事例検討
26. 1 歳児の保育計画と事例検討
27. 2 歳児の保育計画と事例検討
28. 乳児保育と保育士の役割
29. 乳児保育における今後の課題
30. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

学んだことへの振り返りを、保育実習現場での実践等に重ね合わせて試みる。事前・事後のレポート作成や玩具作り等に取り組む。概ね 30 時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

乳児保育の基本は、子どもも保育者も人間として向き合い学びあうことである。授業の取り組みも同様で、全員が主体者であり学びあいの場である。

【評価方法・基準】

定期試験(60%)、課題・レポート(10%)、授業態度(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

全国保育士会編「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」
乳児保育（青踏社）、 その他、必要に応じて資料を配布する。

【キーワード】

乳児保育 乳児の発達 乳児の生活 乳児の健康 親支援 保育の計画

【授業科目】 障がい児保育

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 秋里 勇治

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

障害のある子どもたちの障害の特性と、発達の過程を理解し、適切な個別支援と保育計画の立案および、実践のための保育技術を身につけることを目標とする

【授業の内容及び方法】

障害のとらえ方、障害のある子供の発達特性と支援のあり方について講義と演習を通して自ら考えることで、障害児への理解をより深めていく

1. 障害児保育概論：障害児保育の理解と仕組みの理解
2. 視覚・聴覚・肢体不自由児・言語障害の特徴と保育での支援
3. 知的障害の特徴と保育での支援①
4. 知的障害の保育と実践（演習）
5. 自閉症の特徴と保育での支援①
6. 自閉症の保育と実践（演習）
7. 注意欠如多動性障害の特徴と保育での支援①
8. 注意欠如多動性害の保育と実践（演習）
9. 学習障害の特徴と保育での支援①
10. 学習障害の保育と実践（演習）
11. 統合保育と保育所、幼稚園での支援体制
12. 家族支援
13. 障害児アセスメント
14. 発達支援技法
15. 障害児保育まとめ

【授業外の学習（予習・復習の指示、学修時間等）について】

- ・予習課題について：ミネルヴァ書房：よくわかる障害児保育を読み受講に備える
- ・課題作成や試験対策のために、概ね 30 時間の自主学修が必要

【履修上の注意・要望など】

- ・実際に療育場面の簡単な演習も行うため、動きやすい服装での参加が望ましい

【評価方法・基準】

テスト（70%） 提出課題（30%）により評価

【教 材】

よくわかる障害児保育：ミネルヴァ書房 書き込みプリントを配布
障害に関するパンフレットを配布・スライド資料を配布

【キーワード】

障害時保育、特別支援教育、発達障害

【授業科目】 保育相談支援 【単 位】 1

【学 期】 後 期 【担当教員】 豊岡 万智子

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業は保育の専門性を有する保育者によって、保育と一体化して行われるさまざまな家庭支援の基本姿勢を修得することを目標とする。

「保護者理解」を深めながら保育相談支援知識を修得し、保護者支援のイメージを持ち、実際の場面で活用できる。

【授業の内容及び方法】

保育所等児童福祉施設におけるそれぞれの特性に応じた保育相談支援の方法と技術について、講義やグループワークを通して理解する。

事例や実際に見聞した親子の関係性について検討し、保育相談支援の意義・支援法を学ぶ。

【授業の計画】

1. 保育相談支援の必要性と意義
2. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
3. 子どもの最善の利益と福祉の重視
4. 子どもの成長の喜びの共有
5. 保護者の養育力の向上に資する支援
6. 信頼関係を基本とした受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重
7. 地域資源の活用と関係機関との連携・協力
8. 保育に関する保護者に対する指導
9. 保護者支援の内容
10. 保護者支援の方法と技術
11. 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12. 保育所における保育相談支援
13. 保育所における特別な対応を必要とする家庭への支援
14. 児童福祉施設等における保育相談支援
15. これからの保育相談支援

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回配布された資料を授業前後に目を通し、予習・復習を心がけること。演習課題のレポート作成・振り返りシートによる 15 時間程度の学修を必要とする。

【履修上の注意・要望等】

日頃から、「現代の子育て家庭のおかれている環境」に意識をむけて理解を深め受講する。事例検討・ロールプレイなどにも積極的に参加する。

【評価の方法・基準】

演習課題・振り返りシート（60%） 受講態度（40%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：使用せず、授業に必要なプリントを配布する。

参考文献：柏女霊峰・橋本真紀編著 ミネルヴァ書房「保育相談支援」

【キーワード】

保育の専門性、保護者理解、子どもの最善の利益、保育相談支援技術

【授業科目】 保育相談の基礎

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 和田 百合子

(自室番号 143)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

①授業目標：幼児の心のつまずきと保護者の心情を理解し、カウンセリングの考え方や基礎的態度を理解する。②到達目標：幼児の心のつまずきと保護者の心情を理解しカウンセリングの技術を用いた、教師としての基礎的な態度を理解している。ロールプレイの相談場面でカウンセリング技法を適切に使用できる。

【授業の内容及び方法】

①内容：幼児の心のつまずきと保護者の心情及び基礎的な対応の方法を学ぶ。②方法：講義と体験学習を組み合わせて行う。体験学習では、クラスの多くの学生とペアやグループで応答訓練を実施する。

【授業の計画】

- 1) 入門 ・ ・ 実際の相談、カウンセリングを学ぶ必要性、カウンセリングの特徴
- 2) 問題の捉え方 ・ ・ 障害除去のアプローチとカウンセリングのアプローチ
- 3) 聴き方の実習 ・ ・ さまざまな聞き方の実習：ロールプレイとグループディスカッション
- 4) 基礎理論 ・ ・ 相談場面を支える基礎理論
- 5) 自己理解 ・ ・ PCエゴグラムを利用した心理検査の体験とレポート作成
- 6) 傾聴訓練 1 ・ ・ 話の要素を聴き分ける。同化と調節、準拠枠について学ぶ
- 7) 傾聴訓練 2 ・ ・ 愚痴や不満を積極的に聴く方法を学ぶ
- 8) 応答訓練 1 ・ ・ フィードバック、感情の反射の方法などを学ぶ
- 9) 応答訓練 2 ・ ・ 質問の諸法と明確化の技法を学ぶ
- 10) 実際例 1 ・ ・ 習癖や偏食、心身症的な問題
- 11) 実際例 2 ・ ・ 発達障害が想定される相談
- 12) 実際例 3 ・ ・ 関係作りが困難な保護者との相談
- 13) まとめ 1 ・ ・ 相談場面の脚本作成。グループ学習①
- 14) まとめ 2 ・ ・ 相談場面の脚本作成。グループ学習②
- 15) 発表 ・ ・ グループ学習の発表。ロールプレイとコメント

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

概ね、30 時間程度の自主学習が必要となる。予習：テキストを参照して配布プリントの学習をする。復習：プリントで授業内容の確認を行う。これらに課題作成と日々の相談技術の実践も含む。

【履修上の注意・要望等】

相談技術の習得は体験学習と積み重ねが重要である。積極的な受講態度が必要である。

【評価方法・基準】

期末試験 80%、授業内グループワーク 10%、授業態度 10%の予定。

【教 材】 参考文献：『プロカウンセラーが教える初めての傾聴術』古宮昇 ナツメ社 2013
『カウンセリング論入門』石川正一郎 創風社出版 2014 、幼稚園教育要領

【キーワード】

幼児の心理的な問題の理解、カウンセリング

【授業科目】 保育方法論

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 今井 博子

(自室番号)

【対象学生】 幼児教育学科 2 年

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、乳幼児期の発達にふさわしい教育（保育）についてその独自性を認識し、保育方法の理解及び実践力の基盤を築くことである。〈到達目標〉○幼児期の教育（保育）の目標、基本を説明することができる。○活動において幼児理解に基づいた観察や考察ができるようになる。○保育の様々な場面での保育者の具体的な環境構成、援助が想定できるようになる。

【授業の内容及び方法】

保育の基礎的な事項を学ぶとともに、実際の保育において、幼児理解を基盤とした実態把握、保育の展開、保育者の具体的な援助、環境構成について学ぶ。講義が主となるが、演習等も実施。

【授業の計画】

1. 保育方法の理念
2. 幼児理解とその方法① 幼児理解とは、発達の姿をとらえるとは（実態把握）
3. 幼児理解とその方法② 演習（幼児の実態をとらえる）
4. 幼児理解とその方法③ 幼児理解の方法と保育記録
5. 環境構成と保育の展開① 環境構成の意味、環境とは
6. 環境構成と保育の展開② 遊びの指導とは、遊びを通しての総合的指導
7. 遊び・生活の指導① 具体的な指導場面でのかかわり（保育の様々な場面での保育者の役割）
8. 遊び・生活の指導② 具体的な指導場面でのかかわり（一人一人に応じた指導のあり方）
9. 遊び・生活の指導③ 状況に応じてかかわる力
10. 遊び・生活の指導④ 演習（保育における遊びの援助）
11. 遊び・生活の指導⑤ 演習（基本的な生活習慣の自立に向けての援助）
12. 発達に応じた指導① 乳児期の発達の特徴（0，1，2歳児の発達）
13. 発達に応じた指導② 幼児期の発達の特徴（3，4，5歳児の発達）
14. 保育の展開を考える時
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業前に、教科書や資料などの該当箇所を読んでもらうことと復習をすること。日々の予習・復習に加えて長期休業期間などを利用して学修した内容を自主学修すること。概ね 30 時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

自分の考えを積極的に発表すること。授業の進行上、計画通りに進まないことがあるかもしれません。

【評価方法・基準】

期末試験（60%）、受講態度（30%）、レポート（10%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書： 保育方法（光生館）

参考文献： 幼稚園教育要領解説（文部科学省） 保育所保育指針解説書（厚生労働省）

【キーワード】 保育の基本 カウンセリングマインド 幼児理解 保育者の役割

【到達目標及び到達目標】

この授業では、乳幼児期の運動保育理論に基づいた実践ができるようになることを目標とする。乳幼児期の発達と運動との関わりについて理解する。さらに様々な遊びの体験をとおして、運動あそびを指導する上で子どもの『何が育つのか』という視点から目標設定し、保育計画を立案できることを目指す。

【授業の内容及び方法】

理論の講義・実技・乳幼児への指導実践の3方法を通して、子どもの運動あそびの指導について理論と実践を学ぶ。

【授業の計画】

- (1) 子どもの心身の健康な発達と運動……子どもの生活の現状やからだの異変を理解し、運動あそびの必要性を知る。
- (2) 心の安定と運動あそび……乳幼児の人格形成と運動あそびの関連について学ぶ
- (3) 乳幼児期の発達と運動……ビデオ教材から発達変化について学ぶ。
- (4) 幼児体育とは……幼児体育のねらいと指導内容
- (5) ～ (6) 未就園児の運動あそびの実践Ⅰ……乳幼児の発達を知る。
- (7) 体を使って遊ぶ①……コーディネーション運動を重視し、子どもの体づくりを学ぶ
- (8) 体を使って遊ぶ②……リズム学習と集団遊びを音楽とのリズム同期から実践する。
- (9) 表現遊び……動物模倣を中心に、創造的な体の動きと動きを生み出す言葉かけについて学ぶ。
- (10) リトミック遊び……即時反応を中心に、音の高低、リズム変化の表現を学ぶ。
- (11) リズムダンスの創作
- (12) 身近な素材と運動あそび①……新聞紙を使い、コーディネーション運動の発達をねらいとする。
- (13) 身近な素材と運動あそび②……ナイロン袋等を使い、
- (14) 作って遊ぼう①……廃品を利用して、投げる、捕る、振る等の運動遊びの道具を作って遊ぶ。
- (15) 作って遊ぼう②……廃品を利用して、跳ぶ、渡る等の運動遊びの用具を作って遊ぶ。
- (16) 大型遊具のあそび②……マットと跳び箱を組み合わせ、よじ登る、転がる、跳ぶ動きの
- (17) 大型遊具のあそび③……小学校との連携を目指した跳び箱運動の指導について学ぶ。
- (18) 大型遊具のあそび④……小学校との連携を目指した鉄棒運動の指導について学ぶ。
- (19) ～ (20) 未就園児の親子運動あそびの実践Ⅱ
- (21) サーキット遊びの計画と実践①……グループ別にサーキット遊びを考案する。
- (22) サーキット遊びの計画と実践②……考案したサーキット遊びを発表。
- (23) 小型遊具のあそび①……縄やゴムあそびを通して、跳ぶ遊びだけでなく、遊びの創造を目的とする。
- (24) 小型遊具のあそび②……ボールや風船あそびを通して、投一捕の遊びだけでなく、
- (25) 運動有能感を育てる実践について学ぶ。
- (26) 創造性を育てる実践について学ぶ。

【授業外の学習(予習・復習の指示、学習時間など)について】

実技の授業は、毎時間ごとに(約2時間 合計52時間)、授業中に行ったあそびの目的、指導方法、指導上の留意事項について詳細に記載し、あそびの発展のさせ方、理論的裏付けなどを調べ、授業ノートを作成し提出する。

【履修上の注意・要望等】 保育のプロになるという意識を持って授業に参加すること。実技は、体操服を着用し、体育館シューズ及び運動靴を用意すること。

【評価方法・基準】 授業ノートを採点する。最後に講義内容を含めたレポートを提出する。

受講態度 30%、授業ノートおよびレポート 70%で評価する。

【教 材】 前橋 明他：コンパス 幼児の体育，建帛社，2017.

岩崎 洋子「乳幼児の運動1・2」チャイルド本社

【キーワード】 乳幼児の運動発達・運動あそび・運動有能感

【授業の目標及び到達目標】

本授業の目的は、コードによる弾き歌いや様々なピアノ音楽に親しみ演奏技術を向上させることである。到達目標は、実習を含む保育現場や採用試験で使う歌などをコードも使って弾き歌いできることである。

【授業の内容及び方法】

子どもの歌などを個人レッスン中心に学ぶ。必要によりグループ・レッスンも行われる。

【授業の計画】

・器楽Ⅰの授業を基礎にした受講者の実力に応じた個別指導等が行われる。

- | | |
|--|------------|
| 1. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い①「あめふり」など | コード伴奏法の復習① |
| 2. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い②「あめふりくまのこ」など | |
| 3. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い③「とけいのうた」など | コード伴奏法の復習② |
| 4. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い④「カエルのうた」など | |
| 5. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い⑤「虫歯建設株式会社」など | コード伴奏法の復習③ |
| 6. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い⑥「はをみがきましょう」など | |
| 7. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い⑦「大きな古時計」など | 右ペダルの使い方① |
| 8. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い⑧「虹」など | |
| 9. 幼稚園実習で使われる歌の弾き歌い⑨ 小発表会など | |
| 10. 保育園実習で使われる歌の弾き歌い⑩ 「もみじ」など | 右ペダルの使い方② |
| 11. 保育園実習で使われる歌の弾き歌い⑪ 「まっかな秋」など | 発表会の心構え |
| 12. 人前で演奏しよう 担当別発表会 ～弾き歌い又は独奏(自由曲) | |
| 13. 保育園実習で使われる歌の弾き歌い⑫ 「山の音楽家」など | |
| 14. 保育園実習で使われる歌の弾き歌い⑬ 「クラリネットをこわしちゃった」など | |
| 15. 保育園実習で使われる歌の弾き歌い⑭ 「むすんでひらいて」など | |
- ～必要により採用試験の指定曲等の指導も挿入される。

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

毎日の反復練習による復習と予習を必要とする。基本コード演奏の復習を基本にして、コードを使った伴奏法と十分な音量による弾き歌いを目指すべく、最低でも15時間超の自主学修が必要である。さらに休日や長期休業、幼稚園・保育実習期間などを利用して自主学修し、更なる実践力アップが期待される。

【履修上の注意・要望等】

幼稚園や保育園の実習や採用試験で使われる曲をあらかじめ把握しておく必要がある。

10月中に6月の幼稚園実習による休講の補講が保育実習Ⅱのために行われる。3～4回程度。

10月の補講の日程は各レッスン担当スタッフが学生と相談の上決める。

そのため成績メッチは10月末日となり、後期末に後期の他の科目とともに示される。

【評価方法・基準】

受講態度と普段のレッスンへの意欲や努力の大きさを高く評価する。(80%)

担当スタッフ個々の発表会(20%)

【教 材】

「子どもと遊ぶピアノ曲」 高橋 他編 音楽之友社

「やさしく学べるピアノ曲100」 関西地区大学音楽教育学会編著 音楽之友社

「子どもの歌名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 他

【キーワード】

ピアノ 弾き歌い コード コード伴奏 スケール 幼稚園や保育所で歌う歌 童謡 子どもの歌

【授業科目】 教育実習指導

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 居原田 洋子

(自室番号241)

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業目標及び到達目標】

本授業の事前指導では、実習全体の見通しができるようになること実習終了後の事後指導では、実習で得た問題意識や未熟であった技術や知識について、今後積極的に習得する努力をしようとする態度を養うことをめざす。

実習の基本的理解および実習の実践的理解を中心に、実習の基本的な考え方や実際の展開が理解でき、実習の全体像が描け学習した理論や技術をそれぞれの実習先で実践できるようになる。

【授業の内容及び方法】

「子ども理解」、「指導技術」「人間関係学」、「社会人としてのあり方」等の学びを実習の現場でどのように生かしていくべきかを学ぶ。

【授業の計画】

- 1 幼稚園教育実習の意義・目的・内容・心構え・・・『教育実習の手引き』をもとに説明する。
- 2 実習の実際・・・見学実習、観察・参加実習・指導実習とは
- 3 学外講師による講演・・・附属幼稚園の現職教員による指導
- 4 実習園での事前オリエンテーション・附属幼稚園参加実習の説明
保育実習の計画、巡回地区について、訪問の際の諸注意について
参加実習の服装・準備物の再確認、参加実習指導案、日誌の配布と説明
- 5 実習日誌の形式と書き方・・・『教育実習日誌』をもとに説明する。
- 6 指導案の形式と書き方・・・月・週指導計画の説明、指導案作成上のポイント
- 7 学内オリエンテーション・・・実習課題の持ち方、留意点について
- 8 実習についての最終確認・・・実習園の理解について、職務内容について
- 9 教育の方法および指導技術①・・・授業実践に関しての心構え
- 10 教育の方法および指導技術②・・・言葉かけや援助の仕方について
- 11 教材研究・指導案①・・・教材の作り方について生かし方について
- 12 教材研究・指導案②・・・各実習園に基づいた教材観について
- 13 事後指導①・・・実習報告書、礼状の書き方
- 14 事後指導②・・・反省と評価
- 15 事後指導③・・・まとめと今後の展望

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

・予習・復習、日々の課題作成に加えて、休日を利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

・事務手続き等も合わせてこの時間に行う。

【評価方法・基準】

授業態度（20％）・提出物（30％）レポート（50％）により総合評価する。

【教 材】

- ・教科書：『教育実習の手引き』
文部省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）
文部省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・参考文献：適宜プリントを配布する。

【キーワード】

意義と目的、心得、指導案、日誌、反省と評価

【授業科目】 教育実習

【単 位】 4

【学 期】 前 期

【担当教員】 居原田 洋子

(自室番号241)

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

子どもの発達を理解、保育技術の習得、保育者としてふさわしい態度を養うことをめざす。

教育実習では、実践・体験を通して、子ども、保育者、保育の現場と社会文化の関係などについて知り、子ども観、保育者観を形成することができるようにする。

【授業の内容及び方法】

事前に観察実習（1年時後期2日間）、参加実習（2年時前期2日間）は、美作大学附属幼稚園にて実施する。本実習は、実習協力園において実施する。4週間、観察・参加、部分・全日実習（研究保育）の実習形態を実践する。実習園の指導教諭の指導・助言を受ける。

〈教育実習の内容〉

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 幼稚園の役割と機能 | 5 保育実践力の育成 |
| (1) 一日の保育の流れ | (1) 子どもの発達に応じた適切なかかわり |
| (2) 幼稚園教育要領の理解と保育の展開 | (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 |
| 2 子ども理解 | 6 計画と観察、記録、省察、自己評価 |
| (1) 子どもの観察とその記録により理解 | (1) 全体計画に基づく具体的な計画と実践及び省察 |
| (2) 子どもの発達過程の理解 | (2) 保育観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 |
| (3) 子どもへの援助やかかわり | 7 幼稚園教諭の専門性と職業倫理 |
| 3 保育内容・保育環境 | 8 実習に際しての留意事項 |
| (1) 保育の計画に基づく保育内容 | (1) プライバシーの保護と守秘義務 |
| (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 | 9 事後指導における実習の総括と課題の明確化 |
| (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 | (1) 実習の総括と自己評価 |
| (4) 子どもの健康と安全 | (2) 新たな課題や学習目標の明確化 |
| 4 幼稚園教育実習による総合的な学び | |
| (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 | |
| (2) 子どもの保育と保護者支援 | |
| (3) 地域と歩む保育実践 | |

【授業の計画】

事前に実習園でオリエンテーションを行う。教育実習は4週間、観察、実践、研究協議、事後指導などを行う。

【授業外の学修（予習、復習の指示、学修時間など）について】

- ・実習園の指導教諭より指示がある。日々の幼児の様子や自分の幼児への関わりを振り返り、実習日誌に記入する。
- ・指導計画を作成し実践のための教材研究をし反省と評価をする。
指導計画作成、教材研究、日誌記入など、概ね60時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

・実習園の教育課程・実習協力園の指導方針を尊重しながら、社会人としてのマナーも含めて行動する必要がある。

【評価方法、基準】

指導の準備(10%)、指導能力・技術(10%)、実習記録の記載(20%)、実習態度(10%)、実習園の評価(50%)を総合的に評価する。

【教 材】

『幼稚園教育実習の手引き』『幼稚園教育実習日誌』『指導案』

【キーワード】

観察・参加実習、部分指導、全日指導、研究協議、事後指導

【授業科目】 保育実習指導Ⅰ（施設） 【単 位】 2

【学 期】 前 期 【担当教員】 奥 典 之 （自室番号 333 ）

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

保育実習Ⅰは、子どもへの理解を深めると共に、居住型福祉施設などの機能とそこでの保育士の職務及び職業倫理について学ぶことを目標にしたものであり、したがって本実習指導は、これらの目標を達成出来るように、実習のより良い準備を行うことを目標とする。そして、これらを通して①社会福祉施設における現場実習の意義を理解し、自ら主体的に学習する場であることを認識する、②これまで習得した知識・技術を実践の場で活用するために、総合的に自己評価・自己覚知を行い現在の到達点と今後の課題を明らかにする、ことを到達目標にする。

【授業の内容及び方法】

講義及び演習により、実習に必要な理論や知識、技術を習得することを内容とする。それらをより有効にするために、授業の後半に現場から講師を招き、実習を行う上でのポイントを話してもらう予定である。

【授業の計画】

1. 社会福祉施設実習の意義
2. 社会福祉施設の理解—施設現場の現状
3. 社会福祉施設の理解—利用児・者の生活
4. 実習先希望調査・個人票等作成
5. 配属実習施設の理解—児童養護施設・乳児院
6. 配属実習施設の理解—障がい者支援施設・障害児施設
7. 利用児・者の理解
8. 実習計画・実習課題の設定
9. 記録（実習日誌等）の書き方
10. 実習生の心得
11. 配属先実習施設でのオリエンテーション
12. 評価表等作成
13. 学内オリエンテーション
14. 事後指導
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

その日に行う予定の教科書の頁に目を通しておくと共に、その日のうちに授業内容を見直すこと。日々の予習・復習、日誌や課題作成に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめるようにして下さい。

【評価方法・基準】

受講態度 40% レポート 10% 実習日誌の作成 50% 受講態度や学修意欲を重視します。授業は講義と共に、日誌や課題レポートの作成を行い、随時その提出を求めます。

【教 材】

教科書：浦田 雅夫 編著「考え、実践する施設実習」保育出版社（各自、購入のこと）
：岡山県保育士養成協議会「施設実習の手引」「施設実習日誌（授業時に配布）」

【キーワード】 社会福祉施設、記録、生活マナー、バーバル・ノンバーバル コミュニケーション

【授業科目】 保育実習Ⅰ（施設）

【単 位】 4

【学 期】 前期

【担当教員】 奥 典 之 （自室番号 333 ）

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

保育実習Ⅰ（施設）は、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、利用児・者への理解を深めるとともに施設の機能とそこでの保育士の職務について体験を通じて学ぶことを目標とする。これらを通して、①利用児・者の理解、②養護活動と養護技術の理解、③施設の理解、④自己の理解、ができるようになることを到達目標にする。

【授業の内容及び方法】

「参加実習」を通して、経験的知識や実践への応用力を養うことをその内容とする。

保育実習Ⅰ（施設）の内容(厚生労働省シラバスによる)

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設の生活と一日の流れ
 - (2) 施設の役割と機能
2. 利用児・者理解
 - (1) 利用児・者の観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり
3. 養護内容・生活環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 利用児・者の心身の状態に応じた対応
 - (3) 利用児・者の活動と生活の環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携

【授業の計画】

10日間、岡山県内の居住型児童福祉施設等に、宿泊して実習する。

子どもへの理解を深めるとともに、居住型福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。

【授業方法】

これまで授業や演習で学んできた支援技術が、どのように実際に展開しているのかについて職員の実践の様子を観察しながら学び、また実習生自身も職員に適宜指導を仰ぎながら実践する。より適切な技術習得を目指し、自己評価、反省を行う。

日々の観察・実践を毎日「実習日誌」に記入したうえで施設に提出し、指導・助言を受ける。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習指導や配属施設の実習指導者からの指導内容を踏まえて、十分な準備をしてから実習に臨むこと。また実習期間中は十分な準備をして実習に臨むと共に、その日のうちに学んだことの整理をすること。上記の準備や整理に必要な自主学修時間は概ね60時間程度必要である。

【履修上の注意・要望等】

実習に臨む準備が十分でない場合は、実習配属を取り消すことがある。

【評価方法・基準】

配属施設からの評価 50%実習態度 40%レポート 10% 受講態度や学修意欲を重視します。

【教 材】

教科書：浦田 雅夫 編著「考え、実践する施設実習」保育出版社
：岡山県保育士養成協議会「施設実習の手引」「施設実習日誌」

【キーワード】

利用児・者の人権、社会福祉施設、記録、生活マナー、バーバル・ノンバーバル コミュニケーション

【授業科目】 保育実習指導Ⅱ（保育所） 【単 位】 1

【学 期】 通 年 【担当教員】 岡本 美幸 （自室番号 332 ）

【対象学生】 幼児教育学科2年（保育実習Ⅱ取得希望者）

【授業の目標及び到達目標】

本授業は、保育実習Ⅰ（保育所）を踏まえ、実習の心構えや望ましい実習態度を身に付け、保育所保育の基本、園児の実情に応じた保育士の援助や環境構成の在り方、立案・実践の方法などを総合的に理解する。実習事後は、学習や実習を振り返ると同時に2年間の実習成果と自己課題を認識することができるようにする。

【授業の内容及び方法】

本授業では、保育実習Ⅰの実践の振り返りをいかし、本実習Ⅱに対する課題を明確にし、保育実技や教材研究、保護者対応、保育者の資質等の知識や技術の向上に向け、具体的に学ぶ。

【授業の計画】

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 保育実習の意義・目的・内容・心構え | 「保育所実習の手引き」に基づいた確認 |
| 2. 実習形態と実習課題 | 実習形態の内容と理解 自己課題の明確化 |
| 3. 保育所の実際 | 連携と職業倫理、保護者の理解と保護者対応、保護者支援 |
| 4. 保育日誌の意義と内容の理解 | 「保育実習日誌」の書き方の確認 |
| 5. 指導計画の作成① | 保育課程と指導計画の必要性と理解 |
| 6. 指導計画の作成② | グループでの指導案作成 |
| 7. 指導計画の作成③ | 教材準備 実践シミュレーション |
| 8. 保育の実際① | 模擬保育計画 |
| 9. 保育の実際② | 模擬保育の実施 |
| 10. 保育の実際③ | 模擬保育の振り返り、反省、課題の明確化・反映 |
| 11. 保育の方法 | 保育実技の研究・発表 |
| 12. 実習の心構えと準備 | 実習の心構え・マナー、保育士の倫理綱領、基本事項の確認 |
| 13. 事後指導① 実習のふりかえり | 反省と自己評価 |
| 14. 事後指導② 実習の整理・活用 | グループでの実習体験を報告・交流・共有化 |
| 15. まとめ | 自己課題の検討と今度の展望 |

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習の目的をもち、実習園オリエンテーションやボランティア体験など事前訪問から、実習への意識を高め、指導案作成に必要な教材研究を行ったりし、実習準備を万全にすること。概ね30時間の自主学修が必要である。

【履修上の注意・要望等】

実習の必要書類作成など事務手続きも行います。授業へは全出席すること。出席状況や提出物、学習態度、実習準備が十分でない場合は、実習ができなくなることがある。

【評価方法・基準】

授業態度(40%)、提出状況(40%)、指導案及び日誌の作成への取り組み状況(20%)により、総合的に評価する。

【教 材】

全国保育士会編「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」
岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」「保育所実習日誌」、授業中に配布するプリント

【キーワード】

保育実習 保育所 実習日誌 指導計画 指導案 自己評価 保護者支援

【授業科目】 保育実習Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 岡本 美幸

(自室番号 332)

【対象学生】 幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

本実習は、学内で学んだ基礎理論や専門的理論と技術を保育実習Ⅰの経験をもとに、保育所における実習を通して、保育士に必要とされる実践的な指導力を身に付けるとともに、保育士相互の連携や子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶことを目標とする。

【授業の内容及び方法】

実際に保育者に準じて実践的に学び、実習日誌を記録し指導及び助言を仰いだり、実際に指導実習を行ったりすることを通して、保育所における様々な保育内容や指導技術の実際を具体的に学ぶ。

<保育所実習Ⅱの内容>

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 | 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 |
| (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 | (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 |
| (2) 保育所の社会的役割と責任 | (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 |
| 2. 観察に基づく保育理解 | 5. 保育士の業務と職業倫理 |
| (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 | (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 |
| (2) 保育士等の動きや実践の観察 | (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 |
| (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 | 6. 自己の課題の明確化 |
| 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 | |
| (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 | |
| (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 | |
| (3) 地域社会との連携 | |

【授業の計画】

実習園の指導のもとで、10日間(90時間以上)の実習を行う。保育実習Ⅰでの経験を踏まえて、さらに学びが深まるように、観察・参加実習で子どもへの理解を深め、指導実習(部分実習や半日実習、全日実習)により生活の様々な場面を経験し、保育力の向上を図るよう計画される。(実習園により日程が異なる)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

オリエンテーションやボランティア体験などの事前訪問により、本実習への意欲を高め、様々な保育実技を生かすことができるよう、教材研究や保育準備など十分に準備して臨むこと。帰宅後は、実習内容を振り返り日誌の記入し、反省や考察を行うこと。上記の準備や振り返りなどに概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

社会人としてのマナーと自覚をもって、現場保育士から学ぶ姿勢で臨み、積極性と意欲を持って多くを吸収するように努める。また、子どもの良いモデルとなれるような言葉遣い、態度、ふるまいに注意すること。

【評価方法・基準】

実習園の評価(40%)、実習態度・連絡(40%)、実習日誌や指導案(20%)

【教 材】

岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、「保育所実習日誌」、厚生労働省著「保育所保育指針」

【キーワード】

保育実習 保育所 保育園 実習日誌 指導案 職業倫理 保護者支援 自己課題の明確化

【授業科目】保育・教職実践演習（幼稚園） 【単 位】2

【学 期】後期

【担当教員】居原田洋子 奥 典之 岡本美幸
木暮朋佳 中田 稔 松坂仁美
横川知之

【対象学生】幼児教育学科2年

【授業の目標及び到達目標】

幼稚園教職課程の全履修履歴（教育実習を含む）や様々な学外活動（幼稚園や保育所・施設などのボランティア活動や保育実習など）を通じて、保育者として現場において直面するであろう問題や課題をより深く認識し、課題解決のために必要な資質・能力の向上と実践力の育成を目指す。

【授業の内容及び方法】

保育者としての実践力を高めるために、オムニバス形式で授業を行う。

講義、ロールプレイやグループ討議を通して保育職に対する意識を高める。

幼児教育現場の観察を通して、現職保育者の実践から学ぶ。

少人数(10～11人)のグループでの教材研究と模擬授業などを通して、実践力の育成を行う

【授業の計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) 保育者が専門職であるための条件と保育の専門性について考える。
- 3) 幼稚園現場の観察をとおして、現職保育者の指導法を学ぶ①……保育の研修の方法。
- 4) 幼稚園現場の観察をとおして、現職保育者の指導法を学ぶ②……教諭の授業を観察する。
- 5) 幼稚園現場の観察をとおして、現職保育者の指導法を学ぶ③……授業観察後のグループ討議
- 6) 保育者としての意義や役割・職務内容と責任などについて考える ①……ロールプレイング
- 7) 保育者としての意義や役割・職務内容と責任などについて考える ②……グループ討議
- 8) 保育者としての指導力について自己を振り返り、課題や問題点を探る。
- 9) 教材研究について学ぶ ①……教材研究とは
- 10) 教材研究について学ぶ ②……子どもの育ちに立脚して、考える。
- 11) 教材研究について学ぶ ③……具体的課題の教材研究
- 12) 教材研究について学ぶ ④……指導計画の立案
- 13) 模擬授業
- 14) 模擬授業の振り返りと自己課題の検討
- 15) この演習を通して、保育者として必要な資質や能力について確認し、自己課題についてレポートを作成する。
*学外の教育施設で行うこともある。

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

必要資料をあらかじめ読んで 授業に臨むため、予習1時間(計15時間)。さらに復習1時間(計15時間)が必要である

上記の予習・復習を含め、概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

保育者になるという意欲を持つこと。自らの課題と目標をもって授業に取り組んでほしい。

授業修了後は、所定のレポートを書き、期限までに提出すること。

【評価方法・基準】

受講態度(30%)、課題への取り組み姿勢、発表及びレポート等(70%)、総合評価する。

【教 材】

小櫃智子ほか『これまでの学びと保育者への歩み』わかば社、2014

【キーワード】

教職、実践力、模擬授業

専攻科 介護福祉専攻

領域	授業科目	授業形態	単位数		備考	頁
			必修	選択		
人 社 間 会 と	社会の理解	講義	1			165
介 護	介護の基本Ⅰ	講義	2			166
	介護の基本Ⅱ	講義	2			167
	介護の基本Ⅲ	講義	2			168
	介護の基本Ⅳ	講義	2			169
	福祉レクリエーション	演習	2			170
	リハビリテーション論	講義	2			171
	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	1			172
	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	1			173・174
	生活支援技術A	演習	3			175・176
	生活支援技術B	演習	4			177
	生活支援技術C	演習	3			178・179
	介護過程Ⅰ	演習	1			180
	介護過程Ⅱ	演習	2			181
	介護事例研究Ⅰ	演習	1			182
	介護事例研究Ⅱ	演習	2			183
	介護事例研究Ⅲ	演習	1			184
	介護総合演習Ⅰ	演習	1			185
	介護総合演習Ⅱ	演習	1			186
	介護実習Ⅰ	実習	1			187
介護実習Ⅱ	実習	4			188	
こ の こ ろ と か ら だ	発達と老化の理解	講義	2			189
	認知症の理解Ⅰ	講義	2			190
	認知症の理解Ⅱ	講義	2			191
	障害の理解	講義	2			192
	こころとからだのしくみⅠ	講義	2			193
	こころとからだのしくみⅡ	講義	2			194
医 ケ 療 的	医療的ケア	講義 演習	6			195・196

【修了要件】必修科目57単位を取得すること。

【授業科目】 社会の理解

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 中村 絹江

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

[授業の目標] 本授業の目的は、介護福祉士として職務を遂行する上で、主として高齢者を取り巻く社会・家族機能の変容と高齢者介護・権利擁護の仕組みを理解することである。

[授業の到達目標] 社会保障制度、介護保険制度等の基礎的な知識を習得し、介護を必要としている人々とその家族へ適切な情報を提供し、利用者の人権を尊重した専門職としての介護が実践できるようになる。

【授業の内容及び方法】

主として高齢者を取り巻く家族・地域社会との関係が把握できるよう、家族機能や地域社会の変容を学ぶ。

家族機能・地域社会の変容に伴う介護・権利擁護のための関係法規の基礎知識を学ぶ。

講義を主とし、教科書と配布資料を活用して授業を行う。

【授業の計画】

- 1 家族の役割と形態・機能の変容
- 2 地域社会の機能の変化と高齢者の生活との関係性
- 3 社会保障制度の目的と体系
- 4 公的年金制度の仕組み
- 5 介護保険制度の背景と目的
- 6 介護保険制度の仕組み (1) 社会保険方式としての制度
- 7 介護保険制度の仕組み (2) サービス利用の流れ
- 8 高齢者等の権利擁護に関する法規 (日常生活自立支援事業、成年後見制度)

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

身近な高齢者の生活状況をとおして、年金、介護など生活保障・生活支援を考えてみる。

日々の予習・復習、休日などの自主学修により授業内容の定着を図ること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

配布プリント及び資料類の保管のために専用のファイルを用意すること。

毎回の授業には、教科書と配布プリント全てを持参すること。

【評価方法・基準】

受講態度 (20%)・小テストと期末試験 (80%) の成績で総合的に評価する。

【教 材】

教科書：新・介護福祉士養成講座 2 『社会と制度の理解』 (中央法規)

【キーワード】

家族機能、介護の社会化、一人暮らし高齢者、公的年金、介護保険、地域包括支援センター、日常生活自立支援事業、成年後見制度

【授業科目】 介護の基本 I

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 須江裕子

(自室番号 226-1)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

[授業の目標] 本授業の目的は、介護福祉士を取り巻く状況や背景を理解することである。

[授業の到達目標] 介護福祉士の現状を知り、尊厳の保持、個別性、自立支援の考え方を論じることができる。

【授業の内容及び方法】

介護福祉士の役割と機能を理解する。介護を必要とする人の個別性を学ぶ。

介護福祉士を取り巻く状況や背景を理解するとともに、尊厳の保持や個別性について学ぶ。

【授業の計画】

- 1 介護福祉士を取り巻く状況① (介護の歴史)
- 2 介護福祉士を取り巻く状況② (介護問題の背景)
- 3 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み① (社会福祉士及び介護福祉士法)
- 4 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み② (介護福祉士の社会的役割)
- 5 尊厳を支える介護
- 6 高齢者との交流 (学外授業)
- 7 ノーマライゼーション
- 8 利用者主体の考え方
- 9 自立に向けた介護
- 10 自立支援の具体的展開
- 11 個別ケア
- 12 個別ケアの具体的展開
- 13 ICFの考え方
- 14 ICFの視点にもとづく利用者のアセスメント
- 15 まとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

介護福祉士として生活支援をするために、社会全体に視野を広げる。毎日のニュース・新聞など関心を持って見ておく。日々の予習・復習に加えて、休日などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

概ね 30 時間の自主学修が必要

【履修上の注意・要望等】

学ぶ姿勢を常に持つこと。

【評価方法・基準】

定期試験 80%、学習態度 20%にて総合評価を行う。

【教 材】

新・介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」、

新・介護福祉士養成講座 4 「介護の基本 II」 (中央法規)

【キーワード】 介護問題・介護福祉士会・ICF・QOL・尊厳・ノーマライゼーション・個別ケア

【授業科目】 介護の基本Ⅱ

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 中村 絹江

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

[授業の目標] 本授業の目的は、生活支援が必要になった人々の「その人らしい生活を実現させる」という介護福祉士の社会的役割を理解することである。

[授業の到達目標] 介護福祉士の資格や役割及び介護サービスの種類やサービス内容について理解したうえで、利用者の個別性を尊重した専門職としての介護を実践できるようになる。

【授業の内容及び方法】

介護福祉士の資格や役割について理解し、利用者等のニーズを充足するために、保健・医療・福祉のサービスがどのように提供されるかについて学ぶ。また、利用者の特徴と生活についての理解を深める。

【授業の計画】

- 1 介護福祉士とは：専門性と役割
- 2 介護サービスの特性：尊厳を支える介護及び自立に向けた介護
- 3 介護サービスの特性：介護保険制度におけるケアマネジメント
- 4 介護サービスの特性：障害者のケアマネジメント
- 5 介護サービス提供の場の特性：介護サービスの種類と提供の場
- 6 介護サービス提供の場の特性：高齢者に対する居宅系サービス提供の場とその特性
- 7 介護サービス提供の場の特性：高齢者に対する入所系サービス提供と場とその特性
- 8 介護サービス提供の場の特性：高齢者に対する居宅に近い（小規模）入所系サービス提供とその特性
- 9 介護サービス提供の場の特性：障害者に対する居宅系サービス提供の場とその特性
- 10 介護サービス提供の場の特性：障害者に対する入所系サービス提供の場とその特性
- 11 利用者の暮らしと介護：高齢者の特徴
- 12 利用者の暮らしと介護：高齢者の生活
- 13 利用者の暮らしと介護：障害者の特徴
- 14 利用者の暮らしと介護：障害者の生活
- 15 まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日々の予習・復習、休日などの自主学修により授業内容の定着を図ること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

各自が目的意識を持って、積極的に授業に臨むこと。介護福祉士に求められる役割と介護実践を意識すること。

【評価方法・基準】

受講態度(20%)・提出課題(30%)・期末試験(50%)の成績で総合的に評価する。

【教 材】

教科書：新・介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』（中央法規）

新・介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』（中央法規）

【キーワード】

介護保険制度、介護サービス、介護保険施設、障害、自立

【授業科目】 介護の基本Ⅲ

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 米井 千夏

(自室番号 ***)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、介護における安全確保・事故防止、感染管理等、介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する理念や理論などについて学び理解を深めるものである。

介護従事者に必要な知識や技術を習得し、実践することができるようになる。

【授業の内容及び方法】

具体的な事例をあげ、利用者の事故防止や安全対策の必要性を理解するとともに、介護従事者の安全と健康管理について学ぶ。

【授業の計画】

1. 個人情報、プライバシーの保護
2. 身体拘束禁止
3. 高齢者虐待防止
4. 介護における安全の確保
5. 事故防止・安全対策①：リスクマネジメント
6. 事故防止・安全対策②：防火、防災対策、利用者の生活の安全
7. 感染管理①：生活の場、高齢者介護施設での感染対策
8. 感染管理②：感染対策とリスクマネジメント
9. 感染管理③：感染対策の基礎知識、感染症発生時の対応
10. 介護に携わる人の健康管理①：からだの健康管理
11. 介護に携わる人の健康管理②：こころの健康管理
12. 介護に携わる人の健康管理③：労働安全対策
13. 演習（1）
14. 演習（2）
15. まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日々の予習・学習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

学ぶ姿勢を常に持つこと。

各自が目的意識を持って、積極的に授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

試験 60%・受講態度 40%などで総合的に評価する。

【教 材】

新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」（中央法規）

【キーワード】

リスクマネジメント、感染管理、介護従事者の健康

【授業の目標及び到達目標】

【授業の目標】本授業の目的は、介護実践現場で、効率的で質の高いサービス提供ができるように、組織内での他職種との連携、公的機関の専門職種・地域社会のインフォーマル資源の内容・連携を理解することである。

【授業の到達目標】多職種との連携・協働の実践を見聞し、学習することで、介護を必要とする人々とその家族への適切なケア・情報提供ができるようになる。

【授業の内容及び方法】

- ・事業所・機関に所属する専門職が進める、組織内・地域内の専門多職種及びボランティア等との連携と効果を学ぶ。
- ・高齢当事者・委嘱ボランティア・ボランティアグループの活動を見聞し、地域内での福祉コミュニティづくりの大切さを学ぶ。
- ・講義を中心とするが、学外授業として行政機関・民間団体への視察研修を取り入れる。
- ・講義の中には、専門職種の外部講師及び民生委員・ボランティア・介護当事者を招いての講話を取り入れる。

【授業の計画】

- 1 地域連携① その意義、目的、フォーマル・インフォーマル資源の種類と役割
- 2 地域連携② 当事者の在宅介護の実態とサービス利用、当事者組織の役割と活動
- 3 地域連携③ 地域ボランティア、委嘱ボランティア、ボランティアグループの役割と活動
- 4 地域連携④ 住民が支えあう地域ケア会議、身近なお互いさまネットワーク活動
- 5 多職種連携① 多くの専門職種と所属する機関団体の役割、サービス内容の理解
- 6 多職種連携② 多職種との連携（チームアプローチ）の意義、内容の理解
- 7 多職種連携③ 介護支援専門員が進める介護福祉士等専門職者、地域資源との連携の実例
- 8 多職種連携④ 介護現場における介護福祉士と多職種との連携の実例
- 9 多職種連携⑤ 地域包括支援センターの業務と介護福祉士等専門職者、地域資源との連携の実例
- 10 専門職が所属する関係機関・団体の現場研修① 社会福祉事務所 地域包括支援センター
- 11 専門職が所属する関係機関・団体の現場研修② すこやか子どもセンター
- 12 専門職が所属する関係機関・団体の現場研修③ 社会福祉協議会、当事者団体など
- 13 グループワーク① この地域で暮らしてきて良かったと思える地域づくりプランの作成
- 14 グループワーク② この地域で暮らしてきて良かったと思える地域づくりプランの作成と発表
- 15 まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

長期休業期間を利用して、身近な地域での介護・福祉・保健分野の機関団体を調べる。

日々の予習・復習、上記の調査も含め概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

機関団体への視察、外部講師・福祉団体代表者の講話の際、質問や気づいたことを積極的に発言すること。

【評価方法・基準】

受講態度（20％）・提出課題（30％）・期末試験（50％）の成績で総合的に評価する。

【教 材】

教科書：新・介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』（中央法規）

【キーワード】

チームアプローチ、フォーマル・インフォーマル資源、当事者団体、民生委員・児童委員

【授業科目】 福祉レクリエーション 【単 位】 2

【学 期】 通 年(隔週) 【担当教員】 居原田 洋子 (自室番号241)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、レクリエーション活動を通して、生活の質の向上のために機能訓練の支援の方法を学ぶ。レクリエーション活動を行う際のプログラム作成や障害別の援助方法を知り、高齢者や障害者の特性を理解し、対象別援助方法が理解できるようにする。

【授業の内容及び方法】

健康体操、クラフト、ゲーム、歌唱、楽器演奏などのレクリエーション活動を通して、高齢者・障害者の対象別援助方法を実践を通して学ぶ。

【授業の計画】

1. レクリエーションの意味
2. レクリエーション活動の主体と指導者の役割
3. レクリエーション活動の効果・・・音楽を伴った実践的援助方法
4. 高齢者・障害者のレクリエーション活動における配慮・・・介護を必要とする人の理解
5. 高齢者のレクリエーション活動①・・・サウンドフープを使って
6. 高齢者のレクリエーション活動②・・・バランスボールを使って
7. 高齢者のレクリエーション活動③・・・トーンチャイムを使って
8. 高齢者のレクリエーション活動④・・・健康体操・リラクゼーション・シェイクムーブメント
9. 障害者のレクリエーション活動①・・・身体障害者のレクリエーション援助
10. 障害者のレクリエーション活動②・・・視覚障害者のレクリエーション援助
11. 障害者のレクリエーション活動③・・・聴覚障害者のレクリエーション援助
12. 障害者のレクリエーション活動④・・・知的障害者のレクリエーション援助
13. 事故防止と安全管理
14. レクリエーション活動の計画と実行・・・アセスメントの仕方
15. レクリエーション活動の計画と実行・・・評価・反省の観点

【授業外の学修（予習、復習の提示、学修時間など）について】

・日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

・指導案を立案し、一人ひとり指導する機会をもつ予定である。

【評価方法・基準】

個別のニーズに合う計画が立案でき、技術指導や活動援助法が理解できたかで判断する。
実技試験（50%）・レポート課題（30%）・授業態度（20%）により総合評価する。

【教 材】

教科書：『高齢者のための年中行事とレクリエーション』（ひかりのくに）

参考文献：適宜プリントを配布する。

【キーワード】

高齢者・障害者の理解、対象別援助方法

【授業科目】 リハビリテーション論

【単 位】 2

【学 期】 後 期

【担当教員】 初岡 寛幸

(自室番号 ***)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業はリハビリテーションの視点から介護・介助において、自立支援のために必要な疾患特性やその症状を考慮した介護・介助が行える知識を身に付けることを目指す。

【授業の内容及び方法】

講義形式で実施。

【授業の計画】

- ①リハビリテーションの理念・目的
- ②ICF の考え方、他職種との連携
- ③自立を促す介護
- ④リハビリテーション各論 変形性関節症、関節リウマチ、人工関節
- ⑤リハビリテーション各論 骨折、脊髄損傷
- ⑥リハビリテーション各論 脳卒中、パーキンソン病
- ⑦リハビリテーション各論 難病、COPD、呼吸器疾患
- ⑧リハビリテーション各論 認知症、高次脳機能障害
- ⑨リハビリテーション各論 がん・病期
- ⑩リハビリテーション各論 生活環境
- ⑪リハビリテーション各論 難病・COPD
- ⑫リハビリテーション各論 ロコモティブシンドロームと運動
- ⑬リハビリテーション各論 移動補助具
- ⑭リハビリテーション各論 小児発達・感染
- ⑮④～⑭の各論で学習した疾患特性などを整理する

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

学んだ内容を他の教科で学んだことと関連して考え、疑問を持つこと。

講義内容を他の教科との関連性を深めるよう復習するにあたり概ね 30 時間の自主学習が必要。

【履修上の注意・要望等】

毎回講義で 1 人 1 回は質問をする。質問に対して自分の考えを伝える努力をすること。

【評価方法・基準】

試験成績約 60%、学習態度約 40%で総合的に評価する。

【教 材】

新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本 I」

【キーワード】

自立・他職種連携・疾患特性

【授業科目】 コミュニケーション技術 I (演習) 【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 中村 絹江

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

【授業の目標】 本授業は、介護実践のために必要な利用者理解や援助的コミュニケーション能力を養うために行う。

【授業の到達目標】 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、多職種との協働の場でのコミュニケーションが実践できるようになる。

【授業の内容及び方法】

介護を必要とする対象者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて学ぶ。また、利用者やその家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるため、具体的な演習を通して学ぶ。

【授業の計画】

- 1 介護におけるコミュニケーションの基本：コミュニケーションの意義と目的
- 2 介護におけるコミュニケーションの基本：コミュニケーションの基礎的技法（非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション）
- 3 介護におけるコミュニケーションの基本：コミュニケーションの基礎的技法（バイステックの7原則）
- 4 介護におけるコミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの役割
- 5 利用者・家族とのコミュニケーションの実際：人間関係形成場面でのコミュニケーション
- 6 利用者・家族とのコミュニケーションの実際：相談・面接場面におけるコミュニケーション
- 7 利用者・家族とのコミュニケーションの実際：生活場面別のコミュニケーション
- 8 利用者の特性に応じたコミュニケーションの技法の実際：コミュニケーション障害の理解
- 9 利用者の特性に応じたコミュニケーションの技法の実際：コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 10 利用者の特性に応じたコミュニケーションの技法の実際：認知症の特性に応じたコミュニケーション
- 11 利用者の特性に応じたコミュニケーションの技法の実際：失語症・構音障害・精神障害の特性に応じたコミュニケーション
- 12 介護におけるチームのコミュニケーション：チームのコミュニケーション
- 13 介護におけるチームのコミュニケーション：記録による情報の共有化
- 14 介護におけるチームのコミュニケーション：報告・連絡・相談と会議
- 15 まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日々の予習・復習、休日などの自主学修により授業内容の定着を図ること。概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

各自が目的意識を持って、積極的に授業に臨むこと。介護福祉士に求められるコミュニケーション技法を意識すること。

【評価方法・基準】

受講態度(20%)・提出課題(30%)・期末試験(50%)の成績で総合的に評価する。

【教 材】

教科書：新・介護福祉士養成講座5『コミュニケーション技術』（中央法規）

【キーワード】

コミュニケーション技術、傾聴、共感、受容

【授業科目】 コミュニケーション技術Ⅱ 【単 位】 1

【学 期】 前 期 【担当教員】 井戸美智夫 若林美佐子（自室番号：142）

【対象学生】 専攻科

【授業の目標】

本授業は、豊かなコミュニケーション能力を用いて、介護を必要とする人、特に視覚障害を有する人との信頼関係を気づくことができる力を身に付けることを目的とする。

【授業の到達目標】

- ①視覚障害についての知識を身に付け、その生活上の問題や介護のあり方を述べるができる。
- ②点字の基礎を学習し、具体的なコミュニケーション技術として活用できる。視覚障害者とのコミュニケーションが積極的にできる。

【授業の内容及び方法】

視覚障害者についての基礎知識を学ぶ。
視覚障害者の生活上の問題を理解し、介護のあり方を学ぶ。
コミュニケーション（点字）について学ぶ。

【授業の計画】

1. 視覚障害のある利用者・家族とのコミュニケーションについて
2. 点字の50音の把握
3. 点字の濁音・半濁音の把握
4. 視覚障害者の日常生活について
5. 点字の長音・数字の把握
6. 点字のマス空きの把握
7. 点字の文章を書く
8. 視覚障害のある利用者の介護のあり方と多職種連携について

【授業外の学修（予習・復習等、学修時間など）について】

予習：各単元に該当する授業内容について参考文献に目を通しておくこと

復習：課題を確実に行うこと

- ・この授業を履修するにあたって、おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。上記の予習復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

目的意識を持って学習すること

【評価方法・基準】

終了時試験（60%）、レポート（20%）、学習態度（20%）の総合評価とする。

【教 材】

教科書：なし

参考文献：点訳の広場（岡山県赤十字訳奉仕団）

【キーワード】

点字 視覚障害 バリアフリー

【授業科目】 コミュニケーション技術Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 佐藤 美智子

(自室番号)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

- ・本授業では聴覚障害者への理解を深める。
- ・学んだコミュニケーション技術を使って積極的に聴覚障害者に関わることをめざす。

②授業の到達目標

多様なコミュニケーション技術駆使し、聞こえる人との橋渡しが出来るようになる。

【授業の内容及び方法】

聴覚障害と聴覚障害者についての講義及び手話等コミュニケーション技術の実技を行う。

【授業の計画】(講義／実技)

1. 聴覚障害と聴覚障害者の障壁・コミュニケーション方法／手話「挨拶」「名前」、自己紹介
2. ノンバーバルコミュニケーション／名前の手話の成り立ち、指文字
3. 聴覚・言語障害者の生活とコミュニケーション／筆談、手話「数字」「年齢・日付」
4. 耳のしくみ・聞こえについて／手話「家族」「趣味」「疑問詞①」
5. 失聴時期による言語の違い、音声言語と手話言語の文法の違い／手話「仕事」
6. コミュニケーション支援と情報提供／手話「疑問詞②」「会話」
7. 盲ろう者の存在とそのコミュニケーション手段／触手話・指点字・手のひら書き、簡単な会話
8. 聴覚障害者とのコミュニケーション体験(人となりを取材して発表、一緒にカルタ取り)

【授業外の学修(予習・復習の指示、学修時間など)について】

- ・音の無いテレビを見て感想・意見をレポートにまとめる。
- ・実技は必ず復習をし、繰り返しの練習で身につける。
- ・テキストの講義編・たっちゃんと学ぼうを読み、疑問点を洗い出し質問をまとめる。

日々の復讐、課題作成や試験対策に加え、休日などを利用して授業で学修した内容を概ね10時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

短時間の履修であることを念頭におき、積極的に授業に参加する。

【評価方法・基準】

授業態度(20%)、提出課題(20%)、筆記試験(30%)、実技試験(30%)により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：手話を学ぼう手話で話そう(全日本ろうあ連盟)

たっちゃんと学ぼう(全日本ろうあ連盟)

自己作成資料

参考文献：わが指のオーケストラ(秋田書店)・どんぐりの家(ビッグコミック)

【キーワード】

- ・障害者権利条約と日本の批准
- ・手話言語法・手話言語条例
- ・手話を国の公用語として認める法律における世界の情勢と日本の動向

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

本授業の目標は、家族の生活と高齢者や障害のある人への介護を考えつつ、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重しつつ潜在能力を引き出し、介護者として安全に援助できる技術や知識を身につけることである。

②到達目標

衣・食・住・家庭経営など家事に関する様々な知識や技能を習得し、介護福祉士として高齢者や障害者が楽しく、安全な家庭生活を営むために必要な支援ができるようになるための能力を養う。

【授業の内容及び方法】

高齢者や障害のある人の生活の営みが、可能な限り自立してできるための知識と技術を習得し、介護する者が、家事全般に関わる高度な支援サポートができることを目指して、講義、実習を行う。

【授業の計画】

<前期> 1 ～ 30 <後期> 31 ～ 45

1 ～ 18まで、37 ～ 45まで・・・ 植月

19 ～ 32まで・・・服島、33 ～ 36まで・・・ 大土井

1. 被服生活
2. 繊維のいろいろ・被服管理
3. ワーキングウェアの製作<被服>①三角巾
4. ワーキングウェアの製作<被服>②袋縫い
5. ワーキングウェアの製作<被服>③エプロン裁断・しるし付け
6. ワーキングウェアの製作<被服>④ポケット
7. ワーキングウェアの製作<被服>⑤襟ぐり
8. ワーキングウェアの製作<被服>⑥袖
9. ワーキングウェアの製作<被服>⑦脇
10. ワーキングウェアの製作<被服>⑧裾
11. 浴衣着装実習
12. 手縫い①(基礎縫い)
13. 手縫い②(ボタン・スナップつけ)
14. 洗濯・界面活性剤の働き
15. のりつけ・アイロンかけ
16. 「ほんとに安全！合成洗剤！！」ビデオ レポート提出
17. 高齢者、障害者のための被服のデザイン・構成・色彩・着脱の工夫
18. まとめ①

19. 調理実習のためのオリエンテーション
20. 高齢者の食事計画・高齢者に向く食品と調理法
21. 普通食の調理…調理の基本
22. 調理実習
23. 病態に応じた調理：軟菜食の素材と調理について
24. 調理実習

25. ・病態に応じた調理：骨粗鬆の予防の要点と調理について
 26. 調理実習
 27. ・病態に応じた調理：高血圧症の予防の要点と調理について
 28. 調理実習
 29. ・病態に応じた調理：糖尿病の食事療法の基本と調理について
 30. 調理実習
 31. ・高齢者向きの調理のまとめ・復習
 32. 調理実習

 33. ・自立に向けた住居環境の整備
生活空間の環境①（要素：室温、湿度、換気空調、照明、給排水）
 34. ・生活空間の環境②（要素：水回り・家電設備、ガス器具等の光熱エネルギーの有効利用と省エネ）
 35. ・住居管理と地域のかかわり（ゴミ、廃材の処理と管理、住居の生活空間と地域とのかかわり）
安全安心の生活にかかわる地域コミュニティー
 36. ・福祉環境整備（高齢者、障害者への配慮。バリアフリーとユニバーサルデザイン）
住居空間の整備（住宅改修の実例、介護改修・耐震改修 等）

 37. ・[生活の理解]（生活の定義・生活経営のプロセス・生活経営 その他）
生活支援（生活支援の考え方・ICFの視点にもとづくアセスメント）
 38. ・日本の少子高齢化
 39. ・国民の経済
 40. ・家庭経営・家計の管理
 41. ・家事の意義・目的
 42. ・家事援助の技法（衣服・寝具の衛生管理 他）
 43. 介護福祉士共通試験過去問題①
 44. 介護福祉士共通試験過去問題②
 45. まとめ②
-

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：教科書に目を通し、疑問点を調べてくること。

復習：授業時の配布物を再読すること。

この授業を履修するにあたって、概ね45時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて休日や長期期間中などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

基本的な家庭生活を理解し、介護福祉士として必要な高齢者や障害のある人への生活支援について知識を深めるよう目的意識を持って授業に臨むこと。

【評価方法・基準】

筆記試験（50%）、実技作品（20%）、実習後のレポート（20%）、
受講態度・授業への意欲（10%）

【教 材】

介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅰ」

介護福祉士国試ナビ（中央法規）

【キーワード】

生活支援・衣生活・食生活・住環境・家庭経営

【授業科目】 生活支援技術B

【単 位】 4

【学 期】 通年

【担当教員】 須江裕子
若林美佐子

自室番号 226-1
142

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、見守りから看取りまでのあらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合した適切な実施を目指す。介護福祉士として介護技術が必要な専門的視点を持って習得できる。

【授業の内容及び方法】

正確・安全・安楽そして創意工夫することを念頭におき、介護上の個別のニーズを充足するよう一連の思考過程を踏み、個人の特性に応じた適切で良質な介護実践ができるよう技術を磨く。

介護の基本的技術を習得し、その原理を理解する。

【授業の計画】

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 自立に向けた身支度の介護 | 31 安全的確な入浴・清潔の保持の介護の技法 |
| 2 身支度の意義と目的 | 32 入浴・シャワー浴 |
| 3 身支度に関する利用者のアセスメント | 33 全身清拭 |
| 4 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 | 34 陰部洗浄 |
| 5 整容・洗面・整髪ひげの手入れ・爪・化粧など | 35 足浴・手浴 |
| 6 口腔の清潔 | 36 洗髪 |
| 7 衣類の着脱 | 37 自立に向けた排泄の介護 |
| 8 自立に向けた移動の介護 | 38 排泄の意義・目的 |
| 9 移動の意義と目的 | 39 排泄に関する利用者のアセスメント |
| 10 移動に関する利用者のアセスメント | 40 ICF に視点に基づくアセスメント |
| 11 安全で気兼ねなく動くことを支える介護 | 41 気持ちよい排泄を支える介護 |
| 12 外出の環境作り、社会参加、余暇活動・その他(学外授業) | 42 気持ちよい排泄を支える介護 |
| 13 安全で的確な移動・移乗の介護の技法 | 43 安全・的確な排泄の介護の技法 |
| 14 歩行介助 | 44 トイレでの介護 |
| 15 車椅子移動の介助 | 45 ポータブルトイレでの介護 |
| 16 安楽な体位 | 46 採尿器・差し込み便器での介助 |
| 17 体位変換 | 47 おむつ交換の介助 |
| 18 自立に向けた食事の介護 | 48 自立に向けた睡眠の介護 |
| 19 食事の意義と目的 | 49 睡眠の意義・目的 |
| 20 食事に関する利用者のアセスメント | 50 睡眠に関する利用者のアセスメント |
| 21 「おいしく食べる」ことを支える介護 | 51 ICF の視点に基づくアセスメント |
| 22 食事を楽しむための環境作り | 52 安眠のための介護 |
| 23 安全で的確な食事介助の方法 | 53 安眠のための介護の工夫 |
| 24 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 | 54 安眠を促す介護の技法 |
| 25 入浴の意義と目的 | 55 終末期の介護 |
| 26 入浴に関する利用者のアセスメント | 56 終末期における介護の意義・目的 |
| 27 ICF の視点に基づくアセスメント | 57 臨終時の介護・対応 |
| 28 爽快感・安楽を支える介護 | 58 事前意思確認 |
| 29 爽快感・安楽を支える介護の工夫 | 59 終末期における利用者のアセスメント |
| 30 入浴を楽しむ環境作り、スキンシップ | 60 グリーフケア |

【授業外の学修(予習・復習等)について】実施した介護技術は復習を重ねること。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

1 回1回確実に介護技術を習得するために、必ず出席し、演習に積極的に参加すること。演習グループ内での協力を心がけること。演習に適した服装、身なりを整えること。

【評価方法・基準】 筆記・実技試験60%、学習態度40%で総合評価する。

【教 材】

新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」、新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」(中央法規)

【キーワード】 自立支援、ICF、ボディメカニクス、福祉用具、アセスメント、介護ニーズ

【授業の目標】

本授業は介護の対象となるあらゆる状態像の利用者に対し、自立支援の観点から質の高い介護技術が提供できる知識と技術を身に付けることを目的とする。

【授業の到達目標】

各疾患の特性を理解し、適切な介護の方法を学んだ上で、介護の原則である「①尊厳保持②自立支援③安全を守る」を基礎に置き、基本的な生活技術が利用者の個別性を踏まえて実施できる。

【授業の内容及び方法】

介護に必要な基本的な知識や技術を疾患や障害ごとに講義で押さえ、確実な技術と介護を必要とする人の共感的理解と技術の習得のために、演習を行う。

【授業の計画】

1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは何か
2. 高齢者の特性(心身の機能低下の特徴)
3. 高齢者の特性(老人の骨折・骨粗鬆症・廃用症候群・褥瘡)
4. 高齢者の特性(心身の機能低下の体験・高齢者の疑似体験)
5. 福祉用具と介護用具の紹介【米井】
6. 車椅子とシーティング【米井】
7. 運動機能障害に応じた介護(良肢位・拘縮・硬直・変形など)【米井】
8. 運動機能障害に応じた介護(脳血管障害の基礎知識)【米井】
9. 運動機能障害に応じた介護【米井】
10. 運動機能障害に応じた介護(片麻痺の疑似体験)【米井】
11. 感染対策の基礎知識
12. 手洗いの実践
13. バイタルサインの意義と測定(血圧と脈拍の測定)
14. バイタルサインの意義と測定(呼吸・体温・意識レベル)
15. バイタルサインの意義と測定(バイタルサインの測定)
- <障害に応じた生活支援技術(運動機能障害・感覚障害)>
16. 視覚障害に応じた介護(視覚障害者と生活の理解)【須江】
17. 視覚障害に応じた介護(生活支援と環境整備)【須江】
18. 視覚障害に応じた介護(食事の支援・コミュニケーションの支援)【須江】
19. 視覚障害者の疑似体験【須江】
20. 運動機能障害に応じた介護(脳性麻痺)【米井】
21. 運動機能障害に応じた介護(脊髄損傷)【米井】
22. 運動機能障害に応じた介護(難病)【米井】
23. 運動機能障害に応じた介護(慢性関節リウマチ)【米井】
24. 運動機能障害に応じた介護(パーキンソン病基礎知識)【米井】
25. 運動機能障害に応じた介護(パーキンソン病の介護)【米井】
26. 運動機能障害に応じた介護(ALS・筋ジストロフィー)【米井】

27. 聴覚・言語障害に応じた介護【米井】

<障害に応じた生活支援技術（内部障害）>

28. 心臓機能障害のある人の理解・生活支援と環境整備
29. 心臓機能障害に応じた介護（食事への援助・日常生活支援）
30. 心臓機能障害に応じた介護（介護技術の展開）
31. 腎臓機能障害のある人の理解・生活支援と環境整備
32. 腎臓機能障害に応じた介護（食事への支援と環境整備 介護技術の展開 他職種との連携）
33. 呼吸器機能障害のある人への理解・生活支援と環境整備
34. 喀痰の吸引方法
35. 膀胱・直腸機能障害に応じた介護（膀胱留置カテーテル）
36. 人工肛門・人工膀胱の手当て
37. 排尿障害（失禁について）
38. 肝臓機能障害のある人の理解・介護技術の展開
39. 生活習慣病について 高血圧・糖尿病・動脈硬化・高脂血症の予防
40. 生活習慣病とメタボリックシンドローム

<障害に応じた生活支援技術（精神・知的障害）>

41. 知的障害のある人と生活の理解・生活支援と環境整備【秋里】
42. 知的障害に応じた介護 介護技術の展開 他職種との連携【秋里】
43. 精神障害のある人と生活の理解・高齢者の精神障害【秋里】
44. 精神障害に応じた介護 介護技術の展開 他職種との連携【秋里】
45. 発達障害のある人と生活の理解 生活支援と環境整備 他職種との連携【秋里】

【授業外の学修（予習・復習、学修時間等）について】

予習：各單元ごとに教科書の項目に目を通しておくこと

復習：テキスト、配布資料に次の時間までに一度は再読しておくこと

・この授業を履修するにあたって、おおむね45時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間など利用して施設ボランティア活動等を通して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

他の科目と関連・重複するところがありますが、それだけ重要だということを理解し、その時間を大切にしてください。

【評価方法・基準】

分野ごとに定期試験またはレポート（80%）と授業態度（20%）で評価し、統合して最終評価とする。

【教材】

中央法規出版：新介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」

（参考文献）

中央法規出版：新介護福祉士養成講座13「障害の理解」

中央法規出版：新介護福祉士養成講座14「こころとからだのしくみ」

メヂカルレビュー社：西洋史・介護福祉士のための解剖生理学

全国社会福祉協議会：介護職員のための感染対策マニュアル「きちんと感染管理」

【キーワード】

介護技術、身体障害のケア、精神障害のケア、知的障害のケア、内部障害のケア、福祉用具、自立支援生活習慣病、

【授業科目】 介護過程Ⅰ（演習）

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 須江裕子

（自室番号 226-1）

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業では介護過程の意義を理解し、事例を通して一連の介護過程を展開できるようになることを目指す。アセスメントにより情報を整理し、ニーズの抽出、介護計画を立案することができる。

【授業の内容及び方法】

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。

【授業の計画】

- 1 介護過程の意義
- 2 介護過程の展開①（情報収集）
- 3 介護過程の展開②（アセスメント）
- 4 介護過程の展開③（課題の明確化）
- 5 介護過程の展開④（目標設定）
- 6 介護過程の展開⑤（計画の立案と実施）
- 7 介護過程の展開⑥（評価）
- 8 利用者理解
- 9 自立支援に向けた計画作成
- 10 介護・医療・保健との連携
- 11 事例展開①（高齢者）
- 12 事例展開②（障害者）
- 13 事例展開③（在宅）
- 14 事例展開の比較検討
- 15 まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

観察力を養うため、日頃から身近な高齢者の生活に関心を持ち、目を向けておく。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間等を利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

実習や事例研究につなげられるよう、基本を確実に習得すること。グループワークでは積極的に討議に参加し、グループ内での協力を心がけること。

【評価方法・基準】 学習態度 50%、レポート 50%で総合的に評価する。

【教 材】

新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」（中央法規）

【キーワード】 アセスメント・ニーズ・介護計画・自立支援・連携

【授業科目】 介護過程Ⅱ（演習）

【単 位】 2

【学 期】 後期

【担当教員】須江裕子・若林美佐子（自室番号226-1,142）

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】 介護過程の実践的展開を目指す。チームアプローチについての理解が出来る。

【授業の内容及び方法】

学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合し、段階的、発展的な介護過程の展開能力を育成する。高齢者施設・障害者施設・在宅における介護過程の特徴について事例を通して理解を深める。

【授業の計画】

- 1 高齢者施設における介護過程の展開の特徴
- 2 介護老人福祉施設における介護過程の実践的展開①（情報収集とアセスメントおよびニーズの明確化）
- 3 介護老人福祉施設における介護過程の実践的展開②（計画立案）
- 4 介護老人保健施設における介護過程の実践的展開①（情報収集とアセスメントおよびニーズの明確化）
- 5 介護老人保健施設における介護過程の実践的展開②（計画立案）
- 6 障害者施設における介護過程の展開の特徴
- 7 障害者施設における介護過程の実践的展開①（情報収集とアセスメントおよびニーズの明確化）
- 8 障害者施設における介護過程の実践的展開②（計画立案）
- 9 在宅における介護過程の展開の特徴
- 10 訪問介護事業における介護過程の実践的展開①（情報収集とアセスメントおよびニーズの明確化）
- 11 訪問介護事業における介護過程の実践的展開②（計画立案）
- 12 グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業における介護過程の展開の特徴
- 13 グループホームにおける介護過程の展開
- 14 小規模多機能型居宅介護における介護過程の展開
- 15 介護予防事業における介護過程の展開
- 16 介護過程とチームアプローチ
- 17 サービス担当者会議
- 18 ケースカンファレンスの意義
- 19 ケースカンファレンスの進め方
- 20 ケースカンファレンスの実際①（模擬カンファレンス）
- 21 ケースカンファレンスの実際②
（模擬カンファレンスの発表及びまとめ）
- 22 介護過程とケアプラン
- 23 多職種との連携
- 24 グループ活動 事例検討①
（高齢者施設）
- 25 グループ活動 事例検討②
（障害者施設）
- 26 グループ活動の発表
- 27 グループ活動 事例検討③（在宅）
- 28 グループ活動 事例検討④
（事例検討のまとめ）
- 29 グループ活動の発表
- 30 まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

実習で展開した介護過程を振り返り、基本の展開と比較し、整理しておく。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間等を利用して授業で学修した内容を自主学習すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】 実習や事例研究につなげられるよう、基本を確実に習得すること。グループワークでは積極的に討議に参加し、理論の理解を深める。

【評価方法・基準】 演習への積極参加を重視した学習態度60%。レポート40%で総合的に評価する。

【教 材】 新・介護福祉士養成講座9「介護過程」（中央法規）

【キーワード】 チームアプローチ・ケースカンファレンス・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・介護予防事業・ケアマネージャー

【授業科目】 介護事例研究Ⅰ

【単 位】 1

【学 期】 前 期

【担当教員】 武田英樹

(自室番号 523)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業は要介護者等の介護計画を科学的・論理的視点から評価し、研究論文を執筆する知識と技術を修得するために行う。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 介護の本質を科学的・論理的に追及する視点をもって、その内容を具体的に説明できる。
2. 事例を用いた研究論文の書き方が実践できる。
3. 介護を研究的視点から深めることで、人間観を養い、自己研鑽できる。

【授業の内容及び方法】

先行研究論文などにも当たり、事例研究の意義や研究方法、論文執筆、研究発表に至る実践的スキルの修得を目指します。グループワークや研究発表なども取り入れていく。

【授業の計画】

1. 事例研究の意義、介護福祉士にとっての研究とは
2. 研究の目的、動機、研究テーマの確定の仕方
3. 研究論文のまとめ方、文献の活用方法
4. ケアの視点研究①食事とは、排泄とは、入浴とは
5. ケアの視点研究②睡眠とは、衣服とは
6. ケアの視点研究③役割とは、自己決定とは
7. ケアの視点研究④余暇とは、コミュニケーションとは
8. 介護過程の展開

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

ケアの視点研究として提示されるキーワードについて調べておく（予習として、次回講義までに 30 分程度）。講義中に重要項目として強調し内容についての復習のレポートを提出すること（復習として、次回講義までに 30 分程度）。この授業を履修するにあたって概ね 15 時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

自分たちの介護実践を科学的に検証する重要なスキルです。専門職になる自覚をもって取り組んでください。

【評価方法・基準】

課題レポート：100%

【教 材】

教科書：和田 要ほか『ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引 第3版』日総研、2007年

参考文献：介護事例研究会編『介護事例研究』建帛社

佐藤眞一編『すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント』中央法規出版

【キーワード】

ケーススタディ、事例研究、介護過程、介護研究、実践科学

【授業科目】 介護事例研究Ⅱ 【単 位】 2

【学 期】 後期 【担当教員】 (自室番号)

武田英樹 須江裕子 若林美佐子 523・226-1・142

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業はケーススタディによる研究的視点を広げるとともに、研究成果の発表における一連の流れを実践的に学べるように展開していく。

学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。

1. 介護の本質を科学的・論理的に迫る視点がもてる。
2. 事例を用いた研究論文の書き方が実践できる。
3. 事例研究によって利用者の介護ニーズの明確化が図れる。
4. 介護を研究的視点から深めることで、人間観を養い、自己研鑽できる。

【授業の内容及び方法】

事例や事例研究論文などを題材にし、グループワークを取り入れながら事例研究の意義や研究方法、論文執筆、研究発表に至る実践的スキルの修得を目指します。グループワークや研究発表なども取り入れていく。

【授業の計画】

1. 介護事例研究の展開（講義）：介護目標、介護経過、実施
2. 介護事例研究の展開（講義）：結果、考察、評価
3. 事例研究の全体像の把握（講義）発表準備、レジュメづくり
4. 学外事例研究の実際：発表会への参加（演習）
5. 事例研究論文の枠組みの把握（講義）
6. グループワーク（演習）：事例研究論文の構成についての意見交換
7. グループワークによる事例研究（演習）：事例紹介
8. グループワークによる事例研究（演習）：目標の設定・演題の決定
9. グループワークによる事例研究（演習）：介護過程の展開①介護目標の設定
10. グループワークによる事例研究（演習）：介護過程の展開②介護計画の実施・結果
11. グループワークによる事例研究（演習）：介護過程の展開③考察・評価
12. 個人ワークによる事例研究（演習）：事例の文章化①研究テーマの検討
13. 個人ワークによる事例研究（演習）：事例の文章化②実習での担当利用者の紹介についての文章化
14. 個人ワークによる事例研究（演習）：事例の文章化③介護過程の展開についての文章化
15. 介護事例研究発表、まとめ（講義）

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

毎回、授業までに個人ワークによる事前学習（課題レポート）が必要です。

実際に事例を活用して事例研究論文をグループで作成してもらいます。

この授業を履修するにあたって概ね15時間程度の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

自分たちの介護実践を科学的に検証する重要なスキルです。専門職になる自覚をもって取り組んでください。

【評価方法・基準】

課題レポート 50% 受講態度 50%

【教 材】

教科書：和田 要ほか『ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引 第3版』日総研、2007年

参考文献：介護事例研究会編『介護事例研究』建帛社

佐藤真一編『すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント』中央法規出版

【キーワード】

ケーススタディ、事例研究、介護過程、介護研究、実践科学

【授業科目】 介護事例研究Ⅲ

【単 位】 1

【学 期】 後 期

【担当教員】 須江 裕子 (自室番号 226-1)

若林 美佐子 (自室番号 142)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標】

本授業では、自らの介護実践を客観的に評価し、その結果を他者へ論述的に発表する能力を身に付けることを目的とする

【授業の到達目標】

- ①介護事例研究Ⅰ・Ⅱで学んだことを基礎に、実習や他教科から得た人間観や介護観に立脚し、利用者
に尊厳を守り、QOLの向上と自己実現を目標とした介護を探求する姿勢を高める
- ②自らの介護実践を客観的に振り返り、言語化し他者へ適切に伝える能力を身に付ける

【授業の内容及び方法】

介護実習Ⅱ②で受け持った利用者の介護過程の展開の一連を振り返り、研究論文の形式にまとめて、事例研究発表会で発表する。事例研究発表会の運営も行う

【授業の計画】

1. 導入
2. 介護事例研究をまとめる (テーマ、はじめに、ケース紹介)
3. 介護事例研究をまとめる (介護の実際、考察、まとめ)
4. 介護事例研究をまとめる (参考・引用文献について、発表方法)
5. 介護事例研究の評価について
6. 介護事例研究発表 (特養・老健)
7. 介護事例研究発表 (障害者・救護)
8. 振り返り

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間等) について】

予習：必ずテーマに関連した文献検索を行うこと。また総合演習Ⅱや介護過程Ⅱの授業の進行に合わせて、実習Ⅱ②の受け持ち利用者に関係する介護、医療、福祉について学習し、知識を深めること

復習：授業で感じた疑問を積極的に解明すること。日頃から「客観的な」ものの見方、表現の仕方を意識して取り組むこと。文献検索を復習でも行うこと

- ・この授業を履修するにあたって、おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。日々、新聞やインターネットニュースなどから、介護の話題を1つ取り上げて、知見を増やすために自主学修すること

【履修上の注意・要望等】

専攻科一年間の学習の総まとめになります。自身の行った援助が客観的に振り返ることができること、表現できることを目指して、日頃から全ての授業に全力で臨んでください。パソコン操作を求めます

【評価方法・基準】

論文60%、受講態度40%の総合評価

【教 材】

ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き (日総研)

【キーワード】

介護事例研究、介護過程、自立支援、尊厳、日常生活援助、多職種連携 実験研究

【授業科目】	介護総合演習 I	【単 位】	1
【学 期】	前 期	【担当教員】	須江裕子 自室番号 226-1、 若林美佐子 142
【対象学生】	専攻科		

【授業の目標及び到達目標】

授業の目標：本授業は、介護実習 I に必要な知識と望ましい実習態度を身につけるために行う。また、実習後の振り返りにより次回の実習に向けた課題設定を目指す。

到達目標：介護実習に向けて心構え・予備知識・動機づけなどの準備ができる。

【授業の内容及び方法】

3期(①～③)に分けて実施する介護実習 I の実習目的に応じた指導を行う。介護実習の必要性の理解と実習課題を把握できる。実習記録の書き方を指導するとともに記録の重要性について理解できる。施設の種別やサービス内容などについても理解できる。実習後は、振り返りを行うことで、より効果的な介護実習を展開する。

【授業の計画】

- 1 実習の目的
- 2 介護実習 I ① (介護老人福祉施設又は介護老人保健施設での実習) について
実習先についての一般的理解 (施設の種別・対象利用者・業務内容など)
- 3 関連法律の理解
- 4 実習記録の書き方
- 5 介護実習 I ①のオリエンテーション (実習までの流れ・実習中の注意事項)
- 6 介護実習 I ①②事前訪問 (実習先での注意事項の確認)
- 7 実習に関わるコミュニケーションの方法 (言語・非言語コミュニケーション)
- 8 介護実習 I ①の事後指導・まとめ (振り返り・自己評価・実習報告会)
- 9 介護実習 I ② (認知症対応型老人共同生活介護事業又は小規模多機能型居宅介護)
実習先についての一般的理解 (施設の種別・対象利用者・業務内容など)
- 10 介護実習 I ②のオリエンテーション (実習までの流れ・実習中の注意事項)
- 11 介護実習 I ②の事後指導・まとめ (振り返り・自己評価・実習報告会)
- 12 介護実習 I ③のオリエンテーション (訪問介護事業について・心構え)
- 13 介護実習 I ③の事後指導・まとめ (振り返り・実習報告会)
- 14 自己目標の設定
- 15 介護実習 I ①②③ 総括 実習全体のまとめ

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

授業内容の復習を行い、実習準備を整える。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】 実習に関する諸手続き、書類提出の期限は厳守のこと。

【評価方法・基準】 レポート 60%、学習態度 40%により評価する。

【教 材】 本校実習要項。参考文献は適宜指示する。

【キーワード】 コミュニケーション、記録、介護実習、介護保険制度

【授業科目】 介護総合演習Ⅱ

【単 位】 1

【学 期】 後期

【担当教員】 須江裕子 自室番号 226-1
若林美佐子 142

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

本授業では、学内で学んだ知識、技術、態度を体験学習を通して具体的かつ实际的に理解することを目指す。

- 1 実習に明確な目的意識や課題を持って臨むことが出来る。
- 2 実習の記録の重要性を知り、詳細な記録を取ることが出来る。
- 3 介護専門職としての自覚を持ち、行動出来る。

【授業の内容及び方法】

2期(①～②)に分けて実施する。学生1人1人の目的意識を明確化し、介護専門職としての意識が高まるように指導する。実習後のフィードバックを通して自己の課題を明確化していくよう指導する。介護実習Ⅱについては介護実習Ⅱ①と介護実習Ⅱ②の2期に分けて実施する。

【授業の計画】

- 1 介護実習Ⅱの目的
- 2 介護実習Ⅱについて 実習先、施設についての一般的理解（施設の種別・対象利用者・業務内容など）
- 3 関連法律の理解
- 4 実習記録の書き方
- 5 カンファレンスの進め方
- 6 介護実習Ⅱ①（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設）のオリエンテーション
実習までの流れ・実習中の注意事項
- 7 介護実習Ⅱ①の事前訪問（実習先での注意事項の確認）
- 8 介護実習Ⅱ①の事後指導（振り返り・自己評価）
- 9 介護実習Ⅱ①のまとめ（実習報告会）
- 10 介護実習Ⅱ②（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設）のオリエンテーション
実習までの流れ・実習中の注意事項
- 11 介護実習Ⅱ②の事前訪問（実習先での注意事項の確認）
- 12 介護実習Ⅱ②の事後指導（振り返り・自己評価）
- 13 介護実習Ⅱ②のまとめ（実習報告会）
- 14 介護実習Ⅱ①② 総括 実習全体のまとめ
- 15 介護福祉士として専門職に求められるもの

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

授業内容の復習を行い、事前準備を整える。日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】 実習に関する諸手続き、書類提出の期限は厳守のこと。

【評価方法・基準】 レポート60%、学習態度40%により評価する。

【教 材】 本校実習要項。参考文献は適宜指示する。

【キーワード】 介護専門職、フィードバック、介護保険法、障害者総合支援法、救護施設

【授業科目】 介護実習Ⅰ

【単 位】 1

【学 期】 通年

【担当教員】 須江裕子・若林美佐子（自室番号226-1,142）

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

実習の目的は、講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護のニーズに関する理解力、判断力を養うこと、また日常性買う援助に関する介護技術能力を深めることである。

- 1) 利用者の多様な生活の場を理解する。
- 2) 利用者とのコミュニケーションを図り、人間関係の形成を行う。
- 3) 種々の実習施設・事業所の実際を体験し、それぞれの事業所の機能や基本的なケアを学ぶ。

【授業の内容及び方法】

- ・小規模多機能型居宅介護事業・認知症対応型老人共同生活介護事業（2日間）
- ・高齢者施設（3日間）
- ・訪問介護事業（3日間）計8日間の実習

【授業の計画】

- 1) 実習先：小規模多機能型居宅介護事業・認知症対応型老人共同生活介護事業
6月に2日間、1～3名のグループに分かれて実習する。利用者の多様な生活の場について理解する。
利用者とのコミュニケーションの実践と施設職員の一般的な役割について学ぶ。
- 2) 実習先：介護老人福祉施設・介護老人保健施設
6月に3日間、2～3名のグループに分かれて実習する。
利用者とのコミュニケーションを図り、日常生活援助を通して触れ合い、利用者のニーズと介護の機能ならびに介護の機能について学ぶ。
- 3) 実習先：訪問介護事業
8月に3日間、訪問介護事業所において実習する。施設実習と異なる点や生活形態や家族との関係、自立支援、多職種協働や関係機関などを学習する。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

介護総合演習Ⅰの内容を実習までに理解しておくこと。実習に備えて、概ね15時間程度の自主学修が必要となる。休日や長期休業期間等を利用して実習施設に関することや関連制度について自主学習すること。

【履修上の注意・要望等】

実習中やむを得ず欠席の場合は、補習実習を行い、実習時間を確実にとる。

【評価方法・基準】

実習態度・実習への取り組み及び施設評価から総合的に評価する。(100%)

【教 材】 本校実習要項

参考文献は適宜指示する。

【キーワード】 コミュニケーション、チームケア、小規模多機能型居宅介護、グループホーム、

【授業科目】 介護実習Ⅱ

【単 位】 4

【学 期】 通年

【担当教員】 須江裕子・若林美佐子 (自室番号 226-1、142)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

実習では、介護サービスの提供の基本となる実践力の習得、また介護過程の展開を目指す。

- 1) 他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。
- 2) 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。
- 3) 受け持ち対象者について、アセスメント・介護計画の立案・実施・評価やこれを踏まえた計画の修正により、介護過程を展開できる。
- 4) 実習指導者との連携をもとに、学生が施設等の職員から受けた指導を通して介護福祉士としての責任を果たす能力や態度を養う。
- 5) 自らの介護観を深めることができる。

【授業の内容及び方法】

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やそれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

高齢者施設・障害者施設において実習し、障害レベルに応じた介護技術を学ぶ。又、一連の介護過程の展開を実践する。

【授業の計画】

- 1) 8月～9月に12日間、2～3名のグループに分かれて実習する。高齢者施設又は障害者施設において実習し、障害レベルに応じて求められる適正な介護技術と適正な使い方について学ぶ。学生は、受け持ち利用者を持って実習し、アセスメント・介護計画の立案・実施及び評価を行う。
- 2) 11月に15日間、2～3名のグループに分かれて実習する。
高齢者施設又は障害者施設において実習し、指導者の助言を受けながら、アセスメント・介護計画の立案・実施及び評価を行う。また、計画の見直し・修正を行う。施設の実習指導者とともにケースカンファレンスの時間を設定し、一連の介護過程の展開の理解を深める。

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

介護総合演習Ⅰ・Ⅱの内容を実習までに理解しておくこと。実習に備えて概ね30時間程度の自主学修が必要となる。休日や長期休業期間等を利用して実習施設に関することや関連制度について自主学習すること。

【履修上の注意・要望等】 実習中やむを得ず欠席の場合は、補習実習を行い、実習時間を確実にとる。

【評価方法・基準】 実習態度・実習への取り組み及び施設評価から総合的に評価する。(100%)

【教 材】 本校実習要項

参考文献は適宜指示する。

【キーワード】 コミュニケーション、生活支援技術、介護過程、個別ケア、介護観

【授業の目標及び到達目標】

授業目標：

本授業では、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理・身体的変化や特徴についての基礎的知識の習得をめざし、利用者のみならず家族等に対する精神的支援や援助をする上での対象理解につなげる。

到達目標：

1. 発達の定義、発達段階、発達課題について理解できる。
2. 老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、生涯、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解できる。
3. 高齢者に多い症状、疾病等と支援の留意点について理解できる。
4. 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解できる。
5. 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解できる。
6. 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする者」を、生活の観点から捉えることができる。

【授業の内容及び方法】

発達の定義、発達段階、発達課題を介護者自身の青年期の段階から理解し、老年期へと理解をすすめる。老化に伴う心身の機能の変化や疾病が、高齢者の心理や日常生活にどのような影響を及ぼすかを学び、それらの変化に合わせて、どのような対応や配慮が必要であるかロールプレイングを取入れ、役割変換することで理解を深める。また、自己の体験や身近な高齢者とのふれあい体験と重ね合わせて学習を進める。パワーポイントは用いるが、学習者が自らのノートの作成（筆記）をすることで記憶に働きかける。

【授業の計画】

1. 人間の発達について理解し、生理的発達、心理的発達
 - ① 一般的な発達区分と介護職として関わる利用者の発達段階の意味の違い
2. 発達段階説と発達課題
 - ② エリクソン、ピアジェ、フロイトなどの代表的な発達段階説
 - ③ ハヴィガーストの発達課題
3. 老年期の発達と成熟 老年期の発達課題
 - ④ 老年期の人格(人格と尊厳・老年期の適応課題とパーソナリティ)
 - ⑤ 老いの喪失体験を価値転換する心理変化 (4・⑤A.B.5・⑤)
 - ⑥ 老年期のセクシャリティの影響
 - ⑦ サクセスフル・エイジングと老年期
4. 老化に伴うこころとからだの変化の日常生活（加齢に伴う身体機能と日常生活への影響）
 - ⑧ 知的・認知機能の変化と影響・精神的機能の変化と影響
 - ⑤ A. 老化を受け止める高齢者の気持ち
 - ⑨ 障害を受け止める高齢者の気持ち
 - ⑤ B. 身近な人との別れを受け止める高齢者の気持ち
 - ⑩ 防衛反応・回復力・適応力の変化と影響人格と尊厳を主軸にする介護
5. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点（病気と特徴、介護者が知っておくべき点）
 - ⑪ 呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、循環器系、
 - ⑫ 運動系、知覚系、脳・神経系
 - ⑬ 生活習慣病、精神系、感染症
 - (ア) 老化が及ぼす心理的影響、老化による身体的機能と心理的機能
6. 高齢者と健康 保健医療職との連携
 - ⑭ 受容共感、生活の質を評価する（QOLの考え方）
7. ⑮まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

教材・配布資料を使用し、予習・復習に関する課題を指示します。

（日常生活の中での高齢者とのふれあい、関わり体験からの学びを次回講義までに取得：1体験以上）

授業全体で、概ね30時間程度の自主学修が必要です。

【履修上の注意・要望等】

パワーポイントと配布資料、教材を使用し講義を進めます。グループワークを数回行います。

【評価方法・基準】

試験（50%）・課題提出（30%）受講態度（20%）

【教 材】

新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解（第3版）（中央法規）

【キーワード】

発達と老化

【授業科目】 認知症の理解 I

【単 位】 2

【学 期】 前期

【担当教員】 平川名都江

(自室番号 ***)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

本授業では「認知症」という疾患、治療方法を知り、認知症患者の心を理解できる知識習得を目指す。

②到達目標

「認知症」の症状と原因疾患の説明ができる。

「認知症」の診断・治療方法が理解できる。

「認知症の人のおかれた社会的・心理的環境の理解と本人本位の視点を知る。

【授業の内容及び方法】

教材を基本に「認知症」の理解ができるように質問をしながら学ぶ。

DVD やプリントで資料提供しながらより深く理解できるように概説する。

【授業の計画】

1. 認知症とは何か、特徴
2. 認知症ケアの歴史
3. 認知症ケアの理念
4. 認知症ケアの視点
5. 認知症の人の行動・心理
6. 脳のしくみ
7. 認知症の原因疾患
8. 認知症の診断と治療
9. 認知症の予防
10. 心理的な理解
11. 認知症の人の介護をしていくために
12. 認知症の人の体験
13. 生活に及ぼす影響
14. 環境のちから・生活の継続
15. 全体のまとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

日々の予習は・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

教材を予習してもらっておくと理解しやすい。

【評価方法・基準】

学修態度（30%）提出課題（20%）試験（50%）で総合的に評価

【教 材】

新・介護福祉士養成講座「認知症の理解」（中央法規）

【キーワード】

BPSD・認知症治療・脳のしくみ・認知症治療

【授業の目標及び到達目標】

①授業の目標

本授業は、認知症患者の方へのコミュニケーションや関わり方の技術が身につく、様々な症状にどのように対応していくかを考える事の出来る知識を習得することをめざす。

②到達目標

認知症のある人の特性の理解ができる。

認知症の方への基本的な関わりを理解・実践できる。

家族を含めた地域との関係にも配慮した介護の視点の習得ができる。

【授業の内容及び方法】

講義・学外授業・事例を使ったグループワーク

学外授業では実際のコミュニケーションを通して認知症の方の気持ちを理解し、自分自身のケアを振り返る機会となるよう学習する。

【授業の計画】

1. 若年性認知症の人の生活の理解と支援
2. 関わりの基本
3. 認知症の人の介護過程の展開
4. 認知症の人の介護過程の展開・事例を使って
5. 困難事例のグループワーク
6. 困難事例のグループワークまとめ
7. 寄り添いケア・認知症の方とのコミュニケーション (学外授業)
8. 寄り添いケア・認知症の方とのコミュニケーション (学外授業)
9. 寄り添いケア・認知症の方とのコミュニケーション (学外授業)
10. 寄り添いケア・認知症の方とのコミュニケーション (学外授業)
11. 寄り添いケア・認知症の方とのコミュニケーション (学外授業)
12. 在宅でのケアの実際
13. 家族の気持ち
14. 終末期ケア
15. 全体のまとめ

【授業外の学修（予習・復習等）について】

ニュースや新聞などの福祉情勢に目を向けていく。ボランティアなどを通して認知症の方とのふれあいの時間を作ってみる。概ね30時間の自主学修が必要。

【履修上の注意・要望等】

介護者と認知症の方の気持ちを考えながら授業に臨んでほしい。

【評価の方法・基準】

学習態度（30%）提出課題（20%）試験（50%）で総合的に評価

【教 材】

新・介護福祉士養成講座「認知症の理解」（中央法規）

【キーワード】

認知症介護・認知症・

【授業科目】 障害の理解

【単 位】 2

【学 期】 前 期

【担当教員】 奥典之

(自室番号 322)

秋里勇治 若林美佐子

(自室番号 142)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標】

本授業では、介護福祉士が障害の対象者の介護をする際に必要な福祉、医学、看護の知識を身に付けることを目的とする

【授業の到達目標】

障害ごとの原因や特性の理解、障害福祉の理念を理解し、説明できる。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点について説明できる

【授業の内容及び方法】

身体障害者、精神障害者、知的障害者の諸領域にわたって、3名の教員が領域ごとに講義を行う

【授業の計画】

1. 障害の概念【奥】
2. 障害者福祉の基本理念【奥】
3. 精神障害の種類と原因と特性①（うつ病など）【秋里】
4. 精神障害の種類と原因と特性②（統合失調症など）【秋里】
5. 知的障害の種類と原因と特性【秋里】
6. 発達障害の種類と原因と特性【秋里】
7. 障害がある人の心理【奥】
8. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響【奥】
9. 地域におけるサポート体制【奥】
10. チームアプローチ【奥】
11. 家族への支援【奥】
12. 身体障害①（視覚障害・聴覚障害・言語障害の種類と原因と特性）【若林】
13. 身体障害②（肢体不自由・内部障害の種類と原因と特性）【若林】
14. 難病の種類と原因と特性【若林】
15. まとめ【若林】

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：教科書と並行して進んでいくので、事前に読んでおくこと。

復習：配布した資料は整理し、授業の前後で必ず目を通し、理解を深めること。

- ・この授業を履修するにあたって、おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。上記の予習復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

障害児の支援にもつながる授業内容です。積極的に学ぶ姿勢で望んでください。

【評価方法・基準】

単元により、課題と小テストがありますので、その都度指示に従うこと。

定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）

【教 材】

参考図書 新・介護福祉士養成講座13巻（中央法規出版）

参考資料を随時配布します。

【キーワード】

身体障害、精神障害、知的障害、発達障害、障害の受容、ノーマライゼーション、権利擁護

【授業の目標及び到達目標】

- ①-1 本授業では、介護福祉士に必要な福祉・家政・医学・看護の知識が身につくことをめざす。
①-2 各日常生活行動への介護技術の根拠となる人体構造や機能及び機能低下などを理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や、心理的側面への配慮について理解を深めることができる。

【授業の内容及び方法】

日常生活動作ごとに、ころとからだの働きに関する基礎知識を理解し、ころとからだの働きが、一つひとつの生活行動と結びついていて、その基盤になっていることを理解する学習。さらに機能低下や障害による変化を理解し、異常、危険への対応や医療職との連携についてプリントの穴埋め記入をしたり、グループワークなどで学習し、小テストにより理解力を確認し学習意欲を高めることができる。

【授業の計画】

1. 「生きている」しくみの理解 (からだの成り立ちの理解)
2. 「生きている」しくみの理解 (生命活動を調節するしくみ)
3. 「生きている」しくみの理解 (外界の変化に対応し、調節・修復・再生するしくみ・一生のリズム)
4. ころのしくみの理解 (脳のつくりと働きの理解・ころと脳のつながり)
5. ころのしくみの理解 (人間の行動を引き起こすころのしくみ・社会的人間としての心のしくみ)
6. 身じたくに関連したころとからだの基礎知識
7. 機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 / 生活場面におけるころとからだの変化の気づき
8. 活動・移動に関連したころとからだの基礎知識
9. 活動・移動に関連したころとからだのしくみ
10. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響
11. 生活場面におけるころとからだの変化の気づきと医療職との連携
12. 食事に関連したころとからだの基礎知識
13. 食べることに関連したころとからだのしくみ
14. 機能の低下や障害が及ぼす食事への影響
15. 生活場面におけるころとからだの変化の気づきと医療職との連携

【授業外の学修 (予習・復習の指示、学修時間など) について】

予習：シラバスにより当日の講義に関する教科書の章をよく読んで基礎知識をつけておくことが望まれる。

復習：小テストは次回の講義時に返却するので、間違った事項について復習することが望ましい。

学修時間：日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して概ね30時間の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

ころとからだのしくみをまず自分のこととして学び、自らの身体を大切にすることを身につけ、また、介護も人の命を預かる職業であることを自覚し、積極的に学んでください。

【評価方法・基準】

終了時試験 (60%)、小テスト(20%)、受講態度 (20%) の総合評価とする。

【教 材】

最新介護福祉全書 12 ころとからだのしくみ メヂカルフレンド社

【キーワード】

医学 (解剖、生理学)、心理、看護、生活支援技術

【授業の目標及び到達目標】

①-1 本授業では、介護福祉士に必要な福祉・家政・医学・看護の知識が身につくことをめざす。

①-2 各日常生活行動への介護技術の根拠となる人体構造や機能及び機能低下などを理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や、心理的側面への配慮について理解を深めることができる。

【授業の内容及び方法】

日常生活動作ごとに、ころとからだの働きに関する基礎知識を理解し、ころとからだの働きが、一つひとつの生活行動と結びついていて、その基盤になっていることを理解する学習。さらに機能低下や障害による変化を理解し、異常、危険への対応や医療職との連携についてプリントの穴埋め記入をしたり、グループワークなどで学習し、小テストにより理解力を確認し学習意欲を高めることができる。

【授業の計画】

1. 入浴・清潔保持に関連したころとからだの基礎知識 /清潔保持に関連したころとからだのしくみ
2. 清潔保持に関連したころとからだのしくみ /機能低下・障害の及ぼす入浴・清潔保持への影響
3. 機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響/生活場面におけるころとからだの変化の気づき
4. 排泄に関連したころとからだの基礎知識
5. 排泄に関連したころとからだのしくみ
6. 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響
7. 生活場面におけるころとからだの変化の気づき
8. 睡眠に関連したころとからだの基礎知識
9. 睡眠に関連したころとからだのしくみ
10. 機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響/医療職との連携
11. 死のとらえ方
12. 終末期から危篤・死亡時のからだの理解
13. 死に対するころの理解、医療職との連携
14. 授業科目総合まとめ
15. 授業科目総合まとめ

【授業外の学修（予習・復習の指示、学修時間など）について】

予習：シラバスにより当日の講義に関する教科書の章をよく読んで基礎知識をつけておくことが望まれる。

復習：小テストは次回の講義時に返却するので、間違った事項について復習することが望ましい。

学修時間：日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して概ね30時間の自主学修をすること。

【履修上の注意・要望等】

ころとからだのしくみをまず自分のこととして学び、自らの身体を大切にすることを身につけ、また、介護も人の命を預かる職業であることを自覚し、積極的に学んでください。

【評価方法・基準】

終了時試験（60%）、小テスト(20%)、受講態度（20%）の総合評価とする。

【教 材】

最新介護福祉全書 12 ころとからだのしくみ メヂカルフレンド社

【キーワード】

医学（解剖、生理学）、心理、看護、生活支援技術

【授業科目】 医療的ケア

【単 位】 6

【学 期】 通年

【担当教員】 若林美佐子
木元妃登美

(自室番号：142)

(自室番号：)

【対象学生】 専攻科

【授業の目標及び到達目標】

(授業の目標)

本授業は講義で医療的ケアについて介護福祉士に必要な医療・看護の知識を身に付け、演習形式で質の高い医療的ケアの実践力を身に付けることを目的とする。

(到達目標)

- ①医療職との連携のもとで、介護福祉士がその業務として喀痰吸引や経管栄養などの医行為（医療的ケア）を、安全かつ適切に実施できるよう、必要な基礎知識をその意義から実施方法まで学ぶ。
- ②介護福祉士に求められる医療的ケアの法律的な背景や倫理、さらに医療的ケアが必要な利用者の身体的、精神的状態を理解でき、尊厳を守るケアが行えるようになる。
- ③医療的ケアに伴い、おこりうる危険性や急変時の対応など基礎的な知識を身に着けることができる。
- ④医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得した後、一人でモデルを使って確実に実施できるようになる。

【授業の内容及び方法】

介護に必要な医療的ケアの基礎を講義・演習形式で学ぶ。

【授業の計画】

1. 人間と社会
2. 保健医療制度とチーム医療
3. 安全な療養生活（1） たんの吸引や経管栄養の安全な実施の重要性
4. 安全な療養生活（2） リスクマネジメントの考え方と枠組み
5. 安全な療養生活（3） 救急蘇生と救急蘇生法
6. 救急蘇生法（演習）
7. シュミレーターを使った救急蘇生法（演習）
8. 感染予防と清潔保持（1） 感染予防の基礎知識
9. 感染予防と清潔保持（2） 職員の感染予防
10. 感染予防と清潔保持（3） 療養環境の感染予防（滅菌と消毒）
11. 健康状態の把握（1） 身体・精神の健康と急変状態について
12. 健康状態の把握（2） 健康状態を知る項目について
13. 消化器系のしくみとはたらき
14. よくある消化器系の症状
15. 経管栄養法の基礎知識
16. 経管栄養実施上の留意点
17. こどもの経管栄養
18. 経管栄養に関する感染と予防
19. 経管栄養により生じる危険及び急変・事故発生時の対応と事前対策
20. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応
21. 経管栄養で用いる器具と機材
22. 経管栄養の技術と留意点（1） 必要物品の準備と設置、実施前の利用者への対応
23. 経管栄養の技術と留意点（2） 経管栄養の実施手順と留意点及び実施中、実施後の利用者への対応
24. 経管栄養の技術と留意点（3） 経管栄養実施に伴う利用者の身体変化
25. 経管栄養の技術の留意点（4） 後片づけ、医療者への報告及び記録
26. 経管栄養に必要なケア
27. 経鼻経管栄養の実際（演習）
28. 経鼻経管栄養の実際（演習・実技評価）
29. 経鼻経管栄養の実際（演習・実技評価）
30. 経鼻経管栄養の実際（演習・実技評価・総括）
31. 経管栄養の実際（胃ろう）（演習）
32. 経管栄養の実際（胃ろう）＜半固形＞（演習）
33. 経管栄養の実際（胃ろう）（演習・実技評価）
34. 経管栄養の実際（胃ろう）（演習・総括）

- 35. 呼吸のしくみと働き
- 36. いつもと違う呼吸状態とたんの吸引
- 37. 人工呼吸器と吸引
- 38. 子どもの吸引について
- 39. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応
- 40. 呼吸器系の感染と予防
- 41. たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認
- 42. 急変・事故発生時の対応と事前対策

- 43. たんの吸引で用いる器具・機材について
- 44. 吸引の技術と留意点（1）必要物品の準備と実施前の利用者への対応
- 45. 吸引の技術と留意点（2）吸引の実施手順と留意点及び実施中、実施後の利用者への対応
- 46. 吸引の技術と留意点（3）吸引実施に伴う利用者の身体変化、吸引物の確認、記録と報告、片付け
- 47. 吸引の技術と留意点（4）吸引物の確認、記録と報告、片付け
- 48. 喀痰吸引に必要なケアについて

- 49. 口腔内の吸引（演習）
- 50. 口腔内の吸引<非侵襲的人工呼吸療法>（演習）
- 51. 口腔内の吸引（演習・実技評価）
- 52. 鼻腔内の吸引（演習）
- 53. 鼻腔内の吸引（演習・実技評価）
- 54. 鼻腔内の吸引（演習・実技評価・総括）
- 55. 口腔内及び鼻腔内の吸引（演習・総括）
- 56. 気管カニューレ内部の吸引<乾燥法>（演習）
- 57. 気管カニューレ内部の吸引<人工呼吸器装着者>（演習）
- 58. 気管カニューレ内部の吸引<浸漬法>（演習）
- 59. 気管カニューレ内部の吸引（演習・実技評価）
- 60. 気管カニューレ内部の吸引（演習・実技評価・総括）

【授業外の学修（予習・復習等の指示、学修時間など）について】

予習：シラバスにより当日の講義に関する教科書の章をよく読んで基礎知識をつけておくことが望まれる。「こころとからだのしくみ」や「介護の基本」、「生活支援技術」など、関連する科目が多数あるので、多科目も確実に習得しておくこと

復習：学んだことを振り返る時間を必ず持つこと。

・この授業を履修するにあたって、おおむね90時間程度の自主学修が必要となる。上記の予習復習に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、授業で学修した内容を自主学修すること。

【履修上の注意・要望等】

介護は人の命をあずかる職業であることを真摯に受け止め、真剣に学ぶこと

配布した資料は整理し、授業の前後で必ず目を通し、理解を深めていくこと

【評価方法・基準】

定期時試験（80%）、学習態度（20%）の総合評価とする

講義については、前期と後期に試験を行う

演習について、「喀痰吸引」では、口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内吸引すべて5回以上行い、5回目が誤りなく正確に行えたことで合格とする

「経管栄養」について、「胃ろうまたは腸ろう」「経鼻カテーテル」による経管栄養をすべて5回以上行い、5回目が誤りなく正確に行えたことで合格とする

【教材】

最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社

【キーワード】

医療的ケア 医行為 喀痰吸引 経管栄養 胃ろう 介護福祉士倫理綱領 感染 救急蘇生
リスクマネジメント 救急処置 ヒヤリ・ハット報告 摂食障害 呼吸障害